



平成28年度 学社融合実践集録



平成29年 3月

田辺市教育委員会

はじめに

平成 29 年 1 月 17 日、紀南文化会館において、子どもたちが語り継ぐ『田辺市地域語り部ジュニア発表会』を行いました。今年度も自分たちの住む地域の魅力を伝えるため、しっかりと調べ、分かりやすい文章にまとめ、堂々と誇らしげに語る子どもたちの姿に観客は聴き入っていました。

この他にも、今年度は 10 月 30 日に大塔地域が、11 月 20 日に中芳養地域が、3 年間にわたる共育コミュニティ本部事業の取組成果を発表しました。

当日公開した授業では、地域の方々にインタビューやアンケートをする中で、地域の抱える課題を見つけ、大人も子どもも一緒になって地域の将来について考える姿や、地域をより住みやすくするための工夫やヒントが話し合われている（対話的な学び）授業、また、防災に関する学習では、過去の災害について地域の方から学ぶ事を通して、地域の一員としての防災意識を高め、自分たちに出来る事を話し合う様子が見られるなど、学社融合の取組の良さが随所に見られる発表会でした。

参観された方々からは、「授業の中で地域の方の考えを聞かせてもらうことも大切だと思った。」「子どもたちがすごく成長しているなど感じた。」「教師・保護者・地域の方全体で育てているから、故郷を愛する子に育てているのだと思う。」等々の感想を頂きました。

これらの感想からも分かるように、田辺市の学社融合は年々その形も内容も進化し、地域に活気を呼び起こすだけでなく、子どもたちの学力向上にも寄与しているところです。

また、今年度からは共育コミュニティ本部事業として、上秋津地域（上秋津幼稚園・上秋津小学校・上秋津中学校・上秋津公民館）を新たに指定し、「未来へつなぐ ふるさと上秋津」 ～世代を繋ぐ・学びを繋ぐ・心を繋ぐ～をテーマに取り組んでいるところであります。

今後も、全ての園・学校での学社融合の推進を公民館と連携して進め、教育活動の充実と地域の活性化に努めてまいりたいと考えています。

最後になりましたが、お忙しい中ご講評頂きました越田幸洋先生に心よりお礼申し上げますとともに、本冊子（実践集録）が有効に活用され、田辺市の学社融合の実践がさらに前進することを期待しています。

平成 29 年 3 月

田辺市教育委員会 教育長 中村 久仁生

目 次

[小学校]

田辺第一小学校	1
田辺第二小学校	3
田辺第三小学校	5
芳養小学校	7
大坊小学校	9
稻成小学校	11
会津小学校	13
新庄小学校	15
新庄第二小学校	17
三栖小学校	19
長野小学校	21
伏菟野小学校	23
上秋津小学校	25
秋津川小学校	27
上芳養小学校	29
中芳養小学校	31
田辺東部小学校	33
龍神小学校	35
上山路小学校	37
中山路小学校	39
咲楽小学校	41
中辺路小学校	43
近野小学校	45
鮎川小学校	47
富里小学校	49
三里小学校	51
本宮小学校	53

[中学校]

東陽中学校	55
明洋中学校	57
高雄中学校	59
新庄中学校	61
衣笠中学校	63
上秋津中学校	65
秋津川中学校	67
上芳養中学校	69
中芳養中学校	71
龍神中学校	73
中辺路中学校	75
近野中学校	77
大塔中学校	79
本宮中学校	81

[幼稚園]

新庄幼稚園	83
三栖幼稚園	85
上秋津幼稚園	87
中芳養幼稚園	89

[講評]	91
------	----

(学社融合研究所 越田 幸洋 先生)

[学社融合実践集録]



平成 29 年 1 月 17 日(火)

『田辺市地域語り部ジュニア発表会風景』

学社融合活動実践報告

学校・園名 田辺第一小学校		公民館名 中部公民館
学社融合における学校・地域の様子 本校の校区には、2017年に生誕150年を迎える、和歌山県の誇る知の巨人「南方熊楠」の旧居や顕彰館があり、ゆかりの場所も多い。南方熊楠の長男・長女も本校で学び、自分の身近な人が熊楠と親交があったという児童もあり、本校児童や地域にとって南方熊楠はそれほど遠い人ではなく、親しみを感じる存在となっている。地域には、大変熱心に学校教育活動を支援してくれる人材が多く、従来から各教科・総合的な学習の時間・クラブ活動に、地域の方をゲストティーチャーとして招いた活動を取り入れている。また、平成21年度から3年間、「地域の教育力を生かした学社融合事業の推進」をテーマに教育委員会の指定研究に取り組んできた実績を継続しながら、さらに発展できるよう取組を進めている。		
活動名 熊楠学		学年・教科・領域等 3・4・5・6年・総合的な学習の時間
目 標	学校・園	<ul style="list-style-type: none"> 熊楠の研究する姿に学び、自分で考え、行動し、判断する力の育成。 学校や地域の歴史や伝統、地域の文化や自然を学び、学校や地域に対する誇りと愛情の育成。 学んだことを分かりやすく伝える作業や、地域の方々と共に学ぶ活動を通じて、伝え合う力の育成。
	地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> 地域の教育力（学識経験者や有識者）を有効に活用し、自分たちの住むまちへの誇りや郷土愛の育成。 児童の学びをさらに深め、先達に学び、未知の未来を創り出す力の育成。 生涯にわたり、継続して学び続けることのできる人材の育成。
支援者及び支援組織 熊楠学推進部（地域学習コーディネーター） 田辺観光ボランティアガイド 地域の方々 保護者		
取組の経過（日時・ねらい・活動内容等）		
学年	テーマ	内容
3	まちたんけん まちの移り変わりや伝統	<ul style="list-style-type: none"> 熊楠にゆかりのある場所を探そう。 商店街やまち並みの移り変わりを調べよう。 地域に残る伝統行事を調べよう。
4	南方熊楠	<ul style="list-style-type: none"> 熊楠の生涯について調べよう。 南方熊楠について分かりやすく発信しよう。
5	熊楠が体験した自然 学校の歴史と伝統	<ul style="list-style-type: none"> 熊野古道を歩き、熊楠が愛した自然を体験しよう。 本校ゆかりの偉人やわたしたちの学校の歴史を調べよう。 先輩の思いや願いを聞き取ろう。
6	まちの歴史	<ul style="list-style-type: none"> 城下町や田辺城の様子を探ろう。 身近にある熊野古道を調べよう。 調べたことを分かりやすく発信しよう。
<p>熊楠学は、南方熊楠について学ぶというだけでなく、熊楠から学び、いろいろな方向に発信していくという取組である。熊楠学では、学校と地域の人々が一緒になって教育活動を創造している。さらに、地域の方々や学校職員で構成する「熊楠学推進部」を設け、学びの充実を図っている。</p> <p>3・4年生では南方熊楠の生涯に触れながら自分たちの校区について学び、5・6年生でその学びをさらに広げる。5年生は合宿で熊野本宮を訪れた際に、田辺城初代城主浅野家のお墓を訪れたり、熊野古道を歩いたりした。6年生は校区に残っている田辺城の石垣や水門などについて学習した。さらに、江戸時代に安藤直次と共に活躍した成瀬正成ゆかりの地、愛知県犬山市を修学旅行で訪れた。修学旅行前には、行き先についての事前学習を熊楠学推進部の方々の協力で行った。</p> <p>熊楠学の集大成として、6年の3学期には地域の方々をお招きして、パネルディスカッションによる学習成果の発表を行っている。</p>		

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> 学校職員だけでは教えることが難しい地域の歴史を、地域の方から教えていただくことができた。 専門的な知識をもった方に校区を案内してもらうことで、より具体的に地域の歴史に触れることができ、児童に興味や関心をもたせることができた。 伝え合う力を育成するための場を、系統的に設けることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ゲストティーチャーとして来てくださる地域の方々との日程調整は、年度を通じた計画が必要である。 学習内容を各学年に対応させるために、担任とゲストティーチャーの方が、事前に学習目標やめあてを共有しておくことがとても重要である。
* 子供にとつて	<ul style="list-style-type: none"> 修学旅行の行き先についての事前学習によって、目的をもって各地域を訪れることができた。また、修学旅行終了後に訪れた地域の魅力を伝えるパンフレットを、各自作成することができた。 自分たちの住む地域の歴史を学ぶことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史を学ぶなかで難しい言葉がたくさん出てくるので、それらを理解させるのが大変である。
* 子供にとつて	<ul style="list-style-type: none"> 学習の成果を地域の大人に披露するだけに留まらず、質問に回答することで、学習をより深いものにするのができた。 学習を通じて、児童に対する地域の思いを肌で感じる事ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域と一緒に学んだことを一時的なものとしてせず、これから先の人生にいかしてほしい。 地域のなかで大切にされ生きていること、そして自らも地域の一員であることを忘れないでほしい。
地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> 自分の学校や地域のことを調べることで、郷土愛を育むことに繋がっている。 地域の大人とともに学習することで、教諭（縦）や同級生（横）との繋がりとはいくつかの繋がりが生まれている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の力が、学校側の教育効果を最大限に発揮できる環境を継続的に提供するため、人材の確保に努める必要がある。 成果発表に参加する大人に、授業全体のイメージやめあてなどを事前に説明して、理解してもらう必要がある。
評価及び次年度に向けての取組の方向		
<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門的な知識をもった方に児童の学習活動に入ってもらったことで、自分たちが普段何気なく暮らしている地域に、歴史を感じることでできる建造物がまだ残っていることや、素晴らしい先人たちがいたことを効果的に学ぶことができた。 学校職員とゲストティーチャーが、事前に授業に関する打ち合わせを行うことで、互いの役割分担を明確にでき、より効果的な授業を展開することができた。 		
次年度に向けての取組の方向		
<p>平成22年度から始めた『熊楠学』の取組は、6年が経過した今もさらにその活動は深化し続けている。その名の由来でもある、南方熊楠について学ぶというだけでなく、熊楠の探究する姿を学ぶことは、現代を生きる児童の学習にも有用である。また、児童が地域にむけて学習の成果を発信することが、学校と地域の双方向性の学びを提供する機会となり、児童のコミュニケーション能力を高めることにも繋がっている。</p> <p>熊楠学から学ぶことは、単に一学習で終わることなく、これからの社会をたくましく生き抜いていく力そのものであると確信し、来年度以降も授業に一番有効なタイミングを計りながら、地域の力を活用させていただきたい。</p>		

学社融合活動実践報告

学校・園名 田辺第二小学校		公民館名 東部公民館・南部公民館
学社融合における学校・地域の様子 本校は「地域活動に参加し、ふるさとを愛する子どもを育てる」を教育目標のひとつに掲げ、本校区にある東部公民館と南部公民館との連携を図りながら学社融合の取組を進めている。 具体的には、第2土曜日に実施の「公民館いけばな子ども教室」への参加、公民館主催文化展示会への作品出品、幼・保・小・中・専門学校及び地域との地震津波避難合同訓練の実施などに取り組んできた。また本年度は、6年生が総合的な学習の時間に公民館や地域の方々等のご協力を得ながら、地域に出掛けて歴史学習・語り部活動に取り組んだ。その後、現地報告会を開催し、今年度の紀南文化会館の発表に向けて練習に取り組んでいる。		
活動名 再発見！ふるさと「たなべ」ウォッチング		学年・教科・領域等 6年・トライタイム(総合的な学習の時間)
目 標	学校・園	・昨年度に引き続き、自分たちが住む地域の良さを知り、愛着をもつ児童を育てていきたい。 ・昨年度の資料や発表をもとにし、調べる力・協力する力・表現する力を育てていきたい。 ・自分たちでは、調べられないことをゲストティーチャーに教えていただき、聞く力・まとめる力を育てていきたい。
	地域(公民館)	・子どもたちと地域の方々との交流の橋渡し役となる。(公民館) ・地域の良さを伝えることによって、子どもたちとの交流を楽しむとともに、子どもたちに地域の良さを伝えることで、自分たちも再度地域について見直す機会とする。(地域)
支援者及び支援組織 田辺第二小学校 東部公民館 南部公民館 田辺市教育委員会文化振興課 市立図書館(歴史民俗資料館) 闘雞神社 神楽神社 覚照寺 地域にお住まいの方々		
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等)		
月日	活動名	活動内容
5月6日	地域の中にある6つの史跡から選ぶ	パワーポイントで各史跡について説明をし、自分が調べたい場所を選ぶ。
5月30日 ～6月6日	調べ学習	○各グループで以下の点について取り組む。 ・学習を進めるための資料類を用意する。 ・インターネットで各場所を詳しく調べる。 ・内容をまとめる。
6月15日	ゲストティーチャーに教えていただく質問を考える	自分たちだけでは、分からないこと・疑問に思うことを考える。
6月20日	ゲストティーチャーによる講義	事前に質問を伝え、調べ学習で分からなかったことなどについての話を聞く。(補足も含め)
6月21日 ～7月11日	原稿作り・資料作り	各史跡(グループ)につき、1分程度の文を作る。英語に変換しにくいように配慮する。(東陽中学校に提出する)
9月5日 ～10月24日	「5年生に発表」するための計画・練習	各グループに分かれ、発表者・資料作り・提示など役割を決め練習をする。
10月27日	「5年生に発表」	・6年生は、それぞれの役割に分かれて発表する。 ・5年生は、質問や感想を発表する。
10月13日 ～1月13日	東陽中学校との連携	・本番に向けての計画を打ち合わせる。 ・公民館を利用して、小・中合同練習を行う。
1月17日	地域語り部ジュニア発表会	紀南文化会館で発表する。

	成 果	課 題
学校・園	・学校職員だけでは教えることができない地域の歴史を、地域の方に教えていただくことができた。職員にとっても初めて知ったことが多かった。 ・地域の文化遺産に対する地域の方々の思いを知ることができた。 ・打合わせを行うことで、計画的に取り組むことができた。	・調査に時間がかかるため、学習時間の確保が難しい。 ・教員も地域の歴史に詳しくないため、資料の収集に苦労した。今後も地域の歴史について、教員の研修を深める必要がある。
*子供にとって	・地域の方々との交流の中で、目上の方に対してきちんと話そうとする姿勢が見られた。 ・昨年度の情報を活かし、インターネットで調べる力やグループで協力する力など様々な面で成長することができた。	・収集できた資料の内容が難しく、児童だけで読み込むのは困難なことが多かった。 ・地域の歴史について、さらに深く追究していきたいと思っている児童もいるので、継続して学習をしていく必要がある。(中学校との連携)
*子供にとって	・現地で居合わせた地域の方々に対して、実際に語り部を行い、地域の方々知らないことも語ることができた。児童はそれが自信に繋がりが、語り部の意義を確認することができた。 ・東陽中学校との交流で、話し方の工夫を知ったり英語に親しんだりすることができた。	・公民館や地域の方々との交流は必要になってから慌てて取り組むのではなく、普段から進めておく必要がある。
地域(公民館)	・学校と地域の方との間の橋渡しとしての役割を十分に果たすことができた。中学校との打合わせを十分に行うことができた。 ・中学校と小学校の交流では、双方とも語るタイミングや話すスピードなどの大切さを実感することができた。 ・学習したことを発信することで、地域にお住まいの方にもふるさとの歴史について知ってもらうことができた。	・児童との関わり方や話し方を工夫することが必要である。 (興味や関心の持たせ方 話すスピード 言葉の選び方 等々) ・ゲストティーチャーとの打合わせをもう少し綿密にする必要がある。
評価及び次年度に向けての取組の方向 ・今まで教師も児童も知らなかった(気がついていなかった)地域教材を発掘することができた。何気なく通り過ぎていく地域の風景の中にある歴史的な場所や史跡について学ぶことができ、大変有意義であった。 ・今年度の語り部活動は、「地域語り部ジュニア発表」に向けての取組であったので、来年度は保護者や地域の方々を対象としたい。さらに、ゲストティーチャーの紹介をしていただけるように、公民館との連携を積極的に行いたい。 ・来年度以降、今年以上に綿密な計画を立て、さらに詳しい形で教育計画の上に位置づけるようにしていきたい。時間確保にも取り組んでいきたい。 ・学習に取り組む前の段階から、広く地域に呼びかけて情報提供者を求めていきたいようにしたい。 ・地域の歴史について、教員の研修を深めていきたい。		
		

学社融合活動実践報告

学校・園名 田辺第三小学校		公民館名 西部公民館	
学社融合における学校・地域の様子 本校は、西部公民館、西部センターや天神児童館と共同・連携しながら、各種事業や行事を行っている。地域社会の中で児童をいかに育成していくかは、本校にとっての大きな課題である。そのため、地域を知る取組として、地域に出かけたり、体験的な活動を通して積極的な地域との交流を図るようにしてきた。 本校は、これまで地域とともに同和教育、人権教育に取り組む中で、西部センターとは「天神町の教育を進める会」で、天神児童館とは「西部子どもエンパワーメント支援事業」などで連携し進めてきた。西部公民館とは、公民館と学校を結ぶ事業や取り組みについて協議し、OK先生(GT)などの派遣等で連携・協力してきた。			
活動名 西部地域学社融合推進協議会		学年・教科・領域等 各学年・国語科・算数科・生活科・特別活動・総合的な学習の時間	
目 標	学校・園	①子どもの教育をよりよいものとする。 ②地域の教育力を向上させ、郷土愛を育てる。 ③学社融合(生涯学習)を推進し、更に充実する。	
	地域(公民館)	①「地域の子どもは、地域の中で育てていく。」という意識を更に高めていく。 ②学社融合事業をもっと地域に浸透させていく。	
支援者及び支援組織 西部公民館および西部地域自主防災協議会 各地区の町内会			
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 5月 3年 天神崎の学習(2日) 4年 天神崎クリーン作戦(2日) 3年 町探検(18日) 6月 2年 町探検(8日) 5年 西部花いっぱい運動・土作り(27日) 7月 4年 俳句をつくろう(6日)、5年 西部花いっぱい運動・花植え(14日) 9月 2年 月見団子作り(13日) 10月 2年 児童館探検(4日) 5年 天神崎学習、日和山観察(27日) 6年 ミシン学習(25日・27日) 11月 1年 手作り遊び(10日) 3年 昔のくらし体験(29日) 4年 俳句をつくろう(9日)、天神崎クリーン作戦(17日)、ランドゴルフ体験(20日) 5年 西部花いっぱい運動(18日) 4・5・6年 クラブ活動 学校開放週間(7日～13日) 6年 児童館祭り参加(5日)、防災学習(13日)タウンウォッチング(13日) 12月 1年 かたかな学習(6日) 5年 夢の教室(2日) 2月 3年 そろばん学習(1日) 5年 ミシン学習(15日・16日) 3月 4年 俳句をつくろう			
(2016年)西部地域学社融合推進協議会の事業との取組の様子			
			
			
			
			

	成 果	課 題
学校・園	各学年共、学習ボランティアの方との学習が定着し、学力向上を目標とした授業展開ができています。また経験からアドバイスいただくことで学習活動を広げ、深めることができました。児童が意欲的に取り組めるような学習内容を組み立てることで、楽しく授業を進められています。「家庭学習の手引き」を配布し、自主的に家庭学習に取り組めるように工夫している。また、基本的な生活習慣の見直しに向けた「田三小 BO OK はなまるデー(ノーゲーム、ノーテレビの日:毎月13日実施)」の取組も定着し、各家庭に基本的な生活習慣を意識付ける手立てとしても良い効果が現れ、保護者から肯定的な感想も出てきている。 長年の活動が評価され、平成28年度「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰を受賞した。	西部地域学社融合推進協議会との連携および、マンパワー(地域コーディネーター・学習ボランティア:OK先生)の拡大と連携を図り、各事業の充実と今後を見据えた事業展開を行うことが大切である。また、西部地域学社融合推進協議会の今後の目ざす方向性を確立させる必要がある。
*子供にとって	地域の方を交えて専門的な知識に触れることにより、学習が深まり、児童の学習意欲に繋げることができた。学力を付けるだけでなく、話す力や聞く力をつけることもできた。また、学習支援ボランティア(OK先生)の励ましや賞賛の言葉掛けで学習する喜びを味わい、地域の方と触れ合う良さを感じることができた。大人の方との接し方を学ぶこともでき、社会性も育っている。	学社融合の取組を通して、地域の中で生きる力を育むと共に、学力向上を目標に、全体の児童に主体性をもって学習に取り組む姿勢と、基礎・基本の力を定着させる必要がある。地域を大切に、その中の一員であることを自覚して生活を送る心を育てることが望まれる。
*子供にとって	毎年恒例のように地域の方がOK先生として学校に来てくれることで、子どもたちとの交流が深まり、安心して学習に取り組めるようになった。	これらの活動を通して、自分自身が感じたこと、体験したことを大きな糧として、さらに様々な場面で生かすことができればと思う。
地域(公民館)	地域コーディネーター自らが、学校と調整を行い、学習支援ボランティアに連絡調整を取っており、地域主導型の学社融合事業が着実に浸透している。 長年の活動が評価され、平成28年度「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰を受賞した。	学習支援ボランティアの固定化や高齢化が進み、何らかの手立てを講じていかなければならない時期である。地域コーディネーターのネットワークを当事業に取り込みながら、地域の幅広い年齢層の方々や人材発掘に力を注いでいかなければならない。
評価及び次年度に向けての取組の方向 学年の授業に合わせて、学習ボランティアの方々が協力して下さることにより、児童が生き生きと学習に取り組んでいる。学習したことで得られる達成感や成就感を味わい、次の学習を楽しみに待つようになってきた。また、児童の学力が身に付いてきたことで、どの児童も満足いく活動を味わうことができた。公民館便りや学校便り等で取組の様子や事業の報告をすることにより、町内会や老人会、各種団体等地域全体に伝わり、関係団体や学習ボランティアの方々に理解を得られ、協力をしていただけるようになってきたと考えられる。 また、昔の暮らしや遊び、俳句学習・ミシン学習など、普段馴染みのない学習の要領が、よく分かるようになってきた。その結果、指導方法にも、より効果が見られるようになってきている。授業を通しての会話や触れ合いの中から温かな人間関係が築けるようになってきた。 学校便りや育成会広報誌などを活用し、学校や児童の様子を広く地域の方に知らせていき、運動会には地域のお年寄りを招待し、交流種目を通して親睦を深めるような取組を進めてきた。 その結果、交流した喜びの気持ちを伝えてくれるようになってきたり、児童も楽しんで活動することができてきている。お年寄りを大切にすることも育ってきている。 また、サークルの方との協働で定期的に読み聞かせ活動を行うことにより、今まで以上に本に親しみ、読み聞かせに興味を持つことができるようになった児童もいる。		

学社融合活動実践報告

学校・園名 芳養小学校		公民館名 芳養公民館
学社融合における学校・地域の様子 芳養小学校では、「芳養共育コミュニティ本部」を学社融合の基盤とし、「子どもの安心、安全に関する取り組み」「地域の伝統文化の継承」「公民館との連携した取り組み」を中心に据え、学校・公民館・地域・保護者が一体となって子どもを共育するための方針を話し合い、取り組みを進めている。 芳養地区では、地域の教育力を授業に取り込むために、「芳養地域人材バンク」という名称で、学校教育に携わってくれる方を登録するシステムをとっている。「芳養地域人材バンク」に登録していただいた方々を、SP(スクールパートナー)と称し、生活科や書写、総合的な学習の時間等の授業に参画していただいている。		
活動名 スクールパートナーとの学習		学年・教科・領域等 全学年・生活科、書写、総合的な学習の時間
目 標	学校・園	地域の人材を積極的に授業に活用することで、郷土に伝わる文化や産業に対して興味・関心を持たせる。児童が地域の方々や触れ合うことに喜びや発見を感じ、関係を深めるとともに、地域の方々を持つ専門性によって、より確かな知識や実践力を育む。
	地域（公民館）	学校の授業目的に適した人材を紹介し、地域と学校を繋げ、地域力の向上を図る。
支援者及び支援組織 芳養共育コミュニティ本部(芳養小学校 芳養公民館 育友会) 芳養地域人材バンク		
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 「芳養地域人材バンク」には今年度39名の方が登録してくれている。芳養地域人材バンク登録者はSP(スクールパートナー)と称して授業に参画する。募集は随時行っており、芳養公民館が管理している。毎年、公民館報で地域へ呼びかけたり、運動会や公民館作品展で授業の様子を写真パネルで紹介したりして、学社融合の取組を地域へ発信している。 スクールパートナーが参画した授業をするにあたり、毎年1学期に開く芳養共育コミュニティ本部会議で、登録者の確認を行っている。実践に向けては、主に学級担任とスクールパートナーが事前に打合わせを行い、学習内容や実施する際の担任・スクールパートナーの役割を確認している。 実践したことは、「学社融合実践記録」にまとめ、活動内容を学校・公民館で把握し、次年度にも引き継いでいきやすいようにしている。 (芳養人材バンクの方と取り組んだ授業) 1年生…よもぎ団子作り 昔の遊び体験 2年生…さつまいものむしパン作り 3年生…毛筆 梅ジュース作り 4年生…心のバリアフリーを広げよう福祉体験学習 5年生…田植え体験 6年生…昭和南海大地震のことを学ぼう なかよし…ひじきご飯を作ろう 3年生以上…芳養浦音頭の練習 また、放課後は、多目的教室や体育館などを開放し、地域人材バンク登録者の方が中心となり、「芳養ふれあい教室実行委員会」を組織し、「芳養ふれあい教室」を運営している。教室は通常の教室が9教室(囲碁・キンボール・フェルト・茶道・かきかた・中国語・英語・生け花・読み聞かせ)で前期・後期に分け、実施している。特別教室として、梅ジュース作りや桜もち作り教室をした年もある。		

	成 果	課 題
学校・園	・スクールパートナーである地域の方と活動する中で、児童や学校の様子を知ってもらい、地域の人々との距離が縮まった。また、「児童の健全育成」に向け、意見を交流し、双方向の関わりが深まった。	・地域の方々に関わることが児童の学びや豊かな経験につながっているため、今後も公民館と連携協力して「芳養人材バンク」の活動の発信や人材確保をしていく必要がある。
* 子供にとつて	・スクールパートナーの方の経験や実体験に基づいた言葉かけにより、児童の学びがより深いものとなった。スクールパートナーの方と学習した後も、通学路で出会った際に挨拶をするなど、地域の方との関係が深まっている。	・児童が学んだことや感じたことを発信する手立てや機会が少ない。授業の場においては、スクールパートナーの方に対するマナーや作法をより指導していく必要がある。
* 子供にとつて	・学校の先生だけでなく、地域の方と共に授業を行うことで、子供たちのコミュニケーション能力や豊かな人間性の向上に繋がった。	・学校と密に連絡を取り合い、児童が日常生活や自分の将来に生かすことのできる体験を提供していく必要がある。
地域（公民館）	・子供たちと一緒に授業をする機会を作ること、スクールパートナーの生きがいづくりに繋がっている。また、学校の様子を知ってもらうことにより、学校と地域が一体となって、子供たちを育てるという意識を持ってもらうことができる。	・現在、「芳養地域人材バンク」に登録していただいているスクールパートナーは、高齢の方が多い現状にあるため、今後も事業を続けていくためには、保護者などの若い世代のスクールパートナーの確保・育成が重要である。
評価及び次年度に向けての取組の方向 ・スクールパートナーの方の専門性や経験を授業で生かしてくれるので、児童の学びが深まっている。また、個人だけでなく、芳養婦人会や芳養老人会といった団体の結束力も強く、児童の人数や授業のニーズに応じて人数を調整してくれるなど、よりよい授業になるように柔軟に対応してくれる。 ・継続して取り組む中で、児童とスクールパートナーとの間に繋がりが生まれ、放課後等もコミュニケーションの機会が増え、世代を超えた人と人との結びつきが生まれている。 ・「芳養地域人材バンク」への登録を呼びかけているが新規登録者は少ない現状にある。 ・継続的に実践している授業は引き継がれ、実践内容の深化が見られる。 ・新たな授業の創造に向け、積極的に共育・協働について職員とスクールパートナーが話し合う場を設ける必要を感じる。		
 		

学社融合活動実践報告

学校・園名 大坊小学校		公民館名 芳養公民館
学社融合における学校・地域の様子 大坊小学校の全校児童数は18名であるが、現在団栗地区の児童は在籍していない。しかし、運動会の準備には大坊・団栗両区の青年団の皆さんが積極的に手伝ってくれ、運動会にも両区からたくさんの方々が参加してくれている。また、学校に対する愛着も強く、児童の学習発表等の学校行事や合同防災教室等の地域と協賛の行事にも大勢の方々が参観してくれ行事を盛り上げてくれている。毎年行われている白楽会とのしめ縄作りでは、地域のお年寄りとの交流が深まり、学年が上がるにつれてしめ縄を作るのが上達している。クラブ活動でも地域の方を講師としてお招きし子どもたちを指導していただいている。 このように本校は地域と共にある学校であり、地域、家庭、学校が一体となって子どもたちの育成に努めている。		
活動名 地域の方に学ぼう		学年・教科・領域等 3・4・5・6学年・特別活動(クラブ)
目 標	学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々の知識や経験を生かし、積極的に他者と関わろうとする態度を育てる。 ・体験や物作り活動を通して、コミュニケーション能力の向上を図ると共に自他に関心を持つ。
	地域(公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と地域が一体となって健全育成に取り組むことにより、子供たちのコミュニケーション能力や人間性の向上に努める。
支援者及び支援組織 地域の方々 大坊小学校育友会		
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 本来のクラブのねらいは、同好の児童が、所属する集団の生活を楽しく豊かなものにする意図の下に、共通の興味・関心を追求する活動を自主的、自発的に行うことであるが、本校の場合、極小規模の学校であるため、3年生以上の児童が楽しめるクラブを数種類、計画し実施している。 4月 8日(金) 本年度の地域の方々と連携したクラブ活動を「絵手紙・おやつ作り・フラッグフットボール」と決定し内容と講師先生を確認した後、講師先生に依頼した。 5月10日(火) 絵手紙の講師栗原さんと当日の進め方について打ち合わせを行う。この際、講師先生から「絵手紙はただ作るだけでなく、出す相手のことを思いながら描くことに価値がある。今年は出す相手をあらかじめ決めておいて制作に入るようにした方がよい。」というアドバイスをいただき、事前に子どもたちに出す相手を決めておくよう指導した。 5月20日(金) 栗原さんから絵手紙制作の指導を受ける。 5月21日(土) 絵手紙を自分が決めた相手に出す。 6月 2日(木) 岸本さんとおやつ作りについて打ち合わせを行う。岸本さんは、「今回のおやつ作りの材料におからという子どもたちにとって普段なじみのないものを使用したり、豆腐を使ったわらび餅を作ったりして、子どもたちの食に対する視野を広げたい。」というお話をされた。 6月13日(月) 岸本さんと当日の進め方について打ち合わせを行う。 6月17日(金) お菓子作りを行う。子どもたちは新しい食材に興味を持ち、意欲的に取り組んでいた。 9月 8日(木) 中本さんと「フラッグフットボール」の日程等を話し合う。 11月18日(金) 中本さんより「フラッグフットボール」の指導を受ける。		
  		

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・職員では指導できない内容について取り組むことができ、多様なクラブ活動を実施することができた。 ・地域の方に指導していただく事で、学校や児童の様子を知っていただく良い機会になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間行事計画の中に位置づけているが、講師先生との打合わせがもう少し計画的に行えるようにする。 ・天候に左右されるクラブがあるため複数の日を設定したいが、講師先生の都合もあるため実施日の確保が難しい。
* 子供にとつて	<ul style="list-style-type: none"> ・普段なかなか経験できない活動を体験することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもから地域に発信したり、働きかけたりするような、子どもが主体となるような活動も考えていきたい。
* 子供にとつて	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちが積極的に地域の方と接することで、自分の地域のことに関心を持ち、ふるさとを愛する心を育むことが出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちが将来、地域の後継者として活躍していけるよう自覚を促していく。
地域(公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と地域が共同で事業を行うことで、地域で子供たちを育てるという意識を定着させることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちと地域住民とが関わり合える事業を新たに考え、企画していく必要がある。
評価及び次年度に向けての取組の方向 <ul style="list-style-type: none"> ・日頃あまり経験できないことをクラブを通して経験することができた。 ・絵手紙やおやつ作りで地域の方々の知恵や技術を学ぶことができた。 ・年間計画の中に位置づけ、活動できた。 ・教えていただいたことが積み上がっていくようになりたい。 ・フラッグフットボールは、ここ数年間取り組んでいるので、講師先生を招いてのクラブ実施までに、教職員でルール等のおさらいを子どもたちにさせておくと、もう少しスムーズに進めることができる。 ・来年度も地域の方を招いてクラブを実施する予定であるが、講師先生に学校へ来ていただく意義を浸透することと新しい講師先生の確保が課題である。 		
   		
子どもが作った絵手紙		おからクッキー作り
		フラッグフットボール 作戦会議

学社融合活動実践報告

学校・園名 稲成小学校		公民館名 稲成公民館	
学社融合における学校・地域の様子 「共育コミュニティ本部事業」の指定を受け、2年目の年である。テーマを引き続き『つなげよう 広げよう 稲成の「共育」！～新しい時代に向けて～』とし、昨年の成果と課題を踏まえながら、さらなる取組を行ってきた。取組の柱を①地域人材を生かした学習による「学校力」の向上、②保護者との信頼関係を基盤にした「家庭力」の向上、③ふるさと学習を通して育む「地域力」の向上とし、2年目の体制を整えた。今年度は、授業作りでは特に、本地域ならではの「ふるさと学習」のカリキュラムの確立に力を注いだ。また環境整備においても、地域のボランティアさんの力を借り、長年の懸案だった「杉の子ランド」の再生整備を行うことができた。来年は3年目、最終年度となる。本取組を振り返り、さらに発展させていきたい。			
活動名 地域人材を活用した「ふるさと学習」の取組		学年・教科・領域等 3・4・5・6年生・総合的な学習	
目 標	学校・園	・地域の教育資源・地域人材を積極的に授業に活用することで、児童により高い関心、意欲を持たせる。 ・「ふるさと学習」を積み上げ、地域を学び、地域への愛着を深める。	
	地域（公民館）	・地域の教育資源・地域人材を発掘する。 ・地域人材の知識や技能を生かし、学校と協力して授業づくりを研究する。 ・地域の子どもを「学校・家庭・地域」で一体となって育てると意識の向上を図る。	
支援者及び支援組織 稲成地域共育コミュニティ地域本部 稲小いわき会 稲成校区協議会 稲成公民館運営協力委員会			
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 今回は総合的な学習の時間に地域に出向いて調べ、また学習ボランティアさんに学校に来ていただくなどして、一緒になって取り組んだ「ふるさと学習」について報告する。			
学年	内 容	学習支援ボランティア	 <p>6年 高山寺 多宝塔について学ぶ ～旅の僧、阿涼さんにまつわるお話を初めて知りました。私たちが語りついでいきます。～</p>
3	総合 「稲成のお地蔵さま ～下村地区・谷地区～」 ☆地域の方々の願いがともよく伝わってきた学習でした。	谷地区：山下さん・越内さん 下村地区：平さん・前田さん はげ原さん	
4	総合 稲成の名物「稲成なす」 ☆800年以上前からあると言われている「稲成なす」を受け継いでいきたいと思います。	荒光地区：榎本さんご家族	
5	総合 「伝統文化を受け継ごう ～稲荷神社と獅子舞～」 ☆3地区の獅子舞は、僕たち、私たちが受けついでいきます！	山田公民館長さん 荒光地区：辻本さん 市文化振興課の方	
6	総合 「高山寺 阿涼さん物語 ～悲願の多宝塔建立～」 ☆旅の僧、阿涼さんと稲成糸田村の人々の温かなふれあい、そして多宝塔建立までの貴重な物語を知ることができました。	池田住職・曾我部住職	
 <p>3年 大坊坂近くのお地蔵さん</p>		 <p>4年 稲成なすの収穫！おいしそう！！</p>	
		 <p>5年 児童による獅子舞を文化祭で披露</p>	

	成 果	課 題
学校・園	・今年度は、「ふるさと学習」のカリキュラムを作り上げることができた。特に、6学年では「高山寺の多宝塔」にまつわるお話を物語にし、ジュニア語り部として、他校に発信することができた。 ・また地域の方々や環境支援ボランティアさん方の力を借り、今年度は学校裏の「杉の子ランド」の整備に着手し、秋には見事に再生オープンすることができた。今では様々な学習に活用している。 ・クラブ活動では、屋内スポーツ・切り絵クラブ・家庭科クラブに地域人材を導入することができた。	・今年度の「ふるさと学習」をさらに進化させる。特に中学年の内容が、中・長期的なものとなるよう計画を練る。 ・「杉の子ランド」のメンテナンスを年間計画に位置づけ、今後安全に長く利用できるよう管理する。 ・クラブ活動への地域人材の定着を図る。
* 子供にとつて	・「ふるさと学習」では、支援ボランティアさんに自分たちの知らなかったことを教えてもらい、またたくさんふれ合うことで、ボランティアさんではなくてはならない存在となった。	・「ふるさと学習」の内容の発信が、今は「ふれあい文化祭」のみとなっている。地域への発信の別の方法も検討したい。
* 子供にとつて	・地域の方が授業やふるさと学習に参画することによって、興味・関心・意欲が高まった。また、地域の方々顔見知りになり、小さな結びつきも生まれている。	・これまで以上に進んで地域に出向き、地域の一員であることの自覚を持ち、ふるさと「稲成」に誇りをもつ人になってほしい。
地域（公民館）	・学校の授業に参画することにより、地域の人材が持っている知識を振り返る機会となった。 ・子どもたちと触れ合うことで、小さな結びつきが生まれ、楽しみが生まれた。	・「共育コミュニティ本部事業」の取組を通し、地域・公民館・学校との連携をさらに深め、より充実した活動に発展させていきたい。 ・地域人材・地域にある教育資源をさらに発掘し、学習支援ボランティアとして学校に関わっていききたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向 評価 ・「共育コミュニティ本部事業」2年目の今年度の大きな成果は、「ふるさと学習」のカリキュラムの確立と「杉の子ランド」の再生オープンの実現である。今秋から子どもたちは、「杉の子ランド」で様々な学習をし、昼休みには北風をもろともせず鬼ごっこを楽しんでいる。かつて杉の子ランドで遊んだ経験のある保護者たちは、参観日に足を運び懐かしんでいる。どちらも、ボランティアさん方を含む地域の方々の大きな力で実現したものである。 次年度にむけての取組の方向 ・さらなる地域教育資源・地域人材を発掘するとともに、これまでの取組を振り返り、整理してまとめる。 ・学習支援ボランティアさんを導入した授業作りのあり方の研究を深め、計画にしっかりと位置づける。 ・学習支援ボランティア以外の各支援ボランティア（交通安全・図書館・環境）のさらなる充実を図る。		
		 <p>暑い中での整備作業</p>
		 <p>3・4年生による杉の子ランドでの「森の音楽会」</p>

学社融合活動実践報告

学校・園名 会津小学校		公民館名 秋津公民館・万呂公民館
学社融合における学校・地域の様子 本校では、「会津さわやかコンサート」や「合同作品展」「獅子舞鑑賞」「昔の遊び体験」など、保護者や校区協議会、公民館、敬老会等、地域の各種団体と連携し、協力を得ながら、様々な教育活動に取り組んでいる。現在、494名の児童が通学しており、校区協議会シニアパトロールの登下校の見守り活動や、公民館での「子ども向け教室」、町内会の「防災訓練」「町民運動会」など、地域で積極的に子どもたちを見守り、育む活動が展開されている。また、総合型地域スポーツクラブ「会津スポーツクラブ」の活動は、所属している子どもたちにスポーツに親しむ多くの機会を提供してくれているとともに、多くの子どもたちにスポーツに対する興味・関心を高める役割を担っている。		
活動名 会津さわやかコンサート 秋津・万呂両公民館作品展		学年・教科・領域等 全校・特別活動(学校行事)
目 標	学校・園	様々な世代の、多くの地域の人々との交流を通して ・地域の伝統や文化とそその地域に住まう人々を大切に、感謝する心を養う。 ・言葉や行動によって進んで表現しようとする意欲を養う。 ・発表や作品の観賞を通して相手の気持ちや思いを感じられる心を育てる。
	地域（公民館）	・公民館活動を通じて学習した成果発表の場を提供する ・地域の人々や子どもたちに見ていただくことで、達成感を得ていただき、今後も活動を継続する意欲を養っていただく。
支援者及び支援組織 会津小学校 会津小学校育友会 秋津公民館 万呂公民館 会津校区協議会		
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) ○会津さわやかコンサート【11月12日(土)】 ・会津校区協議会主催、会津小学校・会津小学校育友会共催のもと、秋津・万呂両公民館の協力を得て開催する。学校・家庭・地域が一つになって、お互いの心が触れ合う時間を持ちたいという願いのもとで開かれ、今回で第9回を迎えた。参加者は小学校の児童を入れてのべ約1200名。 ・内容…会津小学校1年生から5年生による学年別合唱、6年生による合唱・合奏、会津小学校合唱部による合唱・重唱、公民館サークルによる合唱、高雄中学校吹奏楽部による演奏、高雄中学校吹奏楽部と会津小学校合唱部の共演、高雄中学校吹奏楽部による伴奏で全員合唱(ふるさと)		
○秋の総合展示会【10月29日(土)～30日(日)】 ・会津小学校、万呂公民館が合同で学校開放期間に合わせ、作品展を開催している。子どもたちの学習の成果とともに、公民館活動の成果を見ていただく機会を提供している。 ・内容…子どもたちの絵画の展示、公民館サークルの文化作品展を実施		
○あきづ文化祭【2月17日(金)～2月19日(日)】 ・秋津公民館を会場にし、文化活動の発表の場として開催。作品出展者同士の交流はもちろんだが、異世代の作品を展示することで、世代間交流のきっかけづくりをしている。また、文化祭のために作品を仕上げ方も地域には多く、開催することが学習意欲向上にも繋がっている ・内容…近隣保育所年長児、小・中学校、地域団体、公民館サークルの作品展。地域の方に来場していただけるように有志でフリーマーケットや、子ども向けにおみやげを提供するコーナーも実施		
  		
さわかコンサート 秋の総合展示会 あきづ文化祭		

	成 果	課 題
学校・園	行事を通して発表の練習や作品づくりに、主体的・意欲的に取り組むことができた。学社融合の取組では、子どもたちも、それに関わる保護者や地域住民も、それぞれの目的意識を持ち、取り組んできた。当日までの練習や作品づくりの過程だけでなく、当日の他の出演者の発表や作品を楽しむとともに、自分を表現することに達成感や充足感を得ることができた。	「さわやかコンサート」の運営には、育友会本部役員と常任委員の保護者が中心となり、全員が協力し合って行事を支えてくれている。終了後は皆さん充実した表情で、成功の喜びを分かち合っている。委員は毎年交代するが、校区協議会の常任委員と協力して取り組むことで、行事の良さを実感するとともに、お互いが知り合うきっかけとなり、日頃の生活にもつながる関係ができることを期待している。
*子供にとつて	学校・公民館・地域の行事を通して、地域の方と交流し、触れ合う機会を得た。一方的に作品や発表を見るだけでなく、互いに発表し合う、作品を鑑賞し合うことでより充実した時間を過ごすことができた。時間・場所・目的の共有が、今後、子どもと地域住民の絆を、さらに深めるきっかけとなることを期待している。	保護者・地域の方など、日頃から自分たちを見守ってくれている身の回りの人に対して、感謝の気持ちを持ち、その気持ちを、自分の言葉や行動で素直に表現できるよう引き続き取り組んでいきたい。また、行事での交流を通して相手を大切に、思いやる気持ち、マナーや作法を身につけさせていきたい。
*子供にとって	地域の方とふれあい、公民館活動とはどのようなことをしているのか知らせることができた。学習の大切さや、継続することの大切さを考える機会となることを期待している。	作品や発表を見て、自分が住んでいる地域に誇りを持てるようにしたい。また、学習の成果だけでなく、作品等が完成するまでの過程を知らせられるように工夫したい。
地域（公民館）	行事を通じて、発表の場を提供することができ、達成感を得ることができた。また、子どもたちとふれあうことで、より良いものを作りたいという学習意欲向上や、交流の促進に繋がることができた。	作品展や発表会に参加して良かったという声を、地域にもっと届けるようにし、参加者の固定化やサークルメンバーが減少しつつある状況を抑制していきたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向 ・各行事では、子どもたちや出演者だけでなく、参加者・運営に携わった保護者にも充実した笑顔が多く見られた。この笑顔には、行事に向けた取り組みの過程とその結果において、学校と公民館が設定した目標が達成され、やりがいを感じるということができたという意味が含まれている。今後も、目標の達成のために行事の工夫・改善に努めていきたい。 ・学社融合の取組が無理なく持続的に発展するためには、子どもと教職員、公民館職員と公民館サークル、保護者と地域住民のそれぞれにメリットがあることが重要である。そのためには、今年度の取組を評価し、来年度に向けて改善すべき点がないか検討する必要がある。また、学校での限られた授業時間内での取組という観点からは、特に取組の効率化が必要である。他の多くの行事との兼ね合いを考慮し、各行事の実施時期や実施内容等についても検討し、計画的に行うことが大切である。		
  		
さわかコンサート 秋の総合展示会 あきづ文化祭		

学社融合活動実践報告

学校・園名 新庄小学校		公民館名 新庄公民館
学社融合における学校・地域の様子 新庄小学校では、地域と連携し、地域を知り、地域で学び、地域を愛する児童を育成することを目標に、農業、伝統的な祭りや行事、福祉、地震や津波等について学習する機会を設け取り組んでいる。 新庄地域は、古くから熊野の林業やそれに関連した製材業などが盛んであり、木造新校舎では紀州の木材がふんだんに使われたものとなっている。 市指定無形民俗文化財である祇園祭の「ぎおんさん夜見世」を始めとする伝統的な行事も多く、地域や各種団体の方々も学校教育活動にたいへん協力的である。 また、新庄公民館・新庄幼・新庄小・新庄二小・新庄中の担当者が定期的に集まり情報交換をしながら、年に一度合同研修会を開催し、当番校が公開授業等を行い全職員が共に研修をしている。		
活動名 福祉体験学習		学年・教科・領域等 3・4・5・6年総合的な学習の時間 4年学校行事
目 標	学校・園	福祉に関する調べ学習・体験学習を通して、障害者や高齢者に対する理解を深めると共に、地域の様子を知り、地域の一員としての自覚を持った、心豊かな子どもを育てる。
	（公民館） 地域	地域の教育力を学校教育に生かすと共に、地域の方々に学校や子どもの様子を知ってもらい、今後の地域づくりに生かしてもらう。
支援者及び支援組織 地域の方々 新庄地区老人会 真寿会 ふたば福祉会 南紀のぞみ会 社会福祉協議会		
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 3年2学期<『新庄ウオッチング(2)』～地域の公共施設を探ろう～> * 新庄地区には、様々な公共施設があることを知り、体験を中心とした活動を通して自分たちの住む新庄地区を理解する。 ・真寿苑を訪問し、出し物を披露したり、ゲームをしたりしてお年寄りと交流する。 3年3学期<『昔へタイムスリップ』> * 昔の生活の仕方を調べ、今の生活と比べる。 * おじいちゃんやおばあちゃんから話を聞いたり、交流したりする中で、思いやりやいたわりの心を育てる。 ・お年寄りや地域の人々に、むかしの生活や遊びについてのお話を聞いてまとめる。 4年2学期<運動会> * 運動会の敬老種目に参加するおじいちゃんおばあちゃんのサポートをする。 4年2学期<『バリアフリーな社会をめざして』～視覚聴覚障害者理解～> * アイマスク体験、無音体験や障害を持つ人たちから話を聞いたりすることによって、障害者の気持ちを理解し、バリアフリーな社会に向けて自分たちにできることを考える。 ・自分たちができるバリアフリーや、地域のバリアフリーについて話し合う。 5年2学期<『ともに生きる』～肢体不自由者理解～> * 障害者の方の気持ちや思いを理解し、バリアフリーな社会が大切であることに気付く。 * 自分なりのバリアフリーが実践できる。 ・車椅子体験をして、自分たちにできることを考える。 6年2学期<『ともに生きる』～高齢者・障害者とともに～> * 高齢者が今まで社会に貢献してきたことに対し尊敬や感謝の気持ちを持ち、温かい心で接する態度を養う。 * 知的障害者に対する理解を深め、温かい心で接する態度を養う。 * 福祉施設を訪問し、利用している人、介護している人のことを理解し、ともに生きるということについて考える。 ・社会福祉施設を訪問し、交流から自分たちにできることを考え実践する。		

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> 学校や子どものことを知ってもらうことにより、「地域の学校」ということが広がってきた。 教室だけでは教えられないことを学ばせることができた。 地域の方に依頼したり共に活動したりする中で、地域の人々との距離が近くなり、話もしやすくなってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が地域の役に立つようなものや、学校の教育力を地域に生かすことのできるような活動を取り入れ、地域の人に教えてもらう、地域に出かけて体験するというようなことばかりにならないようにする。
* 子供にとつて	<ul style="list-style-type: none"> 地域へ出向き、地域の人に教えてもらうことにより、地域のことを知ることができた。 いろいろな体験を通して知識や経験が広がり、福祉のことや地域のことを学習し、考えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童は意欲的に活動しているが、積極的になれない児童も見られ、個人差が見られる。しかし、そのような児童にこそ必要な活動である。
* 子供にとつて	<ul style="list-style-type: none"> 地域を知ることができ、地域の方々との交流の場がもてた。 普段の授業では体験できないことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な体験学習を経験し、もっと福祉に対する理解を深めてほしい。 福祉について学習することにより、心豊かな子どもに育ててほしい。
地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> 体験学習を通じて、互いに様子を知ることができた。 地域の方々との関係が密になった。 	<ul style="list-style-type: none"> 福祉体験を含め、子どもたちと地域の方々に関わりをもてるよう色々な体験の場を考えたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向 評価 <ul style="list-style-type: none"> 福祉に関する体験や、地域のお年寄りの話を聞くことにより、理解を深めることができた。 地域の人と接することにより、自分たちの暮らす地域のことがわかり、地域を想う心を育てる一助となった。 総合的な学習に位置づけ、活動を継続していることから、系統立った取組ができている。 協力してくれた地域の方は、子どもたちと接することを楽しみにしてくれている。 学校の特長を生かして、児童が地域の役に立つような活動を考える。 花植えや昔の道具の使い方の指導など、少しの活動でも手伝っていただけるような取組をしたい。 		
		

学社融合活動実践報告

学校・園名 新庄第二小学校		公民館名 新庄公民館
学社融合における学校・地域の様子 本校校区は、他地域から移住してきた世帯が多く、昔からこの地域に住んでいる世帯は比較的少ない。そして、移住してきた世帯の多くが若い世代であり、昔からの世帯は年齢層が高い傾向が見られる。しかし、どの世帯も学校に対する関心はたいへん高く、協力的であるように感じる。保護者の構成は、ほとんどが他地域からの世帯であるが、新二まつり(文化祭)やサークル活動など、学校行事や学習活動などに、保護者だけでなく、昔からこの地域に住んでいる方々の協力も多面にわたっていて、若い世代と地域の方が協力した活動も多く見られる。したがって、地域・家庭・学校が共に子どもを育てるという基本的な考えのもと、活動を広げていきやすい学校であり、地域であるといえる。		
活動名 新二まつり		学年・教科・領域等 全学年・総合的な学習・生活科
目 標	学校・園	児童会を中心に、新二校区の恵まれた環境の中で学んだことを、保護者・地域の方々に向けて発信するとともに世代を超えた「ふれあい」を通し、地域に生きる一員として、さらに新二校区を知り、校区、故郷を愛する、心情を育てる。
	地域・公民館	子どもたちや保護者、地域の方々との交流の場であり、連帯意識を高め、地域力を高める活動にする。
支援者及び支援組織 育友会 小学校 公民館 婦人会 地域の方々		
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 9月1日 新二まつり実行委員会・役員部長会 21日 職員会議「新二まつりについて」 ・要項提示 ・昨年度の新二まつりについて ・午後の体験活動の講師の見直し ・午後の体験活動交渉担当分担・依頼開始 9月29日 役員・部長会「新二まつりについて」 ・要項説明 ・講師への仮打診・新規体験活動についての検討 ・案内配布(「新二まつりご協力のお願い」プリントを保護者むけに配付) ・新二まつり協力委員会案内状配付 10月5日 職員会議「新二まつりについて」 ・進行状況確認 ・午後体験活動講師内容決定報告 ・実施詳細提案 10月6日 協力委員会 要項説明、各担当で打ち合わせ ・児童への体験活動アンケート 10月19日 職員会議「新二まつりについて」 ・体験活動人数最終確認 10月21日 ・「新二まつりのお知らせ」プリント配付(10月・11月の学校だよりに配付) ・体験活動・持ち物を保護者向けに配付 11月2日 1限 6年いす並べ 午後 準備・図画作品展示など 11月4日 全体練習(朝の会・1限) 作品搬入・展示(放課後) 11月5日 準備(育友会各部会) 11月6日 新二まつり 11月7日 振り替え休み 11月8日 体験活動でお世話になった方へ児童がお礼状を書き、担当者が集約して持って行く。		

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> 多くの保護者、地域の方々にお越しいただき、子どもたちの発表を見てもらうことができた。 保護者、地域の方々に催し物の運営や体験活動の講師をお願いすることにより、開かれた学校として地域ぐるみで子どもを育てていく取組を実践できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の一般の方を巻き込むための手だてを考える。 地域の方にも取組目標を理解していただき、子どもを育てていく姿勢を統一する。
* 子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> 多くの大人と関わる中で、マナーを学んだり、つながりを強めたりすることができた。 体験活動では、普段の生活では体験できないことを、地域の方々に教えてもらいながら楽しく活動することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが礼儀やマナーをしっかり身につけられるように取り組む。 保護者や地域の人たちとともに自分たちも協力していかなければいけないという姿勢をもつ。
* 子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方々から学ぶことにより、地域の良さを知り、地域の一員としての意識が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> 単なるまつりではなく、子どもたち、保護者、地域を繋ぐ大切な行事であることを子どもたちに意識づけたい。
地域(公民館)	<ul style="list-style-type: none"> 学校と地域、保護者が協力して事業を行うことにより、地域間の交流が図れ、活性化に繋がった。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域から講師などより多くの人材確保に努め、子どもたちに興味をもってもらう。 学校や地域が相互に刺激を与えるような取組にしたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向 <ul style="list-style-type: none"> まつり当日は、4年ぶりに晴れ、運営も支障なく全体的にスムーズに行うことができた。 まつりの事前・前日・当日の準備に、育友会員や地域の方々、婦人会の方々が大変協力的である。 今年度は、午前の部にスターフィッシュさんを招き、マーチングバンドの演奏を聞くことができた。 課題としては、子どもたちも地域の一員であることを自覚させるとともに、みんなで協力してよりよい新二まつりにしていく姿勢を持たせることである。 		
		

学社融合活動実践報告

学校・園名 三栖小学校		公民館名 三栖公民館
学社融合における学校・地域の様子 本校区は、従来は梅栽培を中心とする農村地域であったが、専業農家の数は過去に比べて減少傾向にある。近年は宅地造成が進み、本校区に居を構える子育て世帯が増加、児童数も年々増加している。当地域では昔から子どもを地域の宝として大切に育てようという機運があり、PTA組織も「育宝会」という名称で、積極的に学校支援に関わっている。地域は学校に協力的で、運動会等の学校行事やクラブ活動、「総合的な学習の時間」では、婦人会、老人会、公民館文化委員会など、各種団体に協力をいただきながら取り組んでいる。昨年度より、公民館で文化展が開催されるようになり、学社融合を一步前進させる足がかりができた。		
活動名 三栖の史跡巡り		学年・教科・領域等 5・6年 総合的な学習の時間
目 標	学校・園	・公民館文化委員会の方々の協力を得て地域の歴史を学ぶことにより、ふるさとを愛し、誇りに思う心を育む。 ・史跡巡りの学習を通して、表現力(情報をまとめ、伝える力)やコミュニケーション力を向上させる。
	地域(公民館)	・地域の歴史や地域への思いを子どもたちに伝えることで、地域への愛着や誇りを育む。 ・活動成果を知ることにより意欲向上を図り、より充実した活動を展開できるようにする。またそれを地域全体へと広げていく。
支援者及び支援組織 三栖公民館文化委員会		
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) ・10月上旬 事前打ち合せ 出席者 文化委員 宇井さん、佐向公民館主事、担任、教頭(学社融合担当) 内容 日程、コース等の確認 ・10月 7日(金) 公民館文化委員会学習会へ参加 ・10月14日(金) 5年・史跡巡り(9:00~15:00) <活動>公民館文化委員の皆さんに案内をしていただきながら、一緒に地域の史跡を歩く。 コースの途中で美化活動(三栖校区を美しくする運動)を実施する。 <コース>三栖小学校→尋声寺→三栖村方文書庫→旧一里塚→妙見宮→珠簾神社→伝馬所跡→長尾坂→珠簾神社(昼食)→堅城坂地蔵→荒地地蔵→稲荷神社→大剌寺→公民館 *三栖校区を美しくする運動(珠簾神社クリーン作戦) ・11月10日(木) 6年・史跡巡り(9:00~15:00) <活動>上記5年史跡巡りと同じ <コース>三栖小学校→一里塚→高坊遺跡→三栖廃寺→五郎地蔵寺→報恩寺(昼食) →三栖王子→八上王子→埴田 *三栖校区を美しくする運動 (八上王子~埴田区間クリーン作戦) ・12月16日(金) 史跡巡り学習発表会 (3限・5年、4限・6年) 12名の文化委員の皆さん、佐向公民館主事 来校 ・2月25日(土) 公民館主催の文化展にて、史跡巡り語り部発表予定 地域に発信		



	成 果	課 題
学校・園	・公民館の文化委員の方々に案内・説明をしていただき、詳しく地域の歴史や史跡について学ぶことができた。ふるさとを愛し、誇りに思う心を育む大事な学習となっている。 ・史跡巡りの発表会に文化委員の皆さん等をお招きすることにより、発表にむけての取組への意識が高まった。	・担任や担当者がかかわっても、取組の質を落とさず、さらに改善を図りながらよりよい取組にしていける体制づくり ・系統性のあるふるさと学習となるよう、学校全体の計画の見直し(できれば、幼稚園、中学校の取組も視野に入れ、ねらいや内容を再確認)
*子供にとって	・発表にむけての取組への意識が高まりが、子どもたちの「情報をまとめる力」「発表する力」の向上につながった。	・コミュニケーション力を高める。(挨拶、場に合った会話や振る舞いができる子どもに)
*子供にとって	・地域の歴史などを学ぶことにより、地域への愛着や誇りが育まれた。また、それらの活動を通じ、地域の人たちの思いを知ることができた。	・子どもたちなりに学習活動を通じて感じたことや地域への思いを表現できるようになる。また、それを発信することで活動の幅を広げたい。
地域(公民館)	・文化委員会として、史跡めぐり当日にとどまらず、発表会への参加などを通じて、活動の成果や改善点を知ることができ、今後の活動への意欲にもつながった。 ・公民館主催の文化展(2月開催予定)にて、子どもたちが学習発表を行い、多くの地域の人にも活動の成果を知ってもらうことで、活動を広げるきっかけとなる。	・様々な機会を捉え、より継続的に子どもたちと関わっていくことで、学習内容を充実させるとともに、学校と地域、子どもと地域の間関係を構築していく。 ・地域として、子どもをどのように育てていきたいか意識の共有化を図り、無理なく多様な取組を実践できる体制をつくっていききたい。また、その中で地域に眠る人材を見つけ、今後の取組に生かしていく。
評価及び次年度に向けての取組の方向 評価 ・今年度はじめて、史跡巡りのまとめの発表会に文化委員の皆さんをお招きした。「わかりやすく伝える」ということを意識しながら、発表原稿やプレゼン資料を作成。相手意識をもつことで、目標である表現力(情報をまとめ、伝える力)の向上に迫ることができた。 また、発表会の最後に、文化委員さんから評価をしていただき、史跡巡りへの思いや子どもたちへのメッセージを語っていただいたことで、史跡巡りの学習の意義が子どもたちによく伝わった。 ・事前の打ち合わせの時に、文化委員さんから『三栖風土記』(公民館作成)をもう少しわかりやすい表現にしたいが・・・というお話があった。文化委員さんの思いを繋ぎ、小学生が読める『こども三栖風土記』を6年生が作ってみようという活動の広がりができた。		
次年度に向けての取組の方向 ・小さな改善を加えることで、新たな気づき生まれ、そこからまた活動が広がっていく。今年度は校区の熊野古道が世界遺産に追加登録された。長尾坂から潮見峠越えを加え、史跡巡りの取組をさらに充実させるチャンスである。公民館文化委員会との連携をより深め、新しい取組や改善を図りながら三栖の史跡巡りを継続していきたい。		



学社融合活動実践報告

学校・園名 長野小学校		公民館名 長野公民館
学社融合における学校・地域の様子 長野地区では、学校と公民館活動(地域の各種団体などの活動をはじめとした社会教育)との連携を密にし、様々な教育活動に対して、公民館活動のご協力(ゲストティーチャーとして、合同地区内ハイキングの計画と実施等)をいただきながら、子どもたちの教育に取り組んでいる。 また、地域の方々も、子どもたちの活動に対して常に気にかけてくださっている。地域の方々からは、子どもたちへの励ましのお声がけ等の日常的な御協力はもとより、様々な行事を通して物心両面から、学校の教育活動への多くのご協力をいただいている。		
活動名 「えがおいっぱいわたしたちの長野」「ふるさと発見！長野の梅を知ろう」 「伝えよう！那須の与一と長野の歴史」「ホタル学習」		学年・教科・領域等 全学年・生活科 総合的な学習の時間
目 標	学校・園	・地域の各種団体との交流を重ねる事で、学校と地域の信頼関係を深め、教育力を育てる。 ・地域の方々との交流により、コミュニケーション能力を深め、地域を愛する心を育てる。 ・地域に貢献している人々やその生き方を知ることで、今後の生き方や進路を考える力を育てる。
	地域（公民館）	・学習活動や地域の人とのふれあいを通じ、子どもたちの地域への関心、愛着、誇りを育む。 ・子どもたちの学習活動に関わったり、その成果を知ることで、地域の良さを再確認する。 ・地域で活動する人や各種団体の意識の共有を図り、地域ぐるみの体制を整えていく。
支援者及び支援組織 長野公民館 田辺市役所長野連絡所 長野簡易郵便局 JA紀南長野店 石川商店 光福寺 長野小学校育友会をはじめとした地域の方々		
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 本年度の学社融合の取組として、公民館の協力のもと、地域学習を中心とした活動内容を展開してきた。 また、地域から学ぶことは、地域の良さ、地域の人たちの足跡や大切にしてきたものを学ぶこととなり、地域の課題に気づかせる機会でもある。将来、地域を支える中心となる子どもたちに、これからの自分達にできる事について考えていく機会としたい。		
【1・2年生の取組】「えがおいっぱいわたしたちの長野」 (内容) 地域の田辺市役所長野連絡所、長野簡易郵便局、JA紀南長野店、光福寺をはじめ地域の方々にお話を聞き、それぞれの方が、お仕事をされる上でのご苦労などを聞かせていただいた。長野の地域にある素敵な一面を「えがお」で知ることができた。さらに、その内容をまとめ、学習発表会で発表をし、多くの地域の方々に見ていただいた。		
【3・4年の取組】「ふるさと発見！長野の梅を知ろう」 (内容) 地域の産業学習で、本年度は「梅」について学習した。JA紀南長野店を訪問し、梅の歴史や梅の種類等のお話をいただいた。地域の梅農家を訪問した際には、梅栽培の工夫や苦労話を聞かせていただいた。さらに、長野発祥の古城梅の原木も見せていただいた。収穫作業も体験でき、児童は、収穫の際の苦労等を感じながら貴重な体験をさせていただいた。これらの内容をまとめ、学習発表会で多くの方々に見ていただいた。		
【5・6年の取組】「伝えよう！那須の与一と長野の歴史」 (内容) 地元歴史に詳しい那須豊平町内会長さんに、長野に古くから伝わる「那須与一」の伝説をお話いただいた。また、明治の大水害についても教えていただき、先人の苦労と長野の歴史の一面を学習した。さらに、伏菟野小学校や公民館と合同で実施した地区内ハイキングでは、「長尾坂」の歴史や伝説について、語りながら一緒に古道を歩くことができた。学んだ事をまとめ、学習発表会において地域の方々に見ていただいた。		
【全校の取組】「ホタル学習」 (内容) 公民館より印南町の一般社団法人「ピオトープ」中田稔さんをご紹介いただき、ホタルの生態や自然環境の大切さについてのお話をうかがった。児童はホタルの里長野が、地域の人々の努力で自然豊かに守られていることを学ぶこ		

	成 果	課 題
学校・園	・地域に根ざした産業や課題を学び、地域の方々のご協力を得ながら体験活動を行うことで、ふるさと長野を愛する心を育てるよい機会となった。 ・長野の歴史を学び、熊野古道「長尾坂」を語りながら歩いた経験は、児童にとって、地域の宝「長野・熊野古道」と先人の知恵や苦労を知ることにつながり、地域の一員としてふるさとを大切にしようとする機会となった。	・地域の生活や産業についての学習をより深め交流していきたい。 ・地域の歴史を知り、ふるさと長野を大切にしようという意識と共に、長野地域の一員として、自分たちにできる事を考える機会をもち、長野の歴史を守ろうと実践できるようにしていきたい。 ・地域の課題を知り、子どもなりに解決に向けて考えていけるようにしていきたい。
*子供にとって	・自分たちの身近にいる地域の人たちの仕事や生き方を学ぶことにより、地域の人々の苦労や地域の課題を知ることができた。 ・地域の歴史を学ぶことにより、地域への関心を深め、地域を大切にしようとする意識を高めることにつながった。	・地域の行事への積極的な参加を促し、地域のすばらしさやここに暮らす人々の願いを知り、地域の一員としての課題を考え、行動できるよう学習を展開していきたい。
*子供にとって	・各学年において、学習を通じ、地域や地域の人への愛着や敬意が育まれた。 ・5・6年生は、合同地区内ハイキングで学習の成果をいかした語り部活動を行い、地域活動へ貢献することもできた。	・今後も地域への愛着や誇りを育み、さらには地域の現状や将来像を考えられるように、地域への関心の幅を広げたり、深めていけるような活動を展開していきたい。
地域（公民館）	・外部講師の紹介など、地域（公民館）が持つネットワークを生かした活動を展開することができた。 ・合同地区内ハイキングでは、学校行事と地域行事を合同で行うという新たな形での事業展開を図ることができ、子どもたちの学習成果を知ったり、地域住民の知恵や特技を生かす場になるなど、お互いにとってよい取組となった。	・既存の取組を生かしながらよりよい取組を展開できるよう、各種行事の見直しや学校を含む各種団体との情報共有を進めていく。また、それらの取組を無理なく継続していける体制づくりと後継者の育成に取り組んでいきたい。 ・多くの人に「この地域で子どもを育てたい」と思ってもらえるよう、学校および地域の良さを地域内外へ発信していきたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向		
評価 ○学校の活動(生活科・総合的な学習・行事など)では、公民館を通じて地域の方々にお越しいただきご指導いただいた。児童もより詳しい内容を理解することができ、内容の濃い体験を行うことができた。 ○発表会では、地域学習のまとめを工夫して発表し、ご参観いただいた多くの地域の方々から高評をいただいた。		
次年度に向けての取組の方向 ○公民館と連携して、幅広い内容について地域の方々のご協力を得ながら交流を深めていく。 ○地域の課題等に、子どもたちなりに問題意識をもたせ、地域と共に学ぶことを今後も大切にしていきたい。		
		
1・2年生 地域の方と野菜の苗植え	3・4年生 梅づくりについて	5・6年生 長野の歴史について
		
全校 ホタル学習		

学社融合活動実践報告

学校・園名 伏菟野小学校		公民館名 長野公民館
学社融合における学校・地域の様子 全校児童5名(家庭数4)、教職員数は支援員も含め4名という極小規模で、地域と密につながり大切にされているだけでなく、地域の協力なしには成り立たない学校である。明治9年の開校以来140年間、伏菟野区民は「自分たちの学校」として物心両面において守り支え、地域全体で子どもを大事に育ててきた。学校の行事や作業への参加、協力はもちろんのこと、地域の有志がクリスマスにはサンタクロースに、節分には鬼と福になって、子どもたちの家を一軒一軒まわるような地域である。		
活動名 伏菟野区・伏菟野小学校合同運動会		学年・教科・領域等 全校・体育、特別活動
目 標	学校・園	○体育科を中心とした日常の活動の成果を地域の方々に見てもらい充実感を味わわせ、きびきびと行動し皆で力を合わせる大切さを体感させる。 ○地域の方々とともに活動することで、帰属意識を高め地域を愛する心を育む。
	地域(公民館)	○各種行事や日常的なふれあいを通じて、子どもたちが地域や地域の人々を好きになる。また、地域の人たちの姿を見て、地域の一員として自分たちにできることを考えられるようになる。 ○地域の主体的な取組をより地域ぐるみで行えるよう体制を整えていく。
支援者及び支援組織 伏菟野区 伏菟野小学校教育友会 伏菟野子供クラブ 伏菟野老人会 みやご会 はぐくみ隊 長野公民館 和歌山大学地域教育支援室、和歌山大学学生 秋津川保育所(園児、職員、保護者) 卒業生 地域の方々		
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等)		
7月 4日	育友会企画部会 ・運動会実行委員会の組織と役員について確認 * 実行委員会は、 小学校職員・保護者、伏菟野区役員・地区委員 それぞれ全員と老人会、みやご会、子供クラブ、はぐくみ隊の各団体代表者で組織	
7月25日	運動会実行委員会 ・種目数、日程、予算等について協議 ・役員と役割分担の決定 ・プログラムと競技種目、予算と参加賞・賞品について協議	
7月下旬	秋津川保育所に参加を依頼	
8月 8日	プログラム決定	
8月中旬	賞品の購入(保護者)	
8月21日	校内・グラウンド整備作業と賞品包装作業(小学校児童、職員、保護者、卒業生、地域の方々)	
8月下旬	プログラムと寄附金お願い文書を全戸配布(区役員)	
8月23日	運動会実行委員会 ・今年度が小学校最後の運動会になると決定したため、臨時に委員会を開く 多くの方に参加してもらい運動会を盛り上げるため、区の予算で景品を用意して抽選会を行うことが決定	
8月29・30日、9月3日	グラウンド整備作業(区長)	
9月上旬	景品の購入(区役員、保護者)	
9月 7日～11日	和歌山大学の学生3名が小規模校体験活動 運動会に向けての作業や、児童の練習を手伝ってくれる 保護者宅でホームステイ、有志で歓迎会を開いてくれるなど地域の方々にもお世話になる	
9月 9日	運動会総練習(小学校児童、職員、和歌山大学学生)	
9月10日	運動会準備(小学校児童、職員、学生、保護者、区役員、卒業生、地域の方々・長野公民館)	
9月11日	伏菟野区・伏菟野小学校合同運動会 ・伏菟野区のほぼ全戸、約200名が参加し、皆で楽しい1日を過ごす	

	成 果	課 題
学校・園	・準備やグラウンド整備、当日の役割などを地域の方々、和歌山大学の学生が担ってくれ、大変助かっている。運動会の開催にあたり、職員の負担軽減につながった。学校だけでは困難な運動会が、区との合同により実施できる。	
* 子供にとって	・区との合同実施、秋津川保育所の参加により多くの方が来場し、たくさんの人に活動の成果を見ていただけるので、体育科を中心とした日常の活動にも熱が入り、より充実感を味わうことができる。 ・地域の方々とのふれあ場面が多く地域との一体感が感じられ、大人の活動が児童のよいモデルとなっている。	
* 子供にとって	・運動会をはじめ、その他の行事においても、伏菟野小学校として最後の行事となることを意識してきたことで、地域の人たちへの感謝の気持ちを持ち、地域の人たちに楽しんでもらうことを考えて精一杯の成果を発揮することができた。	・学校外でも地域との関わりが多いものの、学校を通じて行われてきた交流がなくなるため、今後の地域との関わり方を考えていく必要がある。
地域(公民館)	・地域の主体性が高く、運動会をはじめとする様々な取組が住民主体または住民参画で企画され、この地域ならではの取組が実践できている。	・地域活動の拠点となっていた学校が本年度をもって閉校となる。住民の主体性が高く、学校外でも子どもたちとの関わりが多い地域ではあるが、閉校の影響を鑑みて今後の活動展開や子どもたちとの関わり方を考えていく必要がある。
評価及び次年度に向けての取組の方向 伏菟野区・伏菟野小学校合同運動会は、閉校により今年で最後となる。小学校の沿革史を繙くと、古くは大正9年、今から約100年も前、『川原につくった仮運動場で、区内児童青年等の連合運動会が開かれた』との記述がみられる。戦後、昭和28年には、『区の有志の会合をねがって、運動会実施についての打ち合わせをする』と書かれており、このころは午後からの開催だったようで、昭和32年『10月5日、区民運動会。昼食を学校でとる、初めての試み』とある。昭和38年頃からは、区の役員さんやPTA役員による運動会に向けての奉仕作業の記述もみえる。伏菟野小学校児童の出身である秋津川保育所の参加は昭和62年から、「実行委員会」という言葉は昭和63年からで、このころから9月初めの開催となったようだ。現在と全く同じ形になってからでも、もう30年近くなる。準備の段階から仕事を分担し、競技内容にもしっかりと関わり、当日も受付や招集だけでなく、アナウンスや放送、進行、スタートのピストル、着順判定まで、学校だけでは手が回らない分を実行委員が役割を果たしてくれる。児童の一輪車演技には保護者や卒業生も力を結集して大技に挑む。児童の演技に大きな声援や拍手をくれる地域の方が大勢いて、また、区民の皆さんも競技に参加し、笑顔で一緒に楽しんでくれる。このような歴史ある、区と小学校が一緒になってつくりあげてきた行事が、本年をもって幕を閉じる。 今年はさらに、プログラムにはなかった卒業生による「長中ソーラン」が披露され、また、児童や職員も巻き込んだ保護者・地域の方の飛び入りダンスも入り、徒競走では、全校児童5人のあとに卒業生や地域の方々も続いて走ってくれた。 「最後の運動会を盛り上げよう」という皆の思いが集まり、学校と地域がひとつになり、例年以上に多くの方の力をお借りして、最後を飾るにふさわしい運動会ができたのではないかと感じている。 統合後も、この伏菟野区民の熱い思いを運動会だけでなく様々な活動に生かしてほしいと願っている。		

学社融合活動実践報告

学校名・園名 上秋津小学校		公民館名 上秋津公民館	
学社融合における学校・地域の様子 ・当地域は農村地域で、専業、兼業で農業に従事している家庭も多い。そこで本校では、長年にわたり地場産業である農業、とりわけ、野菜・花(1~4年)、みかん(5年)、梅(6年)について、体験学習に取り組んで来ている。地域の方々、学校活動に大変協力的で学校への関心も高い。野菜・花作りではお年寄りの方が地域の先輩として指導に訪れ、梅やミカンの収穫体験では、農家の方々が農繁期の忙しい中、収穫の仕方を指導したり、話を聞かせてくれたりする。子どもたちは年間を通して体験学習に取り組むことにより、収穫の喜びを味わったり、栽培の難しさにも気づいたりしている。 ・将来想定される南海・東南海地震や台風・水害や災害に対して、公民館・地域の方々と連携しながら、自分の命を自分で守ることを目標に、地域の危険箇所を学習したり避難経路を確認したりしている。			
活動名 農業体験学習/文化活動		学年・教科・領域等 全学年・特活・音楽・総合	
目標	学校・園 ・地域の地場産業である農業を学校教育に取り入れ、自然や生命の大切さに触れさせながら、地域を知り、地域を愛する心を育てていくことを目標とする。 ・幼・小・中・公民館の連携をより深め、文化活動や防災教育の取組を進めていく。		
	地域（公民館） ・上秋津の地場産業である農業を学ぶことで、子どもたちに上秋津の農業のすばらしさについて知ってもらおう。 ・身近な地域の文化に接したり体験することにより、上秋津の「草の根文化」を継承しながら、豊かな地域文化を育む。		
支援者及び支援組織 農業体験学習支援委員会(JA紀南青年部上秋津支部・JA紀南・上秋津公民館・老人会・西牟婁振興局農業振興課) 上秋津学社融合委員会(幼稚園・小学校・中学校・公民館)			
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 事例① 農業体験学習 5年生の「みかん学習」を紹介します。5年生では年間を通して上秋津の農業の中心であるみかん栽培を体験します。春のみかん座学に始まり、秋の収穫まで地元の方にお借りした農園で体験活動をしたり、振興局や農家の方々に話を伺ったりします。なお、本年度は、6年生が5年生での活動の取組を「語り部ジュニア」で発表します。参加団体(JA紀南青年部上秋津支部・JA紀南・上秋津公民館・西牟婁振興局農業振興課)			
 みかん座学		 苗木を植える	
 みかんの摘果		 みかんの収穫	
事例② 身近な地域の文化に接する 上秋津ふれあい音楽会を紹介します。この音楽会は地域の交流をより深いものにし、文化の香りを地域に広げようという趣旨で毎年11月に開催されています。普段は地域の方々にお世話になることが多い小学校ですが、この音楽会では小学校が中心となって地域の方々に音楽を通して元気や喜びを持ってもらおうとがんばっています。年々参加団体も増え、本年度も盛大に開催され、地域の草の根文化の1つとして定着しています。参加団体(秋津野合唱団・幼稚園・中学			
 秋津野合唱団		 小学校	
 中学校		 地域のみんで歌う	
留意事項 ・年度初めに支援委員会を開催し、学校と公民館やその他協力機関と共通理解を図る。 ・学習や音楽の成果を地域に向けて発信したり、地域の方々の喜ばれる活動になるように努める。 ・情報を共有したり、授業を公開したりすることにより、幼・小・中・公民館の連携を更に深める。			

	成 果	課 題
学校・園	・梅やみかんの学習を通して、働く方々の努力や工夫を子どもたちに気づかせることができた。中学校と連携した「語り部ジュニア」に向けた取組が完成した。 ・小学校がホスト役となり、音楽会を通して地域の方々と交流を図ることが出来た。また、地域の方々に元気や喜びを与える文化的行事を行うことができた。	・野菜作りは、指導をお願いする人が高齢化の傾向にあり、これから広く人材を発掘する必要がある。 ・校外学習するみかん農園をこれからも継続してお借りできる方を見つけることが課題である。 ・ふれあい音楽会は、多くの団体が参加しているために、日程・時間の調整を図る必要がある。(音楽会は平日開催となっている。)
*子供にとつて	・農業体験を通して、農産物を作る喜びや、農業に対する関心が持てた。 ・地域の方々との接する機会が増えて、交流促進に繋がった。	・農業体験を通して出会った方々と定期的に接する機会を持つことで、日常生活の中でも地域の方々との交流をより深めさせたい。
*子供にとつて	・地域の方々から学ぶことによって、自分の住む地域をより詳しく知り、自分のふるさにと誇りを持つことが出来るようになった。 ・子どもたちが、学習したことや練習したことを地域の方々の前で発表し、楽しんでもらったり、感動してもらったりする喜びを持った。	・今後の活動においても、自分たちが主体的に活動し、地域に向けて、自分たちの活動を自信を持って発信していくことができるような力をつけたい。
地域（公民館）	・地域のJA青年部が子どもたちに地域の地場産業である農業を教えることで、自身の農業に対するやりがいを感じてもらった。 ・上秋津ふれあい音楽祭を通じて、地域住民や幼稚園、中学校との交流にも繋がっている。	・野菜の苗植え等は、地域の老人会の方々をお願いしているが、高齢化が進んでいるため、今後も活動を継続できるように、次の担い手を育成していくことが求められる。 ・JA青年部からの意見も取り入れ、子どもたちにとって魅力ある農業体験学習となるように、今後も進めていきたい。 ・ふれあい音楽会の取組は、今後も継続して取り組んでいきたい。
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) ・平成25年度から始まった上秋津ふれあい音楽会も今年で4年を経過し、地域を挙げての草の根文化行事として定着した。また、保護者アンケートにおいても地域の合唱団、幼稚園児、小学校児童、中学校生徒の歌や演奏等どれも高い評価をいただいた。今後もさらに充実させて、地域の草の根文化活動の発展に貢献したい。 ・畑の所有者やJA紀南(青年部を中心に)の方々の指導を受け、梅の観察・収穫・梅ジュース作りなどができている。このような体験によって、児童のコミュニケーション能力、優しさや豊かな心などが育まれ、「人格形成」に大きな成果をもたらしている。 ・地域で梅作りやみかん作りに携わっている方々との自然な形での交流によって、地域の方々に対する敬愛の念や感謝の気持ちをもつとともに、働くことの大切さを感じ取るなど、子どもたちが「生き方」を考える良い機会となっている。 ・花作り名人の指導を受け、子どもたちは花作りの技術を身につけるとともに、心を豊かにする機会を持つ事ができた。また、育てた花を公共施設に届けることにより、児童の栽培自体への関心とこの活動に対する価値観と自己有用感が高まった。今後もより多くの地域の施設に花を届けられるように活動を広げていきたい。 ・老人会の方々にサツマイモの栽培を指導していただき、収穫したサツマイモを使って「秋津野ガルテン」(滞在型の農業体験学習・農家レストランなどの「地産地消」、みかん資料室の活用)のシェフの方に指導していただきながら、保護者、児童と一緒に菓子作りを行い、収穫の喜びを体験することができた。 ・今後も、現在の取組を継続するとともに、二年後の共育コミュニティの発表に向け、幼・小・中・公民館の連携をより密にし、カリキュラムの系統化や授業の公開等を進めていきたい。 ・農業体験の指導者が高齢化してきているため、世代交代を進めていく。 ・さまざまな地域での体験活動が、教科学習と関連づけて実践されていることを年間計画に記載していきたい。		

学社融合活動実践報告

学校・園名 秋津川小学校		公民館名 秋津川公民館	
学社融合における学校・地域の様子 学校、地域、社会教育関係者が一体となり、子どもの健全育成のため協力し合い連携を深めている。地域の方々の協力を得ながら、地域の産業や伝統を学ぶことで地域の良さを知り、また、さまざまな行事を通じて地域の方々との交流を深めることで、子どもたちのコミュニケーション能力が高められている。地域の方々は、子どもたちと関わることを楽しみにしており、行事へも協力的に参加して下さっている。			
活動名 公民館との交流		学年・教科・領域等 全学年・学校行事	
目 標	学校・園	・地域に伝わる踊りの練習などを通して、地域の方との交流を深め、地域のよさを再確認し、地域を大切にすることを育てる。 ・地域のエキスパートの協力を得て、児童の学びを深める。	
	地域（公民館）	・地域と学校の交流の機会を作り、秋津川の良さを子どもにも大人にも知ってもらう。	
支援者及び支援組織 秋津川公民館			
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) ①秋津川音頭練習(9月15日・21日) ・公民館長から踊りの指導を受けた。町民運動会(10月2日)の終わりに参加者全員で踊って交流した。 ②敬老行事への参加(10月9日) ・3～6年生が公民館長から「おるり音頭」の指導を受けた(10月5日)。地域の方の太鼓と唄に合わせて踊りを発表した。 ③ふるさとまつり(11月20日) ・1・2・5時間目は地域の方にも自由に参観してもらえるように、授業を公開した。3・4時間目は地域の方が開いているバザーで買い物をしたり、福引きをして景品をもらったりした。また、体育館で歌や炭琴との合奏を発表し、地域の方々に聴いていただいた。昼食は、秋津川婦人会の方々が作って下さった炊き込みごはんをいただいた。 ④硬筆教室(毎週水曜日) ・全児童が放課後公民館で、公民館長から硬筆の指導を受けている。			
			

	成 果	課 題
学校・園	・踊りを教わることを通して、児童が秋津川に伝わる文化に触れるよい機会となっている。 ・まつりに参加することで、児童にとって多くの地域の方と楽しく交流することができている。	・ふるさとまつりと同じ時期に行事が込み合っているため、見直しや精選を図っていく。また、公開授業を地域の方々に参観していただけるように手立てを考えていく必要がある。
*子供にとって	・地域の方々から教わったり、共に活動したりすることで、秋津川の文化を知ることができた。自分たちも地域の一員であることを実感することができた。 ・地域には児童が通える習い事が少ないので、毎週の硬筆教室はよい機会となっている。	・教えて下さっている方々に感謝への気持ちを大切にしたい。
*子供にとって	・地域の人々に対して、自分たちの取組を披露する場を持つことによって、成長に繋げることができた。	・今後も地域の方々との交流を経て、心身の成長と、故郷を愛する心を育ててくれればと思う。
地域（公民館）	・敬老会やふるさとまつりなどの地域の事業に参加することで、地域との繋がりを作ることができた。	・長年実施している事業が多いため、それぞれの事業の見直しを図るには困難なことがあるが、地域の現状に即した事業の展開を図るようにする。
評価及び次年度に向けての取組の方向 ・秋津川音頭、おるり音頭 児童にとって秋津川の文化に触れるよい機会であるので、今後も取り組んでいきたい。 ・ふるさとまつり 児童も、地域の方々も互いに楽しみにしている行事である。他の学校行事とも合わせて実施することができないかを模索していく。 ・硬筆教室 公民館長の協力のおかげで教室を開くことができている。今後も児童のために指導いただきたい。		
		

学社融合活動実践報告

学校・園名 上芳養小学校		公民館名 上芳養公民館	
学社融合における学校・地域の様子 本校区では、年齢層の高い世代はもちろん、保護者層の若い世代においても昔からこの地域に住んでいる世帯が多く、子どもたちが落ち着いて学習に取り組める環境が整っている。また、上芳養地域は梅を地域の主要産業とし、それに関連した仕事に従事している人も多い。そのため、3年生以上の学年で総合的な学習の時間に位置付けられている梅学習には、JAや公民館を始め多くの地域の方々が積極的に関わってくれている。さらに、運動会などの学校行事だけでなく、作品展や講演会、各種スポーツ大会のような公民館行事においても、地域全体の盛り上がりは大きく、学社融合の大きな力となっている。			
活動名 梅から学ぼう		学年・教科・領域等 3年～6年・総合的な学習の時間	
目 標	学校・園	・地域の主要産業である梅を中心とした体験学習を通して収穫の喜びを味わったり、農業に携わる人々の苦労や工夫、抱える問題点に気付く。 ・地域の方との交流を通してコミュニケーション能力の育成を図るとともに、ふるさとを愛する気持ちを育むきっかけとする。	
	地域（公民館）	・地域と児童の繋がりを深め、日常的な交流を円滑にする。 ・地域の教育力を生かし、学校の授業や活動を支援することで地域の活性化へとつなげる。 ・地域の方々が学校や子どもたちの様子を知ること、今後の地域づくりに生かす。	
支援者及び支援組織 公民館 JA紀南上芳養支所 梅農家の方々 田辺市役所梅振興室 中芳養梅加工場			
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 【ねらい】 ○梅の収穫や加工、流通に関わる体験や学習を通して、地域の特産物である梅についての理解を促す。 ○地域の梅をPRすることにより、上芳養の梅の良さを他の地域の人たちに知ってもらい、地域に対する誇りや地域に貢献する喜びを感じる。			
5月12日 梅学習連絡会議(学校・公民館・JA・市梅振興室) …今年度の梅学習の計画			
【3年生】 ○梅はかせになろう ・5月27日 梅座学① { 梅農家の1日・仕事 梅の種類や値段 ・6月10日 梅採り体験 ・6月17日 梅ジュース作り		【5年生】 ○地域の自慢を調べよう ・5月19日 梅座学④…梅畑の変化 ・6月1日 梅座学⑤ 梅栽培・品種・歴史・加工方法・流通 ・6月15日 梅拾い・加工体験(白干し) ・7月25日 梅の天日干し体験 ・8月18日 梅加工体験(しそ漬) ○地域の自慢をまとめよう(今後の予定) ・2月上旬～中芳養梅加工場の見学 ・2月上旬～梅ラベル・リーフレット作成 ・3月中旬～梅パック詰作業	
【4年生】(今後の予定) ○地域で活躍する人の話を聞こう ・2月上旬～ 梅座学② 田辺梅林の歴史 ・2月中旬～ 梅座学③ { 梅畑の観察 花の着花率調べ		【6年生】 ○地域を語ろう ・4月中旬～梅のPR方法を考えよう ・5月15日 梅配り ・10月12日 梅座学⑥ { 世界農業遺産 田辺の梅システム ・10月中旬～ 語り部調査・まとめ ・11月8日 語り部打合せ会議(計3回) ・12月12日 語り部合同練習(計3回) ・1月17日 地域語り部ジュニア発表会 ・3月3日 地域語り部報告会	



	成 果	課 題
学校・園	・3年生から6年生まで続く一連の「梅学習」を通して、地域への理解と誇りを育むことができた。また、その後の語り部活動及び地域への報告会では、自分たちの活動を振り返るとともに、達成感を味わうことができた。 ・梅畑の提供、梅の加工指導、梅製品の検査等、この学習は多くの関係者、関係機関に支えられて成り立つ活動であり、改めて学校が地域に支えられていることを実感している。	・長期的な取組となるが、各学年の活動の系統性を今一度見直し、それぞれの学年の発達段階に応じた学習活動になっているか検討する。 ・総合的な学習の時間に行っている「梅学習」にかかる時間は大きいですが、それ以外の学習活動や他教科との関連、保育所や中学校の活動との連携などについて考える。
* 子供にとつて	・梅栽培に携わる人々の苦労や工夫を理解したことで、今まで何気なく見てきた梅畑や家の人の仕事(手伝いも含む)について関心を高めることができた。 ・自分たちの地域の自慢の梅を修学旅行先で配るのは緊張したが、自分自身への自信にもつながった。	・それぞれの学習活動が受動的な体験に留まらないように、子供たちが自分なりに課題意識を明確に持つ。 ・世界農業遺産に登録されたことを機に、子供たちがその価値や、人と人とのつながりを継承発展させていけるように、さらに多くの地域の方々に関わりを持つ。
* 子供にとつて	・実際の活動計画から公民館、田辺市梅振興室、JA紀南、梅農家の方々等、様々な人とのつながりを持つことができ、交流が深まった。 ・梅産業に従事する人の思いを直接感じることで、地域を愛する心を強くすることができた。	・学校で取り組む活動が、地域の子どもクラブでの活動や公民館行事への積極的な参加につながるよう、さらに交流を深めていく。
地域（公民館）	・梅のPR活動や語り部活動に取り組むことで、地域に誇りを持ち、梅栽培の仕事についての理解が進む。このことは、後継者不足の問題を解決するための小さな糸口として期待できるのではないかと。 ・地域の方々は、子供たちとの会話や交流を通してエネルギーを得ることができていると思われる。	・梅畑の提供をしている梅農家の方々は、ここ何年にもわたって支援してくれている。これからこの取組を継続していく上でも、個人の厚意だけに頼るのではなく、もう少し広がりを持たせるように組織の啓発活動も促していきたい。同時に、公民館としても梅拾いや報告会等への参加だけでなく、日々の学習活動への関わり方も考えていく必要がある。

評価及び次年度に向けての取組の方向

評価

これらの活動は、例年修学旅行での梅配りや、学習発表会または集会での報告などを行うことで、情報発信をしてきた。しかし、今年度は「地域語り部ジュニア発表会」という機会を得て、課題のひとつである中学校との連携、系統性を意識したものとなった。食育の面から見ても、自分たちで作った梅干しを給食に利用したり、家庭科の調理実習に使ったりするなどして、他教科と関連させて展開させることができる。また、音楽集会などでも「梅ぼしの歌」を全校で歌ったり、給食の時間に流したりして、他の活動と発展的につなぐことができるものとなっている。



次年度に向けて

年度当初に梅学習連絡会議を発足させ、今年度の活動について話し合うことで、お互いを知り、活動の継続が図られた点は大きかった。しかし、日常の学習活動について意見交流したり、年度末に反省の機会を設けたりする場が持てると、次年度にはさらに改善点が生かされていくのではないかと考える。

学社融合活動実践報告

学校・園名 中芳養小学校		公民館名 中芳養公民館
学社融合における学校・地域の様子 本校は、田辺市街地周辺の農村地帯に立地している。児童は、明るく元気で、上学年の児童が下学年の児童の世話をするなど温かい雰囲気がある。地域住民は教育に対する関心が高く、学校教育活動にも協力的である。 小学校における学社融合の取組は、平成26年度より3年間、「共育コミュニティ本部事業」の指定を受け、本年度は本発表を行った。取組の方向性としては中芳養地域に根付いたものになるよう工夫しながら進めているところである。 教育活動において、住民間の交流を進めたり、融和を図ったりする重要な役割を念頭において授業や学校行事に取り組んでいる。加えて、児童の学力の定着・向上を図るためにも地域の教育資源を生かしていきたいと考えている。学校としても、こうした取組の中で、児童が地域社会で認められ、地域の子どもとしてつながりを深められるような関係を今後も築いていきたいと考えている。また、地域がもつ教育資源(人的・物的)を学校教育に生かし、特色ある教育を展開していきたい。		
活動名 中芳養のこれからについて考えよう・作って学んで遊ぼう		学年・教科・領域等 6年・総合的な学習の時間 3・4年・図画工作科
目 標	学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域とのつながりを深めることで、児童と地域の住民の交流がさらに進むようにする。 ・地域とつながることで、自分の住むふるさとを愛する心を育む。 ・地域の住民に子どもたちを知ってもらうことで安心して暮らせる町づくりに取り組む。 ・地域の方から専門的知識や技能を得、コミュニケーション能力の形成や学習の効率化を図る。
	地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・地域全体で子どもたちの成長を見守り、育てようとする意識を高める。 ・地域の人々が学校の学習に参加することで、子どもたちと地域の人々のお互いが学び合う。 ・事業や取組に対して、地域全体で作りに上げるという地域の連帯意識を育成する。
支援者及び支援組織 中芳養公民館 校区町内会 芳寿会 中芳養幼稚園 中芳養中学校 中芳養幼稚園・学校PTA 地域在住の有識者 中芳養共育コミュニティ本部		
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 「各教科・領域を通して確かな学力を育む」 平成28年11月20日(日) 単元名:「中芳養のこれからについて考えよう」第6学年 町内会長をはじめ、地域の方の協力を得ながら「中芳養のこれからについて考えよう」と設定し、子どもたちに考えをもたせるようにした。子どもたちは、自分自身の考えを分かるように伝える工夫をし、地域の方々に聞いていただいた。それを地域の方々に評価していただけたことは子どもたちの自信にもつながった。 地域の特性を調べる中で、地域や保護者の皆さんにも初めての情報を伝えたり、中芳養ガイドマップを作成したりすることで児童に成就感を味わわせることができた。		
		単元名:「作って学んで遊ぼう」3・4学年 地域・保護者の方に授業に入っていたことは、学習効果をあげるためには大変有意義な活動だといえる。「作って学んで遊ぼう」の単元では、児童の意欲を喚起させることができ、少ない時間の中で地域の方や保護者との交流を図りながら作品を仕上げることもできた。 時間的な打合せ、児童の実態や日程等の調整は必要ではあるが、教育的効果が得られるため今後も継続して取り組んでいきたい。
		

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度から3年間、「共育コミュニティ本部事業」の指定を受け、地域とのつながりを深める取組を充実させることができた。 ・各学年の授業に多くの地域の方々に関わっていただき、学習内容を深めることができた。また、地域資源を教材化することもでき、地域を知ることにつながった。 ・学習の成果を発信する場として、本年度は「共育コミュニティ本部事業研究発表会」を開催したが、大きな成果を得ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さらに人とのつながりを深めていくために、地域の人同士が関わりを持てる場の設定をしていく必要がある。 ・思考力と表現力等、各教科で培った学力を地域学習において有効に活用させることが課題である。より一層、学力の向上を図りたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々に授業に参加していただくことは、子どもたちに郷土を愛する心を育て、そして、自分たちの町を誇れる心の育成にもつながるものと思われる。また、コミュニケーション能力の育成や生きる力を高めることにもつながるものと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・将来にわたり継続した取組になるよう内容の精選やさらに深化させる部分について検討していきたい。また、学習の中で、児童の実態に合わせてさらに学習効果を高めていくための方法を考えていく必要がある。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々に向けて、自分たちの取組や成果を発表することによって、自信が持て、大きな成長につながった。 ・地域の人々と接する機会が増え、子どもたちは見守られているという安心感を持つことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な体験や交流を通して、自分で感じたことや考えたことをいかしながら、地域に対しての関心をさらに深めてほしい。
地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々が学校の学習や取組に関心を持ち、子どもたちと触れ合うことによって、楽しみが生まれた。 ・事業を通して、子どもたちとの交流が深まり、大人同士も交流を深め、つながることができた。 ・地域の良さや大切に思う心を子どもたちに伝えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な取組に参加し、協力していただける地域の人々を発掘することで、さらに充実した取組の内容となるように学校、地域との連携を深めていきたい。 ・事業や取組に対して、今後も継続して実施していくことができるように、地域全体が協力し合いながら取組を展開していきたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向 本年度の取組としては、中芳養コミュニティ運動会や合同作品展、幼稚園・小学校・中学校のPTAで組織した「ちいむ なかはや」の活動等、共育コミュニティ本部事業を中心とした活動を行うことができた。合同作品展については例年以上の出品数で多岐にわたる内容で、来場者数も増えた。 共育コミュニティ本部事業研究発表会では、授業へ地域の方に入っていたことで児童のコミュニケーション能力や文章表現力の育成に効果的であった。 小学校での学習では、昨年度からの「あきまつり」(低学年:生活科)や梅学習「梅博士になろう」(第3学年:総合)などで地域や保護者の方に協力をいただきながら取り組んできたことをさらに発展させることができた。第4学年では中芳養地域の地理的な特性などを教えていただき、「ふるさと自然マップ」を作成し、災害が予想される場所を調べると同時に中芳養の良さを伝えられるような活動を展開することもできた。 今後の課題として、本年度の取組を継続していくため、内容の精選や深化を図りながら取り組んでいきたい。また、地域の方々に学習活動に参加していただくことで学習効果を高めていきたい。		

学社融合活動実践報告

学校・園名 田辺東部小学校		公民館名 ひがし公民館
学社融合における学校・地域の様子 平成7年に「ひがしコミュニティーセンター」が建設されてから、学校と地域公民館が連携した取組も充実してきた。今年で9回目を迎えた「ひがしふれあい秋祭り」がその代表的なものである。4町内会・地域の各種団体・学校・公民館が合同で、幅広い世代の方々がふれあえるきっかけを作り、地域住民の交流を図るとともに、地域の連帯感を深めることができている。今回も昨年度に引き続き、その場で6年生が「東部っ子今昔 宝 物語」の学習発表をした。語り部学習の取り組みも2年目になり、1月には「田辺市語り部ジュニア発表会」を控えての学習となったが、学習を進めていく中で、児童は地域の方々から、地域の歴史や文化、町作りをどのような願いで進めてきたのか、またその時の苦労や喜び等を学ぶことができた。		
活動名 東部っ子今昔 宝 物語		学年・教科・領域等 6年・総合的な学習
目 標	学校・園	・田辺東部小学校区の今と昔を調べ、語り部活動として下級生や保護者・地域の方々に発表することを通して、自分たちの町の良さを再認識し、地域に誇りと愛着を持つ。
	地域（公民館）	・子どもたちと地域の方々の交流の橋渡し役となる。 ・地域の良さを伝えることによって、自分たちも地域について再認識する機会とする。
支援者及び支援組織 ひがしコミュニティーセンター NPO法人花つぼみ 西牟婁総合庁舎 田辺工業高校 田辺市消防本部 ひがし公民館 地域にお住まいの方々		
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) ①導入・学習計画を立てる(6月) 自分たちの住む地域は、新しい住宅地であり、田辺市の中でも新しくできた町であるという特色がある。そこで、地域の今と昔を調べて、新しい町づくりに取り組んだ人々の思いや、今現在の地域の様子などを発表するという計画を立てた。		
②インタビューの準備 (9月) 各地区をよく知る方々に質問したい事を考え、インタビューの計画を立てた。お招きするゲストは公民館主事に紹介していただいた。		
③地域の方々にインタビュー(10月) 各地区のゲストティーチャーを招いて、昔の町の様子や、新しい町作りへの願いや苦労などについて教えていただいた。		
④調査に出かける(10月) 「花つぼみ」「ひがしコミュニティーセンター」「田辺工業高校」「西牟婁振興局」「田辺市消防本部」に調査に出かけ、それぞれの場所で説明を受けたり、質問に答えていただいたりした。		
⑤調べた事をまとめる(10月) インタビューや調査で分かった事を、各地区別のグループでまとめた。地域の方々の熱い思いや願いをたくさん知り、地域の魅力を「ひがしふれあい秋祭り」で多くの方々に伝えたいとの思いで、発表原稿作りに取り組んだ。		
⑥「ひがしふれあい秋祭り」で発表(11月) これまで学習してきた地域の魅力について大勢の人の前で発表した。		



	成 果	課 題
学校・園	語り部学習は6年生による取組であったが、地域の特色や歴史、施設、住民の願い等を調べ、下級生にも発表することで、全校児童にふるさとに誇りと愛着を持たせるよい機会となった。 地域の方々から学んだことを、地域に発信することで、地域と学校が連携して、さらによりよい地域にしたいとの思いを共有する事ができた。	限られた時間の中で、より効果的に「ねらい」を達成できるように計画的に学習を進める必要がある。
*子供にとって	自分の身近な地域をテーマとした学習であったため、子どもたちの興味関心が高く、意欲的に学習をすすめることができた。	児童一人一人の興味・関心に沿った学習を支援できるように、十分な時間を確保する必要がある。
*子供にとって	地域の方、施設に勤務している方にインタビューやフィールドサーチを行う事で、コミュニケーション能力を高める事ができた。ふれあい秋祭りや校内の発表を通して、自身の表現力を高め、達成感を味わう事ができた。	地域に対する誇りや愛着を忘れず、地域貢献にさらに取り組んでいけるようにしたい。
地域（公民館）	子どもたちに、地域の歴史や施設、住民の願い等を伝える事に喜びを感じている。自分たちにとっても、地域を再認識できる活動となった。	今後も公民館と学校が連携を密にして計画的に活動を進めていくことが大切である。

評価及び次年度に向けての取組の方向

2年目を迎えた語り部学習であったが、学校・公民館・地域が連携して取り組み、昨年度以上に充実した学習となった。以下に、児童の感想を一部紹介する。

・私は、12年間あけぼのに住んでいるけど、全然あけぼののことを知らなかったことが分かりました。よいところをたくさん知ることができて誇りに思います。私たちは、あけぼのの未来をよりよくするために、町内のみなさんと協力して造られた「あけぼの会館」を大切にしたいと考えています。また、地域の行事である廃品回収や火の用心活動、盆踊りなどに積極的に参加し、あけぼの全体で交流を深め、つながりを大切にしていきたいと考えています。

児童の感想にあるように、今年度も、児童に故郷を愛する心の芽を育むことができた。また、地域に貢献する活動に取り組もうとする意欲を喚起することができた。内容や方法を工夫しながら、次年度以降も地域学習に取り組んでいきたいと考えている。
本稿では6年生の語り部学習を紹介したが、言うまでもなく、学社融合の取組は6年間を通じて行われるものであり、低・中・高それぞれの学年で様々な実践に取り組んできている。6年生が語り部学習で成果を上げることができたのは、それらの積み重ねによるものが大きいと思う。また、本校の学社融合の中心となる行事として「ひがしふれあい秋祭り」があり、その内容をさらに充実したものとしていくことが重要である。今後も学校・公民館・地域が協力し、一体となった取り組みを続けていきたい。

学社融合活動実践報告

学校・園名 龍神小学校		公民館名 龍神公民館 龍神分館	
学社融合における学校・地域の様子 本年度も龍人学（龍神）の礎である「龍神の元気の素は人にあり」を旗印にして学社融合を推進することにより、龍神小学校区の人を元気にすることを目標に取り組みました。「ダイヤモンドを磨くのはダイヤモンドである。人を磨くのもまた人である」という共通認識の下、児童が地域で生活する様々な方々と触れ合い、ともに活動することで、児童も地域の方々も元気になっています。 保護者や地域の方々も、学校の教育活動に大変協力的です。運動会はもとより、様々な学校行事や授業参観に地域の方々も学校を訪れてくれています。			
活動名 防災キャンプ		学年・教科・領域等 3・4・5・6年 学校行事	
目 標	学校・園	・災害時の避難所として指定されている学校での宿泊体験を通して、集団の中で自分の役割を自覚し主体的に行動する態度を身につけるとともに、地域の方々とも協力しながら避難生活を送ることができる。 ・保存食や防災用品の活用体験を通して、防災意識の向上を図る。	
	地域（公民館）	・児童と地域が一体となった防災学習のあり方を考える。	
支援者及び支援組織 田辺市役所総務部防災まちづくり課 田辺市役所龍神行政局 田辺市立龍神小学校PTA			
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 本校は地域の避難所に指定されていることから、昨年度より「地域の方と協力しながら主体的に避難生活を送ることができる児童を育てる」ことを目的として、3年生以上で1泊2日の防災キャンプを実施している。「子どもたちが自ら地域のためにできることは何かを考え、地域の方々とも協力できる活動を組み込む」という昨年度の課題を克服するため、本年度は、田辺市役所総務部防災まちづくり課の方を講師に迎え、「災害時に知っている役立つ知識を体験を通して知り、自分自身の命を守ることと同時に避難してきた地域の方の命を守る」ことを目的とした防災学習をプログラムに組み入れ、7月29日、30日に実施した。子どもたちは体験を通し、「自分の命を守ること同時に地域の方の命も守ること」を念頭に置いて次のようなことを学習した。 ①非常用持ち出し袋に入れる物(自分にとって必要な物を準備を考える) ②新聞で暖をとる方法 ③簡易ランタンの作り方 ④簡易トイレの作り方 ⑤ロープの結び方 また、本年度は、「配給」をキーワードとしてキャンプを実施し、食料・飲料水や寝るためのシートなどを配給した。「高齢者、障害のある人、乳幼児、病気のある人をいたわる」「自分でできることは自分でする」というルールなどを説明し、キャンプ中の様々な場面において配給を意識させた。 食事には、アルファ米や缶詰の他、本年度は乾パンと500mLのペットボトルとお茶も1本ずつ配給し、1泊2日を見通して計画的に消費するように指導した。今年度は2回目ということで、食事はスムーズに行うことができた。今年新しく参加した3年生児童には高学年児童が作り方を優しく教えていた。また、児童が学校園で育てた野菜も食事に加えた。 2日目の朝は、学校の周りを散歩しながら自然に触れながら共に防災の視点から危険箇所の確認を行った。			



	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの防災意識の向上を図ることができた。 防災まちづくり課との連携を図ることにより、今後の防災教育のあり方を考えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 各家庭における防災意識についての実態把握をする必要がある。
* 子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> 災害時に役立つ知識や技を学ぶことができた。 地域の方のために役立つ気持ちは持つことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの防災意識についての実態把握をする必要がある。 1年に1回の体験になってしまっているため、定期的に行う必要がある。
* 子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> 防災まちづくり課の職員の方から学んだ知識や技を地域の方々のために生かしていこうという気持ちを持つことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 実際に地域の方と触れ合いながらの防災学習を行うことができなかった。
地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> 学校主催の「防災意識の向上を図る」取組に地域住民を巻き込み、公民館としての防災教育のあり方を考えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 公民館として、防災キャンプにどう関わっていくかを今後検討していく必要がある。
評価及び次年度に向けての取組の方向 評価 職員が防災キャンプのねらいを子どもたちに常に意識させる指示や問いかけをすることにより、子どもたちが防災の大切さと地域の方々と共に協力することの重要性を意識することができた。 また、田辺市役所総務部防災まちづくり課の方の話は大変有意義であった。毎年1月に開いている学校・PTA・龍神公民館龍神分館共催の「防災学習会」にも同じ田辺市役所総務部防災まちづくり課の方に来ていただき更に学習を深めることができた。		
次年度に向けての取組の方向 来年度夏に実施する第3回防災キャンプには、学校・PTA・龍神公民館龍神分館の共催の防災学習会を組み入れ、地域の方にも参加していただき、子どもと高齢者がペアになって防災体験を行える活動をしていきたい。体験活動の指導は、田辺市役所総務部防災まちづくり課の方、もしくは避難所での生活の体験のある方をお願いしたいと考えている。 来年度は3年目になる。行事の3年目は慣れてくるころである。今まで以上により丁寧に事前・事後指導を行う必要があると考えている。		

学社融合活動実践報告

学校・園名 上山路小学校		公民館名 龍神公民館・殿原分館・東西分館・宮代分館
学社融合における学校・地域の様子 本校では、これまで地域との交流を学社融合の柱としてきた。しかし、この取組は主に高齢者学級や高齢者クラブとの交流で、保護者が入ることはなかった。実際の地域の担い手である保護者層の参加・協力による、保護者層の意識改革が課題としてあげられていた。 また、児童については、人に挨拶をする、自分の考えを説明したり、人の話を踏まえて答えたりするなどのコミュニケーション能力の弱さについて課題が指摘されている。		
活動名 三世代交流学習		学年・教科・領域等 全学年・生活科・総合・特活
目 標	学校・園	・高齢者を中心とした地域交流に保護者を巻き込んで三世代交流学習を進める。地域に伝わる遊びや伝統的な技術についての学習を通して、地域に住む人の思いに迫ると共に、子どもも保護者も高齢者から学ぶ機会を設ける。 ・学社融合の取組を通して、コミュニケーション能力の向上を図る。
	地域（公民館）	・地域と保護者や子どもがふれあい、学校教育への理解を深める。 ・三世代交流学習を通して保護者層の意識改革を図り、地域の活性化を図る。
支援者及び支援組織 龍神公民館 上宮代ふれあいクラブ 殿原老人クラブ 丹生ノ川はてなしクラブ あけぼの学級 せいじゅ学級 宮代和の会		
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 4月25日(月) 学校地域連絡協議会(高齢者交流について提案し、了承を得る) ○三世代交流学習の活動内容 1 干し柿作り体験(3・4年生) 目的:子どもと保護者が干し柿作りを通して、高齢者から伝統的な作業と知恵を学ぶとともに、交流の時間を設け、コミュニケーション能力の育成を図る。 10月中旬 打合わせ 11月15日(火) 殿原老人クラブ・丹生ノ川はてなしクラブ・保護者と干し柿作り体験 (於:ささやか館) 2 昔の遊び体験(1・2年生) 目的:子どもと保護者が昔からの遊びを通して、高齢者から伝統的な遊びを学ぶとともに、交流の時間を設けることでコミュニケーション能力の育成を図る。 10月下旬 打合わせ 11月15日(火) 上宮代ふれあいクラブ・あけぼの学級・せいじゅ学級・保護者と昔の遊び体験 (於:きずな館) (おはじき、お手玉、コマ回し、ウラジロ飛ばしを班ごとに交代して体験) 3 縄ない体験(5・6年生) 目的:子どもがわらをたたいて準備し、保護者と一緒に昔から伝わる縄ないの方法を高齢者から学ぶとともに、交流の時間を設けてコミュニケーション能力の育成を図る。 12月初旬 打合せ 12月15日(木) 宮代和の会・あけぼの学級・保護者と縄ないの体験(本校)		

	成 果	課 題
学校・園	・三世代交流学習を行ったことで、児童と保護者がともに地域の高齢者から学ぶ機会を持つことができた。 ・机上では身に付けさせることのできない経験を子どもたちにさせることができた。	・保護者の学社融合推進に対する意識改革を行う。 ・高齢者クラブ・学級のさらなる高齢化により、指導者を確保することが難しくなっている。
* 子供にとって	・地域の伝統や文化を、体験を通して知ることができた。 ・交流学習を行う中で、コミュニケーション能力を高める機会が持てた。	・取組をいかにして学力や生きる力などの能力の向上と結び付けるか。
* 子供にとって	・交流活動を通して地域の方々の名前を覚えることができた。 ・地域の方々顔見知りになることで、校外でも地域に見守っていただけるようになった。	・地域の一員として、ふるさとの将来を考えることができる児童を育てる。 ・学校の取組以外でのコミュニケーションが取れる子どもたちを育てる。
地域（公民館）	・学校と地域、地域と地域の結びつきを深めることができた。 ・子ども・保護者・地域の三者がふれあうことで、地域の活性化につながった。 ・取組を行うために高齢者クラブや学級内での話し合い等を持ち、公民館活動が充実できた。	・高齢化により、クラブ・学級の活動が難しくなっている。 ・保護者層の教育参画。
評価及び次年度に向けての取組の方向		
評価 ・子どもたちは、三世代交流学習を通して地域の伝統や文化を知ったり、地域の方々との交流を深めたりすることができた。参加した保護者からは、「自分たちも知らなかったことを、子どもたちと一緒に学ぶ良い機会になった」という声が聞かれた。また、高齢者からは、「子どもたちと交流したり、自分の経験や知識を伝えることが生きがいとなっている。」という声も寄せられている。三世代交流学習は、子ども・保護者・高齢者それぞれにとって有意義な活動となった。 ・昨年度まで行っていた「しめ縄体験」は、講師の調整がつかずに今年度は実施できなかったが、より身近な技術の伝承として、「縄ない体験」を行うことができた。		
次年度に向けての取組の方向 今後も、保護者と子どもが交流学習を通して高齢者から地域の文化や伝統を学ぶ機会を設けることで、保護者の学びを促進し、地域の活性化を図っていきたい。 また、子どもに生きて働く力が身につくように、体験活動や交流活動を通して、子どものコミュニケーション能力の育成を図っていく必要がある。		

学社融合活動実践報告

学校・園名 中山路小学校		公民館名 龍神公民館中山路分館
学社融合における学校・地域の様子 本校は、平成11年より龍人学を中心に地域教材・地域人材・地域の施設・地域の活動への参加を通して、地域に根ざした教育活動を広く行い、その基盤を生かしてキャリア教育・食育等の実践とともに「地域の学校」としての活動を展開してきた。これらの取組により学校への協力や支援体制も確立してきた。今後もお互いの専門性を生かしつつ、学校・家庭・地域が協力して児童の健全育成を図るよう連携を深めたいと考える。		
活動名 せんだん餅つき交流会 昔学習		学年・教科・領域等 全校児童・総合・生活
目 標	学校・園	午前中の餅つき交流会に引き続き、地域の教育力を生かして「昔の遊び体験」「昔のおやつ作り体験」「グラウンドゴルフ体験」「昔の築根地区の学習」を行い、地域を知る機会とする。
	地域（公民館）	学校と地域をつなぐ役割として広く人材の発掘や地域行事などの情報提供、連絡調整の協力を仰ぎ、地域の教育力を学校の教育活動に生かすとともに地域住民の生き甲斐づくりを支援する。
支援者及び支援組織 龍神公民館 龍神公民館中山路分館		
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 今年度の学社融合の取組としては、昨年度の実践を継承し、事前事後指導に加え親子がともに学習することをきっかけに、家庭での学習や地域とのつながりを深められる学社融合を目標に昔学習に取り組んだ。 10月3日(月)～11月1日(火) 事前指導として1・2年生は昔の遊びや遊び道具、3年生は昔のおやつやおやつ代わりに食べられていた物、4年生はグラウンドゴルフのルール、5・6年生は学校所在地の築根地区の昔の様子について学習するとともに、各担任が講師先生を訪問し、学習のねらいや準備物、日程等の事前打ち合わせを行った。 11月2日(水) 1・2年生は独楽回しとお手玉、3年生はあげび等の食べられる植物やはったい粉や片栗粉で作るおやつ作り、4年生はグラウンドゴルフ体験、5・6年生は現地を歩きながら、筏乗りの宿泊場所として、また、索道の駅として賑わっていた築根地区について、それぞれ地域の方を講師に親子で体験や学習を行った。		
  		

	成 果	課 題
学校・園	事前指導の取組を深めることで、学習のめあてが明確になり学習意欲も高まった。また、親子での体験や学習を重視することで、親子の共通の話題となり、学校と保護者、地域住民とのつながりが深まった。	教わるだけの学習ではなく、学んだことをもとに学習を深め、地域の方に発信できるような学社融合を構築する。
*子供にとって	事前指導に取り組むことで、各学年とも意欲的に学習し、体験や学習、交流を通して地域住民の教育力を感じるとともに地域の一員としての自覚が深まった。	地域住民の高齢化が進むため、昔の築根地区の様子など、教わったことをまとめ、子供たちが継承する取組が必要である。
*子供にとって	18年目の「花の宅配」、30年目の「もちつき交流会」、5年目の「昔学習」などの行事、登下校時の見守り等を通して、地域の教育力を知るとともに地域に守られている事に気づくことができた。	児童にとっての地域の方との交流の場は、秋祭りのお神楽の練習や学校行事(花の移植と花の宅配・運動会・餅つき交流会と昔学習・学習発表会)であるため、地域をより知るために、今年度より地域学習を意識して取り組んできた。その結果「ジャガイモ掘り体験」等、地域の方からの声かけをいただくなどの成果があり、今後も地域学習に取り組みたい。
地域（公民館）	「花の移植や餅つきを楽しみにしている。」という地域の方の声や聞きなど、花の移植や餅つき交流会等、学校が長年取り組んでいる行事が三世代交流の場となり、地域の教育力を知るとともに、地域の方の活動の場となっている。	地域住民の高齢化が進むため、地域の教育力を生かした取組を継続・発展させ、継承していく施策が必要である。
評価及び次年度に向けての取組の方向 評価 今年度の学社融合は、昨年度の取組を継続し、事前指導や親子での体験活動に重きを置いて「昔学習」を行うことにより、学校や家庭での継続した学習に発展できた。地域の先生から教わったことや体験したことを出発点として、教師や子ども、保護者が地域学習の大切さに気づき、自分たちで次の学習に取り組むなど、学習の継続ができた。また、地域学習を進めることで、地域の方から「ジャガイモ掘り体験」の声かけがあるなど、地域との新しいつながりもできた。		
次年度へ向けての取組の方向 地域の高齢化が進む中、公民館等と協力して地域人材や地域教材の発掘を意識し、地域の教育力を生かした学社融合を継続していきたい。一方的に教わるだけでなく、教わったことを地域に発信したり、教わったことを契機に新たな地域学習に取り組んだりするなど、学校から地域に向けた学社融合の形を模索したい。		

学社融合活動実践報告

学校・園名 咲楽小学校		公民館名 龍神公民館福井分館・甲斐ノ川分館
学社融合における学校・地域の様子 地域の学校や教育に対する関心は高い。ほとんどの家庭がPTA準会員として物心ともに協力してくれ、運動会や学習発表会等にも大勢の参加がある。各地区の区長、老人会長、女性会代表や公民館、PTA、学校職員等で組織する学校地域連携推進会議が学校と地域を結ぶ中心的な役割を果たしている。地域の祭礼では児童も事前に笛や太鼓、獅子舞等を習い、祭りに積極的に参加するとともに、会場には児童会で作ったゴミ箱を設置するなど、学校と地域との結びつきは強く、地域ぐるみで子どもを育てていこうという土壌がある。みふくし学習(ふるさと学習)を学社融合の柱として、生活科・社会科・総合的な学習の時間を中心に地域の自然や文化、歴史について地域の人・もの・ことから学び地域にかえていくことを目指している。		
活動名 学校開放月間(学校開放週間 学校に行こう！)		学年・教科・領域等 全学年・生活科、社会科、総合的な学習の時間等
目 標	学 校 ・ 園	・授業を見てもらい一緒に活動することで、地域の方々を知り地域とのつながりを深める。 ・地域の方の協力を得て、学校だけではできない学びや活動を行う。
	地 域 (公 民 館)	・授業を見てもらったりともに活動したりすることで、学校や児童の様子を知る。 ・地域の方々の交流や活躍の場をつくることで、地域の活性化を図る。
支援者及び支援組織 公民館 老人会 学校地域連携推進委員会 西牟婁振興局林務課 保護者 真砂典明 後藤昇 千葉浩志		
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) ◇11月7日～11日「学校に行こう！(学校開放週間)」 学校の様子を知ってもらい、地域の方から学んだり地域の方と共に学んだりする活動を通して地域住民との交流を深めるため、「学校に行こう！(学校開放週間)」を設定した。校区全戸に案内を配布するとともに、保護者と学校地域連携推進委員会、老人会には重ねて出席を呼びかけた。当日は保護者、地域住民合わせて約40名の参加があった。 ①公開授業 8日(火)・9日(水) 各学級でそれぞれ国語、算数、理科、社会、生活、音楽、体育、道徳等の授業を公開し、保護者や地域の方々に参観していただいた。 ②親子木工教室 9日(水) 地元の林業家である真砂典明さんを講師に木工教室を開催した。地元の産業である林業や身近にある森林・木材等について学び、木を材料に3～6年生の全児童に一つずつ木製カレンダーを完成させた。保護者や地域の方も児童の作業を手伝ったり教えたりしてくださった。 ③昔の遊び体験 9日(水) 1・2年生は生活科の学習として地域にお住まいの後藤昇さんと老人会を中心とした地域の方々に来ていただき、紙鉄砲(竹細工)の製作と遊び方について教えていただいた。 ④花の苗植え 10日(木) 千葉浩志さんの指導により3・4年生が育てた花の苗を、千葉さんと地域の方々にご協力をいただき、全校児童で学校の花壇やプランターに苗の植え替え作業を行った。 ◇27日(日)「学習発表会」 保護者や地域の方々に各学級で練習していた合奏や劇を観ていただいた。約100名の参観者数であった。		

	成 果	課 題
学 校 ・ 園	・大勢の方に学校に来てもらい、学校や児童の様子を知っていただくことができた。地域との一体感が得られた。 ・木工、昔の遊び、苗植え等、地域の方の技術があつてこそその学習や、大勢の大人の助けなしにはできない学習・活動を行うことができた。	・準備や活動は、スムーズに行うことができたが公開授業を参観して下さる方が少なかった。やはり学校は授業こそが本分なので、その授業を観て下さる方を増やす方法を考えていかなければならない。 ・学習発表会については、学校便り(全戸配布)ではお知らせしたが、案内(チラシ)は保護者のみだったので来年度は全戸配布をしたい。
* 子 供 に と っ て	・地域の方から木工を教わり質の高い学習ができた。また、保護者や地域の方々の助けやアドバイスを得ながら作品を完成することができた。 ・地域のお年寄りに紙鉄砲の製作に携わっていただき、完成後はみんなで楽しく遊ぶことができた。	・子どもから地域に発信したり働きかけたりするような、子どもが主体となる活動も考えていきたい。
* 子 供 に と っ て	・ともに活動してくれる大人がいることで、地域に見守られ支えられているという安心感が得られた。	・ゆったりと大人と子どもが触れ合うゆとりがあつたが、内容の工夫改善が必要である。
地 域 (公 民 館)	・学校や児童の様子を知ることができた。また、木工技術や遊びなど、微々たるものではあるが「文化の継承」につながる活動ができた。 ・教えたりともに活動したりすることが、大人の側にとっても楽しみであり、学校と地域がつながるきっかけにもなっている。	・参加者が固定化してきている。いかにして参加者の幅を広げ地域全体の活動にしていけるか内容等考えていきたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向 「学校開放週間」は学校や地域の年間行事として定着しつつある。さらに充実したものとするためには「みふくし学習」を意識し児童がもっと主体的に取り組めるような内容にしていきたい。また、より多くの方に学校の様子を知ってもらうために、日程やお知らせの方法等を再度考える必要性を感じている。今後も学校と地域双方にとって無理のない形で、互いのプラスになるような「学校開放月間(学校開放週間)」の取組を続け、さらに学校と地域の結びつきを強めていきたい。		

学社融合活動実践報告

学校・園名 中辺路小学校		公民館名 中辺路拠点公民館
学社融合における学校・地域の様子 中辺路小学校は、統合して4年目となり、広い地域の中から、ふるさと学習について、児童と地域がともに学ぶことができるものを取り上げ、中辺路ならではの内容を取捨選択しながら、学習を深める取組を行ってきた。 日頃より開かれた学校作りに努め、学校の取組や児童の様子を知ってもらえるように、いろいろな学習や行事等を企画し、地域の方々に学校へ来ていただく機会を設けることができた。		
活動名 学びの町 中辺路 地域の方々とともに歩む		学年・教科・領域等 生活科・社会科・家庭科・総合的な学習の時間
目 標	学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々とともに学び、地域に親しみをもつことができる。 ・ふるさと中辺路に愛着を持ち、その良さ、魅力を発信することができる。 ・地域の方々に協力していただくことにより、学校と地域の関係を密にしていく。
	地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・学びの支援者として、地域の教育人材の発掘と学校支援の拡大に努める。 ・子どもたちを地域と学校がともに見守り、育てていく教育の基盤を構築する。 ・地域の方々に、学校と公民館が協力し合って教育活動を進めている様子を紹介する。
支援者及び支援組織 地元在住の旧小学校卒業生 福祉協議会 老人会 女性会 子ども三番叟保存会 中辺路音頭保存会等		
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 【ねらい】 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々とともに学び、地域に親しみをもつことができる。 ・ふるさと中辺路に愛着をもち、その良さ、魅力を発信することができる。 【活動内容】 [1学期] 低学年・・・学校や学校周辺を探索する学習を通して、学習支援者にアドバイスをもらったり、地域の昔の様子を教してもらったりすることができた。 中学年・・・地域の産業の一つである梅農家を訪問し、収穫体験をさせてもらったり、仕事の内容や工夫などを教えてもらうことができた。 高学年・・・地域の田んぼをお借りし、前年度の米を使って苗作りをし、田植え、草抜きや収穫等米作りの仕事を体験させてもらうことができた。 [2学期] 低学年・・・統合前の旧二川小学校へ行き、地域の方々と交流することができた。また、統合前の小学校巡りを行い、昔の様子などのお話を聞くことができた。 中学年・・・地域にある老人福祉施設等へ出向き、交流したり、お話をしたりすることができた。 世界遺産追加登録された場所を地域の方と共に歩き、古道にまつわるお話を教えていただくことができた。 高学年・・・地域の女性会の方々に地元で作られている味噌を使ったみそ汁の作り方を教わったり、ミシンの使い方を教わったりすることができた。 世界遺産追加登録された場所を地域の方々とともに歩き、当時の様子を聞いたり、歴史について教してもらったりすることができた。 [3学期] 低学年・・・地域の方に昔の遊びについて教えてもらうことができた。 中学年・・・地域の昔のくらしや様子などについて教えてもらうことができた。 高学年・・・世界遺産追加登録された場所や、課題に沿って調べた古道などについて、地域の方にアドバイスをもらいながら、ガイドブックやパワーポイントなどにまとめることができた。 【1年間を通して】 <ul style="list-style-type: none"> ・全校で芋の苗植えをし、水やりや草抜きなどを行い、11月の収穫祭に向けて、老人会の方々といっしょに育て、焼き芋を作ったり、グラウンドゴルフ大会をしたりすることができた。 ・地域の伝統芸能である子ども三番叟のてばやして使う三味線の練習を行ったり、三味線を使っていろいろな曲に挑戦したりすることができた。 ・練習の成果を、文協フェスティバルに参加して発表したり、祭りで子ども三番叟を披露したりすることができた。 		

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は世界遺産追加登録された所を地域の方々とともに歩き、歴史や自然などについて学習することができた。 ・まだまだ、自分たちの住む町には、素晴らしい所があることを再認識することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回協力していただいた方から、さらに多くの方々に、支援者の輪が広がってほしい。 ・校区にある地域について、各学年の学習計画と地域人材を旨く結びつけること。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人がそれぞれ課題をもち、ふるさと学習に取り組む上で、学習支援者のおかげで、地域のよさを知ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の視野の広がりを、ふるさと学習を通してどのように拡大していくか。 ・児童の自主的な活動や地域と結びついた学習活動の工夫。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々とともに学習を進めることにより、地域の方との交流を深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方との学校外での日常交流が少ない。
地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度、世界遺産追加登録されたところを地域の方々とともに歩くことを企画したり、中辺路町内の南方熊楠ゆかりの地を巡る活動等を行うことにより、学校、地域、公民館等地域全体で、児童を育てるという橋渡ししができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域支援者の高齢化により、今後の事業継続のための、新たな支援者を必要としている。
評価及び次年度に向けての取組の方向 <ul style="list-style-type: none"> ・特に今年度は、世界遺産追加登録された熊野古道を地域の方々とともに歩き、地域のすばらしさを再発見することができた。 ・年間を通じて、さまざまな形で、地域の方に学習支援者として関わってもらえることができ、郷土の歴史や良さについて知ることができた。 ・公民館主催の「子ども環境探偵団」についても、地域のよさを発見するよい機会を与えていただくことができ、大変有意義であった。 ・今後も、「学びの町 中辺路 とともに育み とともに育つ」の方向性でふるさと学習を大切にしながら、新たな取組や、改善を加えていく必要がある。 		
		

学社融合活動実践報告

学校・園名 近野小学校		公民館名 中辺路公民館近野分館			
学社融合における学校・地域の様子 本校は児童数24名の小規模校である。地域は、年々過疎化が進み高齢者が多い。また、近年他地域からUターン、Iターンする家族が増えている。年間を通しての諸行事の中で、保育園、小学校、中学校、公民館、校区の諸団体との連携を図るため、代表者による実行委員会を設置し、諸行事(区民体育祭・近野まるかじり体験・近野フェスティバル・文化祭・近野山間マラソン等)を運営することで学社融合の取組を進めている。また、大きな行事だけでなく集会やクラブなど具体的な活動を通して学校独自の取組による交流も深まりつつある。 地域の方々は大変協力的で子どもたちとも積極的にふれあってくれる。また、そのふれあいを楽しみにしていて喜んでくれている。今後もさらに、地域や公民館との連携を充実させ、学社融合を深める取組を進めていきたい。					
活動名 地域の方々との交流～集会活動を通して～		学年・教科・領域等 全学年・特別活動・国語・音楽・生活・総合等			
目 標	学校・園	<ul style="list-style-type: none"> 児童会を中心に、地域の方々にも喜んで参加してもらえらる集会を企画し、運営する。 地域の方々との交流を通して、コミュニケーション能力の育成を図るとともに、地域に支えられていることを理解し、地域の一員であるという自覚を持たせる。 教科での学びを地域に発信することで、学校教育や児童への理解・協力並びに支援を頂く。 			
	地域(公民館)	<ul style="list-style-type: none"> 地域の伝統や文化・自然環境などを大切に、学校と地域の各種団体や協力者と連携しながら子供たちと地域住民の交流を深め地域の活性化を図る。 			
支援者及び支援組織 近野小PTA 公民館近野分館 JA女性会 ゲストティーチャー 地域住民の方々					
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 児童会が中心となり、ねらいを設定、計画を立てて取り組み、当日の運営等も行う学期に一度の大きな集会(一学期・・・七夕集会、二学期・・・クリスマス集会、三学期・・・節分集会)に、地域の方々や高齢者の方、日頃ゲストティーチャーとしてお世話になっている方々を招待し、発表を見て頂いたり、一緒にゲームをしたりして、交流する。					
<table border="1"> <tr> <td> 七夕集会(7/1) ・児童会が計画 ・各学級で笹飾りを作る。 ・6月末の学校便りで地域全戸にお知らせ(同時に児童会からの別刷りのお知らせも配付) ・別途招待状配付(各家庭・ゲストティーチャー等日頃お世話になっている方々) ・児童会挨拶 ・クラス発表を見て頂く。 ・短冊の願い事を発表する。 ・一緒にゲームをする。 ・地域の方と一緒に短冊に願い事を書き、笹に付ける。 ・全校合唱「たなばた」 ・記念撮影 </td> <td> クリスマス集会(12/20) ・児童会が計画 ・低学年が会場飾り付け ・11月末の学校便りで地域全戸にお知らせ(同時に児童会からの別刷りのお知らせも配付) ・別途招待状配付(各家庭・ゲストティーチャー等日頃お世話になっている方々) ・児童会挨拶 ・地域の方々ハンドツリーに協力して頂く。 ・クラス発表を見て頂く。 ・地域の方々とゲームで交流(伝言ゲーム・友達探そう) ・全校合唱 </td> <td> 節分集会(2/3) ・児童会が計画 ・低学年が会場飾り付け ・1月末の学校便りで地域全戸にお知らせ(同時に児童会からの別刷りのお知らせも配付) ・別途招待状配付(各家庭・ゲストティーチャー等日頃お世話になっている方々) ・児童会挨拶 ・クラス発表を見て頂く。 ・地域の方々とゲームで交流(バクダンゲーム・絵伝言ゲーム) ・地域の方と一緒に豆まき ・記念撮影 (上記は、昨年度の内容) </td> </tr> </table>			七夕集会(7/1) ・児童会が計画 ・各学級で笹飾りを作る。 ・6月末の学校便りで地域全戸にお知らせ(同時に児童会からの別刷りのお知らせも配付) ・別途招待状配付(各家庭・ゲストティーチャー等日頃お世話になっている方々) ・児童会挨拶 ・クラス発表を見て頂く。 ・短冊の願い事を発表する。 ・一緒にゲームをする。 ・地域の方と一緒に短冊に願い事を書き、笹に付ける。 ・全校合唱「たなばた」 ・記念撮影	クリスマス集会(12/20) ・児童会が計画 ・低学年が会場飾り付け ・11月末の学校便りで地域全戸にお知らせ(同時に児童会からの別刷りのお知らせも配付) ・別途招待状配付(各家庭・ゲストティーチャー等日頃お世話になっている方々) ・児童会挨拶 ・地域の方々ハンドツリーに協力して頂く。 ・クラス発表を見て頂く。 ・地域の方々とゲームで交流(伝言ゲーム・友達探そう) ・全校合唱	節分集会(2/3) ・児童会が計画 ・低学年が会場飾り付け ・1月末の学校便りで地域全戸にお知らせ(同時に児童会からの別刷りのお知らせも配付) ・別途招待状配付(各家庭・ゲストティーチャー等日頃お世話になっている方々) ・児童会挨拶 ・クラス発表を見て頂く。 ・地域の方々とゲームで交流(バクダンゲーム・絵伝言ゲーム) ・地域の方と一緒に豆まき ・記念撮影 (上記は、昨年度の内容)
七夕集会(7/1) ・児童会が計画 ・各学級で笹飾りを作る。 ・6月末の学校便りで地域全戸にお知らせ(同時に児童会からの別刷りのお知らせも配付) ・別途招待状配付(各家庭・ゲストティーチャー等日頃お世話になっている方々) ・児童会挨拶 ・クラス発表を見て頂く。 ・短冊の願い事を発表する。 ・一緒にゲームをする。 ・地域の方と一緒に短冊に願い事を書き、笹に付ける。 ・全校合唱「たなばた」 ・記念撮影	クリスマス集会(12/20) ・児童会が計画 ・低学年が会場飾り付け ・11月末の学校便りで地域全戸にお知らせ(同時に児童会からの別刷りのお知らせも配付) ・別途招待状配付(各家庭・ゲストティーチャー等日頃お世話になっている方々) ・児童会挨拶 ・地域の方々ハンドツリーに協力して頂く。 ・クラス発表を見て頂く。 ・地域の方々とゲームで交流(伝言ゲーム・友達探そう) ・全校合唱	節分集会(2/3) ・児童会が計画 ・低学年が会場飾り付け ・1月末の学校便りで地域全戸にお知らせ(同時に児童会からの別刷りのお知らせも配付) ・別途招待状配付(各家庭・ゲストティーチャー等日頃お世話になっている方々) ・児童会挨拶 ・クラス発表を見て頂く。 ・地域の方々とゲームで交流(バクダンゲーム・絵伝言ゲーム) ・地域の方と一緒に豆まき ・記念撮影 (上記は、昨年度の内容)			

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> 毎回、地域の方々に参加して頂くことにより、学校の取組や児童の様子を知って頂くいい機会となっている。 地域の方々や高齢者の方とともに活動することで、コミュニケーション能力や表現力の育成につながった。また、地域の一員として大切にされていることを実感させることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の高齢化が進み、児童数も減少し、Iターンの家庭が増え、実の祖父母と孫の関係が少なくなっている状況ではあるが、できるだけ多くの方々に参加して頂けるよう、内容、広報活動等、更に検討し改善に努める。 児童の発表内容やゲームの内容がパターン化しないよう、児童が意欲や関心を持って取り組めるようにしていく。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの発表を地域の方々に見て頂き、評価してもらうことで、自信や達成感につながり、自己肯定感を持つことができた。 地域の方々にも喜んで参加してもらえらる内容を企画し、運営することが、日頃お世話になっている方々への感謝の気持ちにつながった。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校に来て頂いた時や学校の行事に参加して頂いたときだけでなく、日頃からの地域での挨拶や生活のマナー向上に努める。 日頃から地域の方々を支えて頂いていることに対して感謝の気持ちを忘れず、ふるさとを愛する気持ちを持ち続ける。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> 近野区民体育祭、近野まるかじり体験、近野フェスティバル、近野山間マラソン大会などの地域を挙げての行事に参加し、地域の多くの皆さんと交流することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も地域の伝統や文化を地域住民の方々から学び、子供たちの学習に役立てていきたい。
地域(公民館)	<ul style="list-style-type: none"> 近野区民体育祭、近野まるかじり体験、近野フェスティバル、近野山間マラソン大会など、地域を挙げての活動を学校と公民館と地域が一体となって実施していくことにより、地域との融合と活性化が図れた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の様々な行事を通じて校区である近露・野中地域の住民との交流やコミュニティ形成が図れるよう、継続的な取組を行っていきたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向 ○地域の高齢者の方は、季節ごとの三つの集会に参加することを楽しみにしてくれている。 ○「近野区民体育祭」「近野フェスティバル」等、地域の方々や高齢者の方に児童の様子や学習発表を見て頂く機会は何度かあるが、この集会は、児童が企画、運営することにも大きな意義がある。また、参加して頂いた方々と直接言葉を交わしたり、活動をともにしたりでき、一番身近に交流ができる。 ○特にゲストティーチャーや日頃お世話になっている方々には、昨年の記念写真を添付した招待状を児童が作成し届けている。これを楽しみにしてくれている方も多く、参加者増にもつながっている。 ○高学年の児童が減少する次年度ではあるが、児童の負担増にならないよう配慮しながら、更によりよい交流ができる集会になるよう取組を進めていきたい。		

学社融合活動実践報告

学校・園名 鮎川小学校		公民館名 大塔公民館
学社融合における学校・地域の様子 本年度は、大塔地域共育コミュニティ本部事業の指定を受け、3年目の最後の年となった。その3年間の取組の集大成として、10月下旬に成果発表会を開催した。その発表に向けて、5月には学校に協力して下さるゲストティーチャーやコーディネーターの方々に来て頂き、昨年度の活動の反省や今年度の活動について意見交換を行った。また、詳細については、関わりのある学年の担任と綿密に打ち合わせをし、授業の展開について話し合った。子どもたちには、地域のすばらしさを知るといことで、秋の校外学習で、世界遺産に登録された北郡越えを歩いたり、2年前に鮎川小学校と統合になった三川地区を訪れ、名所、旧跡を見学した。		
活動名 大塔地域共育コミュニティ本部事業成果発表会		学年・教科・領域等 1年・学級活動 3年・総合 5年・総合
目 標	学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと学習に取り組むことで、その地域の素晴らしさを知り、ふるさとを愛する心を育てる。 ・地域のゲストティーチャーの方と接することで、コミュニケーション能力を高める。 ・多くの地域の方が学校に来て頂くことで、「開かれた学校」の充実を図る。
	地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの知識や経験を学校の教育活動に生かすことで、子どもたちの健全育成に関わる。 ・住民、関係機関と学校・子どもたちをつなぎ、地域の活性化に努める。 ・ひとりでも多くの住民に子どもたちの教育活動に関心をもってもらい、地域ぐるみでの子育て、共育の大切さを広げていく。
支援者及び支援組織 ふれあいスクール実行委員会 公民館 社会福祉協議会 地域のゲストティーチャー いばの里職員		
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 【1年生】 * 5月10日 打ち合わせ (担任・ふれあいスクールコーディネーター・公民館職員) * 8月 3日 打ち合わせ (担任・ふれあいスクールコーディネーター・公民館職員) * 10月 6日 打ち合わせ (担任・ふれあいボランティア10名・公民館職員) * 10月25日 打ち合わせ (担任・ふれあいボランティア10名・公民館職員) * 10月30日 共育コミュニティ成果発表会「めざせ! ぼうさいキッズ」 (担任・児童・ふれあいボランティア10名・公民館職員) 「そのとき どうするか 考えよう ちいせんせいと おはなしをしよう」 【3年生】 * 9月28日 打ち合わせ (担任・ゲストティーチャー) * 10月11日 ぼうりの原料になるさといも掘り (担任・児童・ゲストティーチャー) * 10月24日 最終打ち合わせ (担任・ゲストティーチャー) * 10月24日 ぼうり作り (担任・児童・ゲストティーチャー) * 10月27日 ぼうり試食 (担任・児童) * 10月30日 共育コミュニティ成果発表会「鮎川の民話・でんせつを知ろう」 (担任・児童・ゲストティーチャー・生活研究グループの方々・元PTA役員) 「ぼうりを作り続けている人たちの気持ちを考える」 * 11月4日 授業「民話を伝える人たち」(担任・児童・元PTA役員) 【5年生】 * 9月12日 打ち合わせ (担任・社会福祉協議会の方々・認知症サポーターの方々) * 9月30日 打ち合わせ (担任・ゲストティーチャー) * 10月 4日 打ち合わせ (担任・ゲストティーチャー・社会福祉協議会の方々) * 10月12日 打ち合わせ (担任・ゲストティーチャー) * 10月24日 打ち合わせ (担任・ゲストティーチャー・社会福祉協議会の方々) * 10月25日 最終打ち合わせ (担任・ゲストティーチャー・いばの里職員) * 10月30日 共育コミュニティ成果発表会「福祉体験を生かして」 (担任・児童・ゲストティーチャー・いばの里職員・認知症サポーターの方々・社会福祉協議会の方々) 「地域の方々とともに自分たちにできるだれにでもやさしいまちづくりについて考える」		

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの先生方や地域の方々、保護者に本校の共育コミュニティの活動を知ってもらい良い機会となった。 ・1年生の授業では、ふれあいスクールのメンバーが多く参加して頂いたため、グループを分ける時も、少人数で活動することができた。 ・3年生の授業では、実際に「ぼうり」を作り、試食することで、授業内容がより身近なものとなった。 ・5年生の授業では、地域のいろいろな立場の方から話を聞くことができ、話し合いが深まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・打ち合わせをする回数が多く、時間的に大変だった。 ・綿密に打ち合わせを行ったが、本番の授業では、ゲストティーチャーの方の話が長くなり、少し終わるのが遅くなった。
* 子供にとつて	<ul style="list-style-type: none"> ・参観日以外に多くの人に授業をみてもらい機会がないので、今回は良い経験になった。 ・地域の方と楽しみながら授業を受けることができた。 ・地域の食を味わうことができた。 ・鮎川地区について、福祉の面から考えることができた。 ・授業中にふれあう機会を多くもったことで、親しみがわき、自然とあいさつをかわすなど日常的な交流へと広がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの人に参観されることで緊張し、普段のような発表ができなかったため、これからは、できるだけ多くの人の前でも話ができる機会を増やしていく。 ・学習したことをできるだけ自分の生活にいかしてほしい。
* 子供にとつて	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方との交流により、コミュニケーション能力が育ってきている。 ・地域の伝統文化、福祉の取組などを学ぶことができ、ふるさとへの愛着や誇りを持てるようになってきている。 ・地域に知り合いの方が増えてきて、日常的な交流につながってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災、地域の文化、福祉等、学んだ事柄を家庭で話題にするなど、ふるさとに関心を持ち続けてほしい。 ・授業での協力だけでなく、日頃から多くの地域の人に支えられていることを忘れず、感謝の気持ちを持ち、住民としての自覚や郷土愛を育ててほしい。
地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・共育コミュニティ成果発表会では、公民館事業の「ふれあいスクール」のノウハウを組み入れた授業を多くの方々に観てもらうことができた。 ・学校の教育活動に関わることで、子どもたちの様子を知ることができ、学校や先生方を身近に感じるようになってきている。 ・ゲストティーチャーとして授業へ参画することで、住民自身の新たな学び、経験の場となっている。 ・活動を通して、子どもだけでなく他の住民との交流もあり、相互の安心や信頼が培われ、いわゆる顔の見えるまちづくりにつながってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・協力者の固定化・高齢化が進んでいる。今後も活動を継続していくためには、後継者作りをいかにしていくかが課題である。 ・高齢の協力者が出てきた際、学校や活動場所への移動、交通手段の確保などの問題が出てきている。 ・昨年度から「共育コミュニティだより」という広報紙を定期的に発行し、住民の学校教育における協力内容を載せて、地域内全戸へ配布している。新たな協力者の発掘や、地域ぐるみでの子育ての大切さを広げていくため、今後も発行を続けていきたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向 今年度の評価 <ul style="list-style-type: none"> ・1年生にとっては、ふれあいスクールの先生方と4月から公民館活動で交流があったので、活動もスムーズにできた。 ・ゲストティーチャーの方も、今年度は発表会があるということで、打ち合わせの中でも前向きな意見が出された。 ・それぞれの学年の発達段階に応じた授業内容で、子どもたちは、緊張しながらも意欲的に授業に取り組んだ。 		
次年度に向けての取組の方向 <ul style="list-style-type: none"> ・今年で大塔地域共育コミュニティ本部事業の指定は終わりになるが、課題になったところは改善し、今後も継続していく必要がある。 ・地域の指導者の方が高齢になり、ゲストティーチャーとして来れない方もでてくるので、後継者を探していかなければならない。 		
		

学社融合活動実践報告

学校・園名 富里小学校		公民館名 大塔公民館	
学社融合における学校・地域の様子 大塔地域では、平成26年度からの3年間『大塔地域共育コミュニティ本部事業』に取り組んできた。この取組の柱である「学力向上」「ふるさと学習」「保・小・中の連携」についての研究を深めることで、本校がこれまで取り組んできた学社融合活動について改めて見つめ直す良い機会となった。 本校は、過疎・高齢化が進んだ富里地域で唯一の学校として、地域住民から常に物心両面で協力・支援していただいている。ふるさとを愛しふるさとの良さに気づく子供を育てるため、地域の方々や、諸施設・関係機関に積極的に協力を求めたり、地域の方を講師として招聘したりすることで、ふるさと富里の自然や文化についての学習や、地域の人々との交流を深めている。また、地域の行事などに積極的に参加していくなど、社会教育との連携を深めるように努力している。			
活動名 地域について学ぶ、体験する、考える、発信する		学年・教科・領域等 全校児童・生活科・総合的な学習の時間	
目 標	学校・園	・ふるさとの文化や自然・生活についての学習において、地域の方々に授業に参画していただくことで、学習内容を深めるとともに、地域の方々との交流を深める。また、学習の成果を地域に発信することで、地域の人々との交流を継続できるよう努める。	
	地域（公民館）	・学校との連携を密にし、積極的にふるさと学習に関わりながら、子供たちとの交流を深める。 ・知識・経験・伝統文化などを伝えることで、子供たちの郷土愛を育むとともに、自分たちも地域を見つめ直す機会とする。	
支援者及び支援組織 大塔公民館 地域の方々 上野獅子舞保存会 とみさと句会 JA紀南女性会富里支部			
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等)			
【1年生】竹を使った鉄砲作り ・地域の方に教えてもらいながら、水でつぼう(1学期)・木の実のつぼう(2学期)を作りました。		【3・4年生】“富里の山”発見 ・「富里の山」について知り、山に住む人々の生活や自然との関わり、山に対する思いについて考えました。 <1学期> ・富里の歴史を知ろう(現地学習) <2学期> ・富里に生息する植物や動物について ・『山の神様』について	
			
【5・6年生】とみさとの歴史と人の移り変わり ・ふるさとの歴史について学んだことを通して、地域の現状や課題について考えるとともに、ふるさとに対する思いやふるさとの良さを多くの人々に伝えました。 <1学期>富里の歴史を知ろう(現地学習・調べ学習) 年表作り <2学期>富里の林業について、昔の暮らし <3学期>地域語り部活動			
			
			

	成 果	課 題
学校・園	・地域の方々との繋がりができているので、授業に参画してもらうことについては、スムーズに連携をとることができた。また、事前に来校していただき、担任と授業についての打合せを入念に行うことで、内容豊かな学習ができた。 ・現地学習については、ゲストティーチャーとの連携や現地の下見など、公民館主事や公民館長にも協力してもらい、充実した内容になった。 ・地域の方々が多く集う「ふる里富里まつり」や、学校主催の「ふれあい学習発表会」で取組を紹介することができ、学校の成果を見ていただく良い機会となった。	・児童数減少に伴い、実施が困難になってくる活動もあるが、精査し工夫しながら、学校の取組が地域の活性化に繋がっていくよう、公民館や他団体との連携を密にしながら工夫していく。 ・学校主催の「ふれあい学習発表会」等の行事に多くの地域の方々に参加してもらうことができるよう工夫していく。
*子供にとつて	・これまでのふるさと学習とは視点が違ったので、ふるさとの文化や生活について関心を持って学習に取り組んだ。また、まとめたことを地域の方々に聞いてもらうことで、ふるさとを愛する心情が育ってきた。 ・地域の方々との様々な交流を通して、場に合った言葉遣いやマナーを考えることができるようになってきた。	・地域の豊かな自然や人々の暮らしについてさらに学習を深めていく。 ・学習の成果を発信するための方法を考え、主体的に地域と関わっていくことができるようにする。
*子供にとつて	・学習を通して、長い歴史があり、すばらしい伝統文化が受け継がれているふるさとへの愛着と誇りが育てられている。また、地域の人々への関心と信頼感も高まっている。 ・「大塔地域共育コミュニティ本部事業成果発表会」や「ふれあい学習発表会」では、地域の方々から学んだふるさとの良さ、歴史や文化などを自信を持って、地区内外の方々に伝えることができた。	・今後も学習活動の場で培った地域の人とのつながりを大切にしながら、学校を離れた地域行事にも参加するなどして、社会性を高めていってほしい。 ・ふるさとを大切にすることを続け、一人でも多くの子供が伝統文化の後継者・語り部として育っていただきたい。
地域（公民館）	・ふるさと学習の活動に参画・協力することで、学校や子供たちの様子がよく分かり、楽しく交流することができた。 ・学習活動への協力により、地域住民と子供たち・教職員とのつながりが広がってきている。 ・教え伝えた内容を子供たちが一生懸命学び、語り部としてそれらを自分たちの言葉で外部へ発信してくれたことは、多くの住民が深く感動し、心の励みにもなっている。	・協力者の高齢化や固定化が見られ、また、年々、子供の数も減ってきているが、学校とも相談しながら、今後も子供たちのためのふるさと学習が継続していけるよう努めていく。 ・地域行事や公民館事業において、子供たちが気軽に参加し、住民と交流できる場を増やしていく。
評価及び次年度に向けての取組の方向		
評価 『大塔地域共育コミュニティ本部事業』の取組を通して、大塔地域全体として課題となっている「学力向上」に向けての取組については、小・中学校の9年間を一貫した「家庭学習の手引き」の作成、活用を出発点として、今後も家庭と連携した取組を進めていくことが重要であるということを再認識した。 「ふるさと学習」に取り組むことで、高学年児童は、過疎化、少子高齢化に伴うふるさとの現状や課題、受け継いでいきたい伝統や文化について、児童なりに考えることができた。「上野の獅子舞」の舞やお囃子を保存会の方に教えてもらう中で、祭りに向けて練習をしているところに参加する児童が数名できたことは、児童の意識が高まった一つの現れだと考えられる。また、「地域語り部活動」に取り組むことで、地域の方々をはじめとして多くの人に富里について知ってもらう機会を持てたことは良かった。中学年児童は、普段見慣れているふるさとの山に目を向け、地域の方々から教えていただくことで、今まで気づけなかった「富里の山」の豊かな自然や山に住む人々の生活について知り、ふるさとの素晴らしさについて考えることができた。低学年児童は、地域の方に手取り足取り教えてもらうことで、地域の方とのつながりが深くなった。		
次年度に向けての取組の方向 これまでの取組を継続しつつ、少人数だからこそできる地域と連携した取組を工夫していく。また、引き続き地域に積極的に出向いて行き、地域の一員として様々な活動に参加していくなど、地域の活性化の一役を学校が担えるよう努めたい。		

学社融合活動実践報告

学校・園名 三里小学校		公民館名 本宮公民館三里分館
学社融合における学校・地域の様子 本校校区は、世界遺産である熊野古道が通り、熊野川にそそぐ三越川に面した緑に囲まれた自然豊かな地域にある。しかし、三里小学校周辺の校区は、かつて熊野川の氾濫で度重なる水害に遭っており、平成23年度の台風12号の水害も大きなものであった。また、この地区は少子高齢化に伴い児童数は平成31年まで50名弱を推移し、今後も複式学級編制となることもあると予想される。このような小さな学校ではあるが、地元住民の学校への期待感は大きく、普段から学校の行事等に大変協力的で子どもたちを温かく見守ってくれている。また、平成30年度末までに新校舎建築予定であることで、学校関係者のみならず地域住民の大きな楽しみにもなっている。		
活動名 ①防災学習(地域の水害について) ②三里祭り		学年・教科・領域等 ①全校児童(生活科・特活) ②希望児童(音楽等)
目 標	学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に生きる学校として、地域をいかした学びを深める。 ・学校を中核とした社会教育団体との融合を図る。 ・共育コミュニティ事業に積極的に取り組み、学校・家庭・地域が一体となった活動の充実を目指す。
	地域(公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館事業と学校の教育活動が一体となった学社融合の取組を行う。 ・地域人材の知識や技能をいかしたボランティア活動を推進し、参加した地域住民が児童との交流を通して教育活動への参加意欲を高める。
支援者及び支援組織 本宮公民館三里分館 地域の皆様 保護者 共育コミュニティ音無本部		
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) ①防災学習(地域を襲った水害について) <日 時>・・・7月12日(火) 10:30～11:30 <学 年>・・・1・2年生「生活科地域探検」 <ねらい>・・・校区内がかつて経験した大きな水害について、地域の方からお話を伺ったり、水害現場を見学したりしながら水害の怖さや今後の防災意識を高める。 <内 容> ・学校周辺の地域探検の際、萩地区の横矢区長さんが、かつて大きな水害にあった場所や、水害対策として上り屋を設けた家を見せてくださった。また、水害時に避難する小型のボートを保管しているところなども案内していただき、三里地区の水害の大きさや怖さを知ることができた。 <児童の感想> ・水害にあった時に家のものが水につからないように上り屋にもっていった話を聞いて、そんなに水が家の中まで入ってくるとは思えなかったので、怖くなりました。 ・ボートに乗って避難するとは思わなかったので、道路まですごく水が増えることがわかりました。 ・横矢さんに水害のことを教えてもらって、水害は怖いことがよくわかりました。 * 3～6年生の学社融合に係る防災学習は、3学期に実施する予定。 ②三里祭り <日 時>・・・11月23日(水) 9:00～15:00 <学 年>・・・参加希望児童(35名) <ねらい>・・・三里地区の保育園児・小学生児童・中学生の絵画作品等を展示したり踊りや歌の発表をしたりすることで、日ごろの学校教育の成果を披露する。また公民館活動として地域の農作物の品評会をして競りしたり、三里劇団の演劇を披露したりして祭りを盛り上げる。また、保護者は育友会バザーとしてうどんやそばなどの食品販売を行う。 <内 容>・・・児童の発表は、低学年は音楽発表(歌と合奏)を行い、中高学年は運動会で披露した沖縄舞踊「ミルクムナリ」を踊った。また、三里祭り恒例の三里劇団の芝居「潮来笠」には、本校職員が、「おしま」役で熱演し、劇を盛り上げた。育友会のバザーは、多くの保護者の協力のもと実施され、毎年地元の方はじめ子どもたちの楽しみになっており、今年も大賑わいであった。		

	成 果	課 題
学校・園	<防災学習> ・過去に繰り返した地域の水害について、地域の方からお話を伺うことで、より水害が身近なものとして認識され、今後起こるかもしれない水害からの自己安全確保等の方法を学ぶことができた。 <三里祭り> ・児童にとって地元の三里祭りに参加することが、地域を大切に思う心を育むことにつながるため、積極的に参加を勧めている。また、絵画などの展示や教育活動の足跡がわかるものを地域の方に披露している。	<防災学習> ・防災学習が、毎年発達段階に応じて学習できるように、実施計画を綿密に立てていきたい。 ・水害だけでなく、年間を通して地域の方と防災学習が実施できるよう今後さらに計画をしていきたい。 <三里祭り> ・高学年になるにつれて、三里祭りへの参加意識が弱くなっているため、児童の地域への思いを育む取組が必要である。
* 子供にとつて	<防災学習> ・過去に起きた地域の水害について、地域の方からお話を伺うことで、水害の怖さや水害についての知識を学ぶことができた。また、今後起きるかもしれない災害から自分の身を守る方法について考えるきっかけとなった。 <三里祭り> ・三里祭りで、学校の教育活動の成果発表を行うことで、祭りへの参加意識を高めることができた。	<防災学習> ・学校で学んだ防災学習を各家庭でも子どもを通して保護者へ伝え、保護者の防災意識を喚起していくことが必要である。 <三里祭り> ・三里祭りは、地域の大切な祭りである認識を高めるため、児童の参加を呼び掛けているが、今後も多くの参加者を募り、祭りを盛り上げていくことが必要である。
* 子供にとつて	・地域の方から、過去の水害体験を通して防災について学ぶ取組を支援するため、低学年にもよく分かるように話ができる方を紹介し、学習活動を円滑に行う手立てを行った。 ・三里祭りへの参加意識を高め、地域の方々と共に楽しみよい思い出を作ることで地域への愛着を深めることができた。	・今後も計画的に防災学習を進め、学校だけでなく地域住民も含めた防災学習計画を立て、実施していきたい。 ・三里祭りだけでなく地域の他の行事へも意欲的に参加して、地域の伝統を守る気持ちを育んでいきたい。
地域(公民館)	・地域の人材探しを行うことで、学校と地域のつながりを深めることができた。 ・地域の方が学校で児童とともに学んだり活躍したりしている様子を行政局のロビーに掲示して、多くの地域の方々に学社融合の取組を紹介した。	・月一回定例の学社融合打合わせ会を行政局で実施することで、町内三校(本宮小・本宮中・三里小)の学社融合の実践交流を継続していく。また、そのことによって本宮町内全体の共育コミュニティ音無をさらに充実させていきたい。

評価及び次年度に向けての取組の方向

・防災学習は、田辺市全体でも計画実施の方向で進んでいる。そこで、本校でも「田辺市防災教育の手引き」を活用しながら、地域に根差した防災学習に取り組んでいきたい。また、将来的には地域一体となった防災訓練や学習会を実施できるように、行政や公民館との連携をとっていきたい。
 ・三里祭りの実行委員会や公民館との連携を密にしながら、学校が今後も良い形で参加する方法を模索していきたい。そのためにも児童一人一人の地域への愛着が深まるような学社融合の取組を具体的に計画し実施していきたい。

<防災学習:低学年の場合>



<三里祭りの様子>



学社融合活動実践報告

学校・園名 本宮小学校		公民館名 本宮公民館(本宮分館・四村川分館・請川分館)
学社融合における学校・地域の様子 本校は、本宮・請川・四村川の三つの小学校が統合してから11年が経過した。三校の統合により校区がさらに広がり、全児童がバス通学となり、現在児童数は、開校当時の3分の1以下になっているため、地域学習等における学校教育の充実が難しくなってきた。こうした背景において学校だけでなく家庭・地域・専門家による支援を受けながら学社融合の取組を進めている。保護者・地域の方々は、子どもたちへの関心が高く、参観日・懇談会だけでなくその他の学校行事への参加率も良い。また地域ぐるみで子どもを育てようとする意識が高く、地域のサークルの方々は、授業支援に対して積極的に参加していただいている。		
活動名 学びを深める学習支援		学年・教科・領域等 1・2年 国語科・生活科 3～6年 社会科・総合的な学習の時間
目 標	学校・園 「町と向き合い、町を知る」=本宮の文化や産業等に関する学びを深める。 「地域の伝統芸能を知る」=主体的に学習に取り組む態度を育てる。 「地域の方々と交流する」=コミュニケーション能力を高める。	
	地域（公民館） 「本宮町の歴史や文化、自然に親しむ子どもを育成する」 ・地域の教育力及び専門的な知識を持つ方々を学校教育に生かす。 ・地域ぐるみで子育てをするという意識を高める。	
支援者及び支援組織 共有コミュニティ「音無」本部 保護者 地域の方々 熊野川漁業協同組合 熊野本宮語り部の会		
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 地域の支援により学びを深める学習活動		
内容		学習パートナー
3年:音無茶学習(5月) ・地域の名産である音無茶の茶摘み体験をさせてもらう。 栽培方法や工夫、苦労などについて、学習パートナーに話を聞く。		地域のお茶農家 宇恵夫妻
1・2年:川湯町探検(6月) ・川湯の温泉街があり、旅館等が多いことを知る。 ・岩風呂に入浴し、川湯温泉の良さを実感する。		あしたの森、亀屋旅館、民宿立石 喫茶こぶち、公衆浴場
6年:田辺第一小学校との交流「熊野古道語り部」 ・熊野古道大日越えの語りのポイントでの伝説や逸話を学ぶ。 ・相手意識をもって、語りをさせる。		関秀治氏
3年:社会見学(7月) ・本宮での特徴ある産業を知る。 ・見学することで、工夫や苦労を知る。		熊野鼓動、石谷牧場、音無工房
4・5年:宿泊訓練(7月) ・地域の自然の豊かさを知る。(ウナギの仕掛け等) ・地域の家庭でお風呂を入れさせて頂き、そこで交流を深める。 ・鮎のつかみ取りを体験する。 ・バードウォッチングし、豊かな自然を知る。		谷口卓一氏、羽根益二郎氏、玉石順介氏 浦拓己氏、丹羽達宗氏、中原郷記氏 熊野川漁業協同組合の方々 千葉浩志氏
4・5・6年大瀬の太鼓踊り(9月) ・地域に伝わる伝統芸能である大瀬の太鼓踊りを知る。 ・大瀬の太鼓踊りを踊る。 ・運動会で大瀬の太鼓踊りを披露する。		熊野本宮伝統芸能保存会のみなさん 前久保圭一氏、前久保定氏 野地保美氏

	成 果	課 題
学校・園	・地域の協力のもと見学や体験をさせてもらったことで校区はもちろん本宮町の文化や産業について学習意欲を高めることができた。 ・保育園と避難訓練等、合同で活動することで就学前の様子を知ることができた。 ・専門知識をもった学習パートナーにお越し頂くことで、学習効率が向上した。	・複式になり、教職員の減少に伴い、さらに地域の方々の力をお借りしながら、学習効率を高める必要がある。 ・学習パートナーとの打合せの際には、授業の内容、時間を理解していただき、授業での支援方法などよりよい授業作りを目指す。
*子供にとつて	・本宮町の特徴を知ること、郷土愛や郷土に誇りをもたせる手立ての一つとなった。 ・学習パートナーの専門的なお話や指導を受けることで尊敬の念をもち、地域のすばらしさを知ることができた。 ・宿泊合宿では、もらい風呂を通して礼儀やマナーを身につける機会となった。	・運動会における伝統芸能については、歴史的背景についてさらに詳しく計画的に学習していく必要がある。 ・教科学習だけでなく、地域の方々との交流の際でも生き生きと自分の思いを表現できるように指導していく。
*子供にとつて	・地域の方々に支えられていることを実感し、感謝の気持ちをもつことができた。 ・地域の方々と交流する機会を多く取り入れることで、コミュニケーション能力を高め、人との接し方のスキルが身に付いてきた。 ・地域の方々との距離が近くなり、進んで挨拶できるようになった。	・地域で学んだことを行政局ロビーに展示してもらっているが、さらに地域の方々と交流できるよう工夫していく必要がある。
地域（公民館）	・子どもたちと接することにより、子どもたちから元気もらい、子どもたちの成長を温かく見守ろうという意識が高まった。 ・サークル活動等で取得した知識や経験を生かせる場となり、説明したり指導したりすることによって喜びや生きがいを感じられる機会の一つとなった。 ・学校教育に参画することで、学校が身近に感じられるようになった。	・学習パートナーとして多くの、地域住民が学校教育に参画していただけるよう啓蒙活動をさらに充実していく。 ・学校教育に参画していただいた方々を町全体の人材バンクとして取りまとめ、充実させていく。

評価及び次年度に向けての取組の方向

評価

- ・学校、保護者、地域が学校教育目標のもと、一体となって子どもを育てていこうという意識が高まった。
- ・学校開放月間の一環である11月6日の日曜参観では、地域の方々が学校教育に参画していただいていることを保護者にも参観・参加してもらい、学校の取組を知っていただくよい機会となった。
- ・子どもたちは、たくさんの地域の方々に関わることで学びの楽しさや人の優しさにふれることができた。
- ・地域の方々は、知識や経験をもとに伝える喜びを感じることで、生涯学習の充実につながり、学びでつながる町づくりの機会となった。

次年度に向けての取組の方向

- ・公民館を中心とする地域、関係機関との連携をさらに強化し、学校教育の充実を図り、地域コミュニティの活性化に努めていく。



茶摘み体験



語り部活動(田辺第一小との交流)



大瀬の太鼓踊り

学社融合活動実践報告

学校・園名 東陽中学校		公民館名 東部公民館・中部公民館・南部公民館・ひがし公民館	
学社融合における学校・地域の様子 公民館施設を併設した近畿唯一の中学校として、本年度も公民館と学校が連携を深め、地域の教育力を生かした様々な取組を実施することを目指してきた。地域の方々も公民館長、公民館主事の働きかけに協力的で、本校生徒の健全育成に尽力していただける体制ができてきている。公民館の掲示版には生徒の行事への取組の様子や教科の作品等を掲示し、公民館を訪れる地域の方々に広く紹介している。東部・南部公民館を通して学校支援サポーターを募集し、学校の教育活動に協力をいただいている。また、地域の田辺第一小、田辺第二小、田辺東部小との連携を深めた学社融合の取組も推進してきた。昨年度から、東部公民館・中部公民館・南部公民館・ひがし公民館の4館と連携を図るために、東陽中学校の学社融合を推進するための会、「東融会」を発足し、定期的に会議をもち、効果的な取組や今後の学社融合のあり方を検討している。さらに本年度からは学社融合推進本部会議(学校・保護者・地域・生徒の4者で意見交流をする会)を立ち上げ、学期に一度集まり、取組をすすめている。			
活動名 公民館・地域・小学校と連携した取組		学年・教科・領域等 全学年：総合的な学習の時間 2年：家庭科 部活動(文芸部・コンピュータ部・合唱部・吹奏楽部等)	
目 標	学 校 ・ 園	<ul style="list-style-type: none"> 公民館施設を併設した学校として、地域の教育力を生かした学校支援サポーター等を活用した学社融合の取組を推進する。 校区の小学校と連携を深め、児童・生徒が交流できる企画を進める。 学校と公民館と市立図書館「たなべる」との連携を進める。 	
	地 域 (公 民 館)	<ul style="list-style-type: none"> 幅広く地域の方に学社融合活動に携わっていただく。 学社融合活動の企画段階から、地域の方に参画いただき、自主的に取り組みを進められるよう心がける。 地域活動への意識を高めていただく。 	
支援者及び支援組織 東部公民館 中部公民館 南部公民館 ひがし公民館 学社融合推進本部会議 東融会			
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 【東陽中学校区学社融合推進本部会議】 〇6月15日(水) 第1回 10月13日(木) 第2回 昨年度からの東融会(東陽学校・東部公民館・中部公民館・南部公民館・ひがし公民館との連携のための会)に加え、本年度は学社融合推進本部会議(学校・保護者・地域・生徒の4者で意見交流をする会)を学期に1度行うことで、さらに学社融合の取組をすすめている。			
【調理実習】 〇5月13日(金) 学習支援サポーター打ち合わせ 〇6月3日(金) 調理実習(2年2組) 11月10日(木)(2年1組) 11月11日(金)(2年3組) 例年行っていた調理実習で、本年度は地産地消を意識して、本校の文芸部が考案した東陽バーガーを調理し、東部・南部公民館区の方々にも御協力いただいた。生涯学習フェスティバル(11月26日(土)27日(日))にも「中学生カフェ」として出店させていただき、限定100個が1時間足らずで完売と、大変好評であった。			
【写真教室】 〇5月13日(金) 学習支援サポーター打ち合わせ 〇8月8日(月) 第1回 顔合わせ 説明 〇8月18日(木) 第2回 作品の講評 恒例となっている地域の写真愛好家の方を講師に迎えての東部公民館主催の写真教室。例年1日のところ、本年度は2日間の開催となり、大きくレベルアップ。こちらも、生徒と職員の作品を生涯学習フェスティバルに出品させていただいた。			
【語り部ジュニア発表会の取組】 「子供たちが語り継ぐ田辺市地域語り部ジュニア発表会」に向けて、田辺第二小学校、田辺東部小学校の児童たちと本校の生徒が合同で練習を重ね、本校の生徒は、地域の名所旧跡などを英語で発表。(平成29年1月17日(火))			
【合唱部・吹奏楽部合同コンサート】 11月23日(水)に、本校の合唱部と吹奏楽部の初の合同コンサートを開催した。支えて下さっている地域の方々に感謝の思いを込めて、という趣旨のもと、両クラブが趣向を凝らし、田辺第二小学校合唱部や、クラブのOGである			

	成 果	課 題
学 校 ・ 園	調理実習の成果である「東陽バーガー」と、写真教室の作品を生涯学習フェスティバルに出品させていただけたことは、本校の研究主題である「表現する力を育む学び合い」と合致する大きな成果であると考えます。また、合唱部と吹奏楽部の合同コンサートも、小中の連携とともに、地域の方々へ思いを伝えるという意味で、大変意義があった。	学社融合推進本部会など、学校が地域や保護者、公民館とつながる場を設けることができたが、現時点では、生徒の活動に反映されているとまでは言い難い。今後、このような場から出てきた意見を具体的な実践につなげ、目に見える成果をだしていきたい。
* 子 供 に と っ て	表現する、ふれあうという意味で、学校外や地域へ向けて発信することができた。生徒たちにとっても、地域とのつながりを感じられるよい機会となった。生徒たちの学校での日頃の頑張りを広く知ってもらえた。	本年度から始まった学社融合推進本部会は、生徒会担当教員が生徒の立場を代弁するというかたちで行われている(会議が夜のため)。今後は、何らかの形で、生徒たちの生の声を地域や公民館に伝える場を設け、共通する課題を考える機会を作っていきたい。
* 子 供 に と っ て	パソコン教室は、学んだことを生かすよい機会となっていると同時に、教えるを通して、その難しさとともに充実感も感じることができている。また、世代の違う地域の方とふれ合うことも、生徒たちにとっては大変よい経験となっている。	さらに生徒の自主性、主体性を高めるために、今後どのように地域に関わっていくか、地域の方々のニーズは何なのかを話し合い、深めていくことが課題である。
地 域 (公 民 館)	人材バンクに登録していただき、学校支援サポーターとして学校に関わることによって、地域の方と生徒との世代を越えた交流ができています。また、パソコン教室では、実際に生徒とふれあいながらパソコンの操作について学ぶことができ、受講者にも好評である。	人材バンクに登録していただく人材の確保と、活動をいかに継続、発展させていくか。そして、事業の内容を充実させて、双方が満足感を得られるものにしていくことが今後の課題である。
評価及び次年度に向けての取組の方向 今年度は、地域への発信を充実させることができた。来年度は研究指定3年目となり、これまでの取組をまとめ、発表する年になる。研究主題である「表現する力を育む学び合い～地域と共に学ぶ学校づくり～」についてさらに研修を深め具体的に実践していきたい。そのために、地域の方々からさまざまな形で学ばせていただくとともに、生徒が学んだことを地域に向けて表現する機会を設け、これまでの取組をさらに推し進めていきたい。		
		
		
	調理実習	写真教室
		
		東陽バーガー

学社融合活動実践報告

学校・園名 明洋中学校		公民館名 芳養・西部・中部公民館	
学社融合における学校・地域の様子 明洋中学校における学社融合は、明融会(学社融合推進のための3公民館主事と明洋中学校学社融合担当との会議)を母体に取り組んだ。特に、本年度は例年と違い、西部地域全体で防災訓練を行った。田辺第三小学校・明洋中学校をメイン会場として避難訓練及び防災に関する講演・防災体験を行い、地域を上げて防災意識の向上を図った。明洋中学校会場では、体育館と多目的ホールで講演会を行い、約150名の地域の方々も参加してくれた。保護者は学校行事等で学校の様子を見る機会はあるが、地域の方々にはあまり学校の様子を見てもらう機会が今までなかったため、大変良い機会となった。また、このように地域の方々と共に訓練を実施することで、地域の方々と話をする機会が増え、生徒のコミュニケーション能力を養うことが出来た。防災学習を通して自分たちの地域についても更に詳しく学習することが出来た。 家庭科の授業(鰻の三枚おろし)で地域の方々にお手伝い頂き、地元の食材を使用した調理実習を行った。地域の方々にも外部講師として授業に参加して頂くことで、授業の幅が広がった。また、地元の食材を使用することで地域を考えるよい機会となった。			
活動名 防災訓練・地産地消料理づくり・生け花作品制作		学年・教科・領域等 全学年・家庭科・特別活動	
目 標	学 校 ・ 園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との交流を図り、ふるさとを愛する気持ちを育てる。 ・地域での体験活動を行うことで、一体感を持たせ、貢献できることを知らせる。 ・様々な人との関わりで、コミュニケーション能力を高める。 ・地域の行事に参加し伝統を受け継いでいく気持ちを養う。 	
	地 域 ・ 公 民 館 (公)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と学校の交流の促進を図る。 ・地域住民との関わりを通して、子供たちのコミュニケーション能力や愛郷心の向上を図る。 ・学校授業の目標を達成するために最適な人材を紹介する。 	
支援者及び支援組織 芳養地域人材バンク登録者 各地区の方々 西部地区自主防災会連絡協議会 西部地域学社融合推進協議会			
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 【明融会】 芳養・西部・中部3公民館主事と学社融合推進教員との連携を図り、二ヶ月に一度の打ち合わせ会を持つ。			
学校から地域へ		地域から学校へ	
○吹奏楽部地域演奏会 吹奏楽部は、地域で様々な演奏会を行っている。4月には芳養しおさい祭り、5月には鯉のぼりの会演奏会、福祉施設での演奏会、8月には校区内の保育所・幼稚園を回り演奏会を行った。また、秋には地域のお祭りや発表会に招かれ多くの方々から温かい声援を頂き、活動を進めている。(年間通して)		○家庭科授業(鰻の三枚おろし) 2年生の家庭科で、芳養婦人会の方々にご協力いただき鰻の三枚おろしの授業を行った。本校は校区に2つの漁協があり、魚料理は子どもたちの身近な料理になっている。その魚を使った料理を学習することは、地域を知る学習に繋がっている。また、婦人会の方々とも料理することで、地域の方々とのコミュニケーションをとることも繋がっている。(6月)	
			
○西部地区防災訓練 西部地域の防災訓練に全校生徒が参加した。地域の方々と共に天神グラウンドに避難し、その後、中学校に戻り1・2年生は多目的ホールで和歌山高専の小池先生の講演を聴いた。また、3年生は体育館で和歌山大学の今西先生による講演を聴き、その後、簡易トイレの作成及びパーティー作りを行った。地域からも約150名の方々が参加してくれた。(8月22日)		○合気道授業 合気道の授業を行うに当たり、合気道顕彰会の太田さんに講話をいただき、合気道の精神である「和合の心」について学習した。単に、体育の授業で合気道の技を習得するだけでなく、講話を通して合気道の精神について学習することで、武道の授業が大変有意義なものになった。また、合気会(4名)の先生に直接ご指導いただき大変良かった。(10月から12月)	

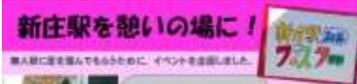
	成 果	課 題
学 校 ・ 園	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度、西部地区防災訓練に中学校として参画したところ、多くの地域の方々に参加していただくことができた。地域の方々も中学生がともに防災について考え、学びあえる良い機会になった。 ・鰻を調理する学習では、地域の方々各班での作業を受け持ってくれ、効果的に学習が行えた。 ・地域の方々と共に学ぶ学習は、中学校も地域の一部であるという自覚を生徒に促す良い機会になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み中の日曜日に、左記の防災訓練を行ったところ、多くの地域の方々も参加してくれたが、保護者の参加が少なかった。災害に襲われた時、最も中心になって活動してほしい保護者世代がもう少し積極的に参加できないかが課題である。 ・地域で子どもたちを見守っていくという視点を小学校・公民館と連携しながら考えていきたい。
* 子 供 に と つ て	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々や保護者の方々と共に避難訓練や防災に関する講演・体験をすることで、災害時に自分たちにどんなことが出来るのか、また、災害時に地域の方々には中学生に対して、どんなことを期待しているのかを知る良い機会になった。 ・地域の方々と共に学習することで、地域の人々とのコミュニケーションをとる良い機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分たちも地域の一員であり、地域を盛り上げるには学校が、生徒が率先垂範して地域行事に参加することである」という自覚をどのようにして、生徒・教職員、更に保護者にも促していくかが課題である。
* 子 供 に と つ て	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災訓練への参加や、鰻の三枚おろしなど、普段の授業では得られない、貴重な体験をすることができた。 ・子どもたちが学校外で地域の活動に触れたり、参加したりする中で、自分が住む地域との関わりについて考える機会を設けることが出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と関わるたくさんの取組を、普段の学習や生活に結び付け、生かせるようなものになりたい。また、将来、ふるさとに自信を持ち、ふるさとを大切に育てていきたい。加えて、将来、地域の指導者になるよう、自覚を促していきたい。
地 域 (公 民 館)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが地域行事に参加し多くの地域の方々との接することで愛郷心や自尊感情を育むことができた。 ・子どもたちが地域行事に参加することで、例年以上に盛り上がり、地域の活性化に繋がった。 ・学校と地域が共に参加できる事業を行うことによって、地域力の向上に繋がった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民と子どもたちがふれあえる事業の更なる展開を図る。 ・地域住民の、学校への理解を深め、地域全体で子どもを育てる意識を持って貰うよう促していく。 ・既存の事業をさらに充実したものにし、子どもたちの人間性、社会性を育てるよう努めていく。
評価及び次年度に向けての取組の方向 本年度は、西部地域の方々と同様に防災訓練を実施した。田辺第三小学校・明洋中学校及び西部地域の町内会が参加した大がかりなもので、多くの地域の方々も参加した。地域の方々と同じ目線で地域の防災について考えることができ、中学生は災害発生時にどのようなことをしなければいけないのかを考えるよい機会になった。また、地域の方々にも中学校の様子を紹介する機会にもなった。毎年行うことは出来ないが、数年に一度は実施していきたい。 郷土料理授業やミンシンの使い方授業、浴衣着付け教室、それに加えて、紀州てまり教室など、地域の婦人会などから多くの方々にも講師として学校に来ていただき、充実した取組ができた。数年前から実施している夏休み中の補習授業では、地域の方々のお力添えにより年々充実した取り組みになっている。		
次年度の取組の方向 来年度は、新しい行事や取組を行うのではなく、今まで行っている郷土料理やミンシンの使い方授業、夏休みの補習授業など、今までの取組を更に充実したものになるよう取り組んでいきたい。そのために、定期的に開いている明融会を大切にしていきたい。また、校区の校長・教頭・教務・養護・生徒指導主任の立場で、それぞれの交流を深め、基礎をしっかりとしていきたい。		
		

学社融合活動実践報告

学校・園名 高雄中学校		公民館名 秋津・万呂・稲成・ひがし・中部公民館
学社融合における学校・地域の様子 今年度は校舎屋上に津波避難場所が完成したこともあり、防災教育について再考し実施した。校外活動では、吹奏楽部が地域に出かけ演奏したり、公民館のイベントに1年生が「高雄ダンス」を披露したりするなど交流を図った。また、地域からゲストティーチャーを招聘した授業では、国語科、家庭科、美術科、保健体育科、部活動では文化部で学社融合を充実させるようにした。今後も公民館の協力を得ながら、連携を密にし、来年度につなげていきたい。		
活動名 授業での学社融合で学力向上につなげる		学年・教科・領域等 ～3年、文化部・吹奏楽部、国語・家庭・美術・保健体
目 標	学校・園	・生徒たちが、授業を通じて地域の方々と触れ合うことにより、以前より地域への知識を深めたり、専門性の高い内容に興味・関心を抱くこと
	地域（公民館）	・地域と交流して活動することで、交流を深め、地域の一員としての自覚を高める。今後の活動の基盤になる、つながりや意欲を持たす。
支援者及び支援組織 公民館 たなべる 昭和幼稚園 いずみ保育園 田辺消防本部 田辺市美術館 紀南農業協同組合		
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) ☆校外交流…11月6日～ひがしふれあい秋祭り～ ねらい…自分が住んでいる地域のイベントに参加し、地域の一員としての自覚を高める。 活動内容…田辺東部小学校出身の1年生が、体育大会で発表した「高雄ダンス」を披露する。		吹奏楽部 サマーコンサート 
☆合同防災訓練 ねらい…地域の避難場所への経路を確認し、防災実践力を身に付ける。中学生は守られる立場ではなく、守る立場であることを自覚する。 第1回日時…9月4日 活動内容…クラブ単位で避難場所に避難した後、体育館で地域の方と消防署の指導のもと、救命訓練や搬送訓練を行った。また訓練前に地域の方と一緒に避難場所の草刈りや清掃など整備作業も行った。 第2回日時…11月4日 活動内容…昭和幼稚園やいずみ保育園の園児たちの手を引いたり、おんぶして避難場所まで移動する。		
合同防災訓練 		
2年創作短歌 		
3年読み聞かせ 		

	成 果	課 題
学校・園	・地域の方々をお招きして、より高い専門性を身に付けた方々から指導して頂くことにより、生徒の関心や意欲が高まったり、深く考えたりできるようになった。 ・校内に津波避難場所ができたため、地域の方がより避難しやすくなり、今後、学校と地域とのつながりを強めることが期待できる。また、園児たちと交流することで自助・共助を考えるいい機会になった。	・各教科担当のゲストティーチャーを招いての授業を継続することや新たに専門性を身に付けた方を探すことは難しい。
*子供にとって	・生徒たちは目の前で専門性の高い知識や技術を教わることで、授業や部活動の意欲関心を高めることができた。	・人数が多く、内容によってはみんなが経験することができないものがあったので、方法について再考する必要がある。
*子供にとって	・中学生は自分が地域でどんなことができるのかを理解し、活動を通して少しずつではあるが、地域とのつながりができてきている。	・地域とともに活動する機会が少ないので、もっとともに活動できるようにする。また、中学生が参加するだけでなく、運営、準備にも参加できるようにしたい。
地域（公民館）	・公民館主催のイベントに参加してもらうことで、中学生の活動や地域とのつながりを深めることができた。	・地域とのつながりを深めるため、中学生が地域の行事等に参加する機会をふやしたり、地域社会に参加しやすい居場所を作り受け入れる態勢を整えたりして、家庭、学校、地域との連携を深めていきたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向 評価 ☆授業や部活動を通して地域の方に来ていただき、身近で専門性の高い知識や技術を学べたことはたいへんよかった。また、地域のイベントに参加することで、中学生と地域の人とのつながりが少しずつでも広がっていているのは良い傾向である。		
次年度に向けての取組の方向 ☆これまでの活動を、今後も無理なく続けていけるようにしていきたい。また、授業や部活動の内容を再考し、新たにゲストティーチャーを招いてそれぞれの領域に専門性を生かした授業や活動を取り入れていきたい。		

学社融合活動実践報告

学校・園名 新庄中学校		公民館名 新庄公民館																					
学社融合における学校・地域の様子 昭和南海地震から今年で70年が経った。新庄地域は過去に何度も被害を受けたが、豊かな自然の恵みと歴史ある文化と伝統に支えられ人々の生活が営まれてきた。この地域は、学校・地域・公民館との連携がよく、協力体制も整っている。本校では、地域住民との交流や近隣学校と連携しながら、郷土への愛着を育て、今できることを大切にしながら将来の地域防災を担う住民として主体的に行動できる力を育てているところである。中学校の地域防災に果たすべき役割についても深く考えている。 また、全国的にも注目され「ぼうさい甲子園」で今年も奨励賞を受賞することができた。今年度も「全国防災ジュニアリーダー育成合宿」に生徒が参加、本校の取組を発表し全国の中学生と交流を深めた。																							
活動名 『新庄 Study』～未来へ紡ぐヒカリ～		学年・教科・領域等 全学年 総合的な学習の時間 道徳 各教科																					
目 標	学校・園	1年「地域学習」、2年「防災劇」、3年「新庄地震学」と系統的な学習の中で、過去の災害に学び、災害に対応できる人を育成することを目指す。中学生が主体的に働きかける活動を重ね、防災意識の高い街づくりに貢献していることを実感しながら、学習経験を積んだ人に育つよう継続的な活動を行う。さらに、近隣学校との連携交流により、その効果を広め充実させる。																					
	地域（公民館）	生徒、保護者、地域の方々の交流を深め、地域との連携を大切にするとともに、生徒や地域の方々の防災意識や地域力の向上に努める。																					
支援者及び支援組織 保護者 地域住民 幼稚園・保育所 小学校 高等学校 新庄公民館 新庄町防災対策委員会 新庄漁協 個人事業所 消防署 田辺市役所 生涯学習課他関係機関																							
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等)																							
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <h3 style="background-color: #ff00ff; color: white; padding: 5px;">1年 地域学習</h3> <p>新庄地域の自然の恵み、伝承や伝統文化について学習し、発表した。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="background-color: #ffff00;">新庄駅未来プロジェクト</td> <td>駅活性化のための取り組みを行う</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #ffff00;">新庄のよさひろげ隊</td> <td>新庄地域の見所や不思議をまとめたマップを作る</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #00ff00;">新庄地質学</td> <td>新庄地域の地質や鳥の巣泥岩岩頭について学ぶ</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #00ff00;">奥山の竈穴</td> <td>フィールドワークを通して竈穴の仕組みをまとめる</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #00ff00;">地域の漁業</td> <td>新庄漁業のために 今できることを調べる</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #00ff00;">新庄杜氏唄</td> <td>地域の方から 酒造りの唄を学び演じる</td> </tr> </table> </div> <div style="width: 45%;">  <p>新庄駅を憩いの場に！ 無人駅に足を運んでもらうために、イベントを企画しました。</p> <p>自分達の住んでいる地域のことだけど、知らないことがたくさんあるなあ</p> <p>○×クイズは、新庄駅や、新庄の町にちなんだクイズを出しました。</p> <p>文化祭で熱演中！</p> </div> </div>				新庄駅未来プロジェクト	駅活性化のための取り組みを行う	新庄のよさひろげ隊	新庄地域の見所や不思議をまとめたマップを作る	新庄地質学	新庄地域の地質や鳥の巣泥岩岩頭について学ぶ	奥山の竈穴	フィールドワークを通して竈穴の仕組みをまとめる	地域の漁業	新庄漁業のために 今できることを調べる	新庄杜氏唄	地域の方から 酒造りの唄を学び演じる								
新庄駅未来プロジェクト	駅活性化のための取り組みを行う																						
新庄のよさひろげ隊	新庄地域の見所や不思議をまとめたマップを作る																						
新庄地質学	新庄地域の地質や鳥の巣泥岩岩頭について学ぶ																						
奥山の竈穴	フィールドワークを通して竈穴の仕組みをまとめる																						
地域の漁業	新庄漁業のために 今できることを調べる																						
新庄杜氏唄	地域の方から 酒造りの唄を学び演じる																						
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <h3 style="background-color: #ff00ff; color: white; padding: 5px;">2年 防災劇「未来へつなぐ想い」</h3> <p>被災された方から体験をきくなど災害について学習したことを基に、オリジナル防災劇を創り、上演した。大型台風による災害への対応と避難行動、地域住民の心の結びつきや郷土愛をテーマに劇を創りあげた。</p> </div> <div style="width: 45%;">  </div> </div>																							
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <h3 style="background-color: #ff00ff; color: white; padding: 5px;">3年 新庄地震学</h3> <p>フロンティア～新たなる挑戦</p> <p>今年のテーマを「フロンティア」として、昨年度とは一味違う新たなる挑戦をした。10班に分かれ地震・津波を中心とした防災学習を行い、地域の方や幼・小・高等学校と連携を深めて取り組んだ。報道機関とも連携し、後輩、保護者、地域内外に向けて発信した。</p> </div> <div style="width: 45%;">  <p>音楽班：小学生に広めています！</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>国語</td> <td>防災標語</td> </tr> <tr> <td>社会</td> <td>津波を伝える石碑巡り</td> </tr> <tr> <td>数学</td> <td>防災意識調査・防災風製作</td> </tr> <tr> <td>理科</td> <td>新庄中学校のライフライン調査</td> </tr> <tr> <td>英語</td> <td>外国人向けの防災パンフレット</td> </tr> <tr> <td>美術</td> <td>防災カレンダーの制作</td> </tr> <tr> <td>家庭</td> <td>防災紙芝居・災害用ウォールポケット制作</td> </tr> <tr> <td>技術</td> <td>防災ラジオドラマ</td> </tr> <tr> <td>保体</td> <td>災害時のスーパーレスキュー隊</td> </tr> <tr> <td>音楽</td> <td>歌とダンスの防災教育</td> </tr> </table> </div> </div>				国語	防災標語	社会	津波を伝える石碑巡り	数学	防災意識調査・防災風製作	理科	新庄中学校のライフライン調査	英語	外国人向けの防災パンフレット	美術	防災カレンダーの制作	家庭	防災紙芝居・災害用ウォールポケット制作	技術	防災ラジオドラマ	保体	災害時のスーパーレスキュー隊	音楽	歌とダンスの防災教育
国語	防災標語																						
社会	津波を伝える石碑巡り																						
数学	防災意識調査・防災風製作																						
理科	新庄中学校のライフライン調査																						
英語	外国人向けの防災パンフレット																						
美術	防災カレンダーの制作																						
家庭	防災紙芝居・災害用ウォールポケット制作																						
技術	防災ラジオドラマ																						
保体	災害時のスーパーレスキュー隊																						
音楽	歌とダンスの防災教育																						

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> 活動や学習内容を地域に発信することにより、過去の被害の風化を食い止め、ふるさとへの誇りや防災意識の高揚に結びついた。本校から近隣中学校に働きかけ防災活動の交流を行うことで、主体的な行動力や実践力が高まった。 学校外の協力者とともに進める学習は、生徒に新たな視点を与えることができるとともに、教員集団にとっても価値のあるものであった。 	<ul style="list-style-type: none"> 公民館等と連携しながら、できるだけ多くの方に自然と関わってもらえ、地域の人々が参加しやすいような企画を立案していくことが重要である。 1年「地域学習」、2年生「劇」、3年「地震学」と3年間で系統立てた取組だが、内容の精選や再構築がさらなる進展につながっていくものと考え、実践していく。授業時間等にも工夫が必要である。
* 子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> 異校種の学校、他中学校、地域との連携を通し、絆を深めることができた。プレゼンテーション能力も高まった。 地域学習や劇、地震学を通して、生徒一人一人が新庄地域に暮らす一員である自覚やふるさとへの愛着も芽生えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年間で系統立てた取組になっているのだが、子供たちもそのことを実感してもらいたい。 地域や防災について学習した成果、知識や技能等が日常生活や災害時に生かされる実践力を全員につけさせたい。
* 子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな分野の活動に取り組むことにより多くの方々と出会い、防災意識の向上になった。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の一員であることに自覚をもち、地域の活性化につなげてもらいたい。防災への取組を次の世代に伝えてほしい。
地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> 災害の記憶を風化させることの歯止めになっている。地震学の取組によって、保護者、地域住民の防災意識が高まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域、学校、公民館の連携をさらに深め、より一層防災意識の向上に努めたい。地域全体で防災意識を高めることにより、地域力も高めていきたい。

評価及び次年度に向けての取組の方向

『新庄Study』として、3年間で系統立てた取組を行った。

1年「地域学習」では、市指定無形文化財「新庄杜氏唄」の歴史や唄を保存会の方に教えていただくなど、グループに分かれ地域の良さを学習した。本年度新たに「新庄駅未来プロジェクト」「新庄のよさひろげ隊」の取組が行われ、地域の活性化を図ったり、新庄の良さを発信したりした。大変好評であった。

2年は、地元の災害について学習したり、那智勝浦町「県土砂災害啓発センター」を訪れ紀伊半島大水害の体験を聞いたりして、災害の恐ろしさ、避難の大切さを実感した。学習を生かして防災をテーマにしたオリジナル劇を創り、文化祭で発表した。新庄地域の良さもふんだんに散りばめた内容で感動の劇となった。

3年「新庄地震学」は16年目を迎え、11月、地域住民や保護者に学習成果を広めた。各教科10の班に分かれ、音楽班「オリジナル防災ソングの制作・演奏会」、技術班「防災ラジオドラマ制作による校内放送や公民館での試聴会」、英語班「外国人のための防災ガイドブック制作と配布」、理科班「プール水の浄水装置の試運転」など、新しい試みも実践された。

その他の今年度の顕著な活動としては、夏に実施した「ぼうさい未来学校」がある。近隣中学校に働きかけ、防災リーダー合宿を他校との共同活動として実施し、これまでの成果を共有し合った。また、熊本地震の際には、自分たちができることとして校内での募金活動はもとより、生徒会役員が市内の中学校に参加を募り、街頭活動を行った。手作りのポスターを手に、買い物客らに協力を呼びかけた。大変有意義な活動となった。

次年度に向けての取り組み

「地域学習」「防災劇」「新庄地震学」を継続していく際、系統立てたものになるよう意識し、さらなる内容の充実を目指したい。さらに、地域や近隣学校との連携交流により、その効果を広め、充実させたい。学社融合の取組は、公民館や地域の協力があってこそ実施できるものなので絆をさらに深めていく。今している一つ一つの取組(ヒカリ)を大切に育て、さまざまな方と繋がりがながら未来に向かって紡いでいきたい。

学社融合活動実践報告

学校・園名 衣笠中学校		公民館名 万呂公民館 三栖公民館	
学社融合における学校・地域の様子 三栖地域において、学校が抱えている教育課題を積極的に家庭や地域の方々に伝えることで、課題を共有化し、学校と地域が共に力を合わせ、子どもにとって何が大切であるかを明確に示し、共に子育てを行うという関係が確立されている。また、「地域について学ぶことで地域への愛着心や、様々な人たちと交流を図る中で、好ましい人間関係のあり方を学び、人を思いやる心など豊かな人間性を身につけさせる。」という目標実現に向け、学校・地域・公民館との連携ができており、お互いに協力できる体制も確立されている。生徒にとって有効な活動を企画・運営することをお互いに心がけて、実践している。さらに取組が単発的ではなく、生徒と関わってくれる多くの人たちとの交流が継続的な内容になるように考えている。生徒たちは地域の方々と体験活動を通して、挨拶や礼儀、中学校では体験することのできない事柄を学び、生まれ育った地域を愛し、地域に貢献しようとする意識や社会性、市民性が生まれ			
活動名 みんなが輝こう みんなで輝こう		学年・教科・領域等 全学年・総合学習・英語・美術・家庭等	
目 標	学校・園	・自然や地域の人々とのふれあいを大切にし、地域社会の一員としての自覚を持たせ、地域に貢献する態度を育成する。 ・地域を知り、たくさんの人やものとの出会いから、心を育て、生き方を学ばせる。	
	地域（公民館）	・中学生が、地域の一員として自分たちにできることを学ぶ。 ・様々な関わりあいの中で、中学校の取組について知り、理解を深め、地域ぐるみで取り組んでいく体制をつくっていく。	
支援者及び支援組織 三栖幼稚園 三栖小学校 長野小学校 会津小学校 伏菟野小学校 田辺市梅振興室 JA三栖等地域団体 企業 保護者 育友会 地域住民 三栖公民館 万呂公民館 長野公民館			
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 梅収穫選別体験学習(1年) 地域の梅農家の方々のご協力で、梅の収穫と選果体験を実施した。1年生の生徒たちは、慣れないながらも、一生懸命に梅を収穫し、収穫した梅を各教室に持ち帰り、選別の仕方を指導してもらい、A級、B級、C級と梅を選別した。 梅天日干し体験学習(1年) 近隣の梅農家の方々のお家に、6人ずつの班で訪問し、梅の天日干し体験を実施し、本格的な梅の天日干し体験や、干した梅をひっくり返す「コロコロ」という道具を使って様々な体験をさせていただいた。 職場体験に向けてのビジネスマナー(2年) 職場体験学習を実施するにあたり、オフィスメイト株式会社の坂本昇子様より、職場でのマナーについて教えていただき、学んだことをそれぞれの職場で生かし、有意義な職場体験にすることができた。 職場体験学習(2年) 地域の25箇所の事業所の協力を得て、職場体験学習を実施した。2年生は、職場体験の前に、オフィスメイトの坂本昇子様にビジネスマナーの講義をしていただき、それぞれの事業所で一生懸命に体験活動を実施した。 福祉学習(3年) 田辺市社会福祉協議会の鹿毛氏をお招きし、福祉学習を実施した。「福祉教育・ボランティア学習の導入として、同じ地域の住民として支え合う町作りを考える。」こと、「聴覚障がいについて学び、自分たちにできることを考え、手話を使って聴覚障がい者とのコミュニケーションを学ぶ。」という内容で、中身の充実した学習となった。 幼稚園と連携したポンチ作り(3年) 3年生の家庭科で、三栖幼稚園の園児と一緒にフルーツポンチ作りを実施した。3年生のリーダーシップのもと、園児たちはとても楽しくフルーツポンチを作り、作ったフルーツポンチは、全員でおいしくいただいた。 幼稚園と合同避難訓練(3年) 南海・東南海地震発生を想定し、隣接する三栖幼稚園の園児を本校3年生が誘導し、中学校の3階へ避難する訓練を実施した。生徒も園児も真剣に取り組む、この訓練を生かし、災害時は落ち着いて行動できるようにしたい。 義援金活動(生徒会) 熊本地震を受け、本校生徒会役員や他校の生徒会役員がオーシティー前で募金活動を実施した。手作りのポスターで買い物客に協力を呼びかけ、集まった募金は紀伊民報を通し、日本赤十字社に送られ、熊本県に届けられた。 性学習(全学年) 日高病院の谷前先生に、各学年の発達段階に応じた内容で、性学習をしていただいた。1年生は「思春期の体とこころの変化」、2年生は「男女交際」、3年生は「避妊と人工中絶」の内容で授業をしていただいた。命の大切さ等について深く学ぶ機会となった。			
梅収穫体験 ビジネスマナー講習会 幼稚園と合同避難訓練			
			

	成 果	課 題
学校・園	・地域や公民館と連携した様々な取組を通して、生徒一人一人に郷土を愛する心が育まれ、自分たちがこの地域で生きているということを感じさせることができた。 ・地域の方々から、生徒同士や教師との関係とはまた違った方向から指針を受けることで、人間関係構築に必要なコミュニケーション力や、温かい心を育むことができた。	・地域の方々の様々な体験活動を通して、生徒の相手を思いやる心、地域への愛着心、規範意識を今後さらに高めていきたい。 ・公民館と連携し、今後とも積極的に地域、講師とのつながりを深め、生徒や学校に関心をもってくれる人をさらに増やし、有意義な体験活動を計画していきたい。 ・ニーズに応じた教育講演会・共有ミニ集会の実施など、様々なアプローチを試み、地域との関わりを増やしていきたい。
*子供にとって	・体験活動を通じ、多くの地域の大人との関わりを持ち、多様な価値観を知り、社会性を身につける素晴らしい機会となり、子どもたちの成長に大きな成果となった。 ・体験活動を通して多くの方に頑張りを評価してもらったことで、自己肯定感を持ち、自尊感情が育まれ、地域に愛着を持つ心が生まれてきた。	・今後は、たとえば防災活動等において、主体を生徒側にとって、地域にとって今自分たちは何ができるか等を発信したり、働きかけられる活動をさらに進展させていく。 ・地域の一員としての自覚を持たせ、継続して地域に貢献できるような活動を計画する。
*子供にとって	・梅学習や職場体験を通じ、働くことの大変さや地域の人々の苦勞を知ることができた。 ・幼稚園との合同避難訓練などを通じ、地域の一員としてできることを学ぶことができた。	・今後も地域の一員としてできることを学んでいく。また、それを具体的な取組へと進展させていく。
地域（公民館）	・学習活動に携わることで、中学生がどのようなことを学び、地域の一員としてどのようなことができるのかを知ることができた。	・学校と地域それぞれの取組について情報共有を図り、理解を深めるとともに、そこで得たものを学校支援や地域活動に生かしていく。
評価及び次年度に向けての取組の方向 本校では、1年生が「梅」に関する学習、2年生が「職場体験学習」、3年生は「福祉学習」といった各学年において中心となる活動が確立されている。今後はこれらの活動の中身の見直しを行い、良いところは継続し、改善するところは改善しながら取組を進めていく。 昨年度、美術科で行った三栖幼稚園児との共同制作「きぬがさポンチ」(1年)、「熊野古道スイーツ」(2年)も完成し、生涯学習フェスティバルで子どもたちのボランティアを募り、販売することができた。 3年生は福祉(手話)についてさらに理解を深め、文化発表会で取組の成果を劇で発表し、地域の一員としての意識を高めた。 各学年で防災への取組も実施し、田辺市消防本部と連携し、応急手当の方法を全学年で取り組むことができた。今後は公民館と連携した避難所運営体験に力を入れた取組を実践していく。また、隣接する幼稚園に不審者が侵入したという設定で不審者対応訓練を実施した。 今後も、これらの取組を発展、改善させるために、学社融合活動の重要性を全職員が感じ、地域や公民館と協議・検討しながら、様々な取組をすること、月1回の学社融合会議(公民館、幼稚園、小学校、中学校)の充実を図り、協力体制のもとで様々な行事を企画、運営していく。		
 不審者対応訓練 3年生福祉学習の劇発表		

学社融合活動実践報告

学校・園名 秋津川中学校		公民館名 秋津川公民館
学社融合における学校・地域の様子 秋津川中学校は、秋津川小学校と同じ敷地内に隣接して廊下でつながり、運動場や体育館、プール等を共用しながら学校生活を送っている。児童・生徒間でも教職員間でも交流が行われ、小中連携が進んでいる。ほとんどの生徒は、保育所から小、中学校と一緒に生活しているため、生徒同士の人間関係もよい。また、保護者も長い年月と一緒に活動しているため連帯意識や、地域の人々も子どもたちを見守り育んでいこうとする意識が強い。 学社融合の取組から、子どもたちが地域の方々と触れ合うことで、視野を自分のみから地域へと広げて考えられるようになるとともに、組体操や南中ソーランの取組を見ていただき、地域の高まりに貢献するとともに、地域の方々も学校行事や子どもたちとの活動を仲介として、さらに交流が活発に行われていけるようにしたい。また、コミュニティーとしてのまとまりが保持され、各種お祭り行事等、秋津川地域としての文化の形成・継承が行われている。		
活動名 町民運動会		学年・教科・領域等 全学年・体育・総合
目 標	学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人たちとのふれあいを深め、地域を知るとともに地域の良さを発見し、地域を愛し、地域を誇りに思い、大切にすることを育てる。 ・組体操・南中ソーランを小中全員で行うことで、生徒各々が責任を自覚し、発表力を高める。 ・秋津川中学校を地域の方々にも知ってもらい、開かれた学校づくりを進める。
	地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民と子どもたちが交流を深めることで、郷土愛を育み、地域としての連帯感を高める。 ・地域住民、各種団体、学校が協力して一つの行事に取り組み、来場の方々に秋津川の教育活動の一端を知っていただくことで地域の活性化を図る。 ・地域住民に学校の取組に目を向けてもらい、子どもたちの健全育成に関心を持っていただく。
支援者及び支援組織 秋津川公民館 秋津川町内会 秋津川保育所 秋津川小学校		
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) ○ 8月30日(火) 第3回 公民館協力委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・町民運動会プログラム確認 ・大会役員・種目・準備物確認 ○ 10月2日(日) 平成28年度 秋津川町民運動会 <ul style="list-style-type: none"> ・参加種目 小中合同 (3色リレー、組体操、南中ソーラン) 中学生種目 (レク種目) 地区対抗種目(綱引き、地区対抗リレー) 一般種目 (スプーン競争、パン食い競争、タイフーン、障害物競走・お化粧上手、タルころがし) ・当日朝、地域の方々準備を行うが、手際よく、短時間で準備が完了する。 ・開会式・閉会式は小学校教頭の進行で、生徒挨拶・体操等、生徒の活動の場が多かった。 (内容) 保育園児や小中学生の競技で盛り上がり、地区対抗種目が4種目と盛りだくさんの中味で盛大に開催された。地域からも大変多くの方々に集まっていたいただき、楽しい笑い声いっぱいの運動会と温かい雰囲気の中で行われた。 ・片付けも、地域の方々とおこない、短時間で終了し、地区が一つとなった行事であった。 ○ 10月31日(月) 第4回協力委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・運動会について (感想・反省) ・準備片付け、運営等、地域の皆さんが手際よく動いてくれスムーズな進行であった。 ・ダンスや組体操、南中ソーランがとても良かった。 ・最後の種目で、全員で踊る秋津川音頭はとて面白いと思う。 ・中学生が景品渡しなどで、良く動いてくれた。 		

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の多くの方々「町民運動会」に来ていただき、秋津川小・中学校を身近に感じ、児童生徒の様子を知ってもらいよい機会となった。 ・さらに、組体操や南中ソーランを披露することで、地域の方々にも喜んでいただき、秋津川中学校の地域に根ざした教育活動の一端を知ってもらいよい機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・合同開催のために、今年は雨が多く日程の調整で苦労することがあった。 ・見学席でのマナーの悪さを地域から注意された。職員が係として関わるため、手薄になってしまったからだと考える。卒業生や他校生が応援席に来ることについての対応の仕方を共通理解して、次年度は取り組んでいきたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の学校生活は少人数で過ごしているため、大勢の人を前に発表するという、貴重な体験を積む機会であった。 ・地域の催しへ参加することで、地域の一員としての連帯感や自覚を促すきっかけとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが少ないということもあって、地域からは大切にされ過ぎるところがあり、自立心の芽生えが遅れがちになりやすい。それぞれに役割分担をし、責任感を高めるようにしたい。 ・地域に対して、自分たちは何ができ、何をすべきかを考える主体的な態度を育てたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・組体操や南中ソーランなどの披露を通して、自分たちの取組や地域行事に関わっている姿を多くの来場者に見ていただくことができた。 ・地域の皆さんが、一生懸命、この行事に取り組んでいる姿を通して、ふるさと秋津川の良さを再確認することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これからも地域の行事や活動に積極的に関わって、多くの方々と交流し、人間性や社会性を高めていただきたい。
地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と学校が協力してこの行事を開催することで、地域の活性化にもつながっている。 ・少人数ながらも、子どもたちがひたむきに行事に参加・協力してくれていることで、地域住民も元気と活力をもらっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢、過疎の進む地域にとって、このような交流行事が益々重要になってくると思われる。今後も継続して開催していけるよう、学校ほか各種団体とも連携しながら取り組んでいきたい。 ・時間的な制約があるが、行事をさらに盛り上げ、マンネリ化を避けるために、子どもたちの声を取り入れたり、世代間で交流ができるような新たなイベント内容も検討してみたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向 ・町民運動会には地域の多くの方々に来ていただき、大いに盛り上がり、児童生徒も有意義な一日となった。また、小中合同の組体操や南中ソーランでは、多くの皆さんから温かい拍手をいただき、お褒めの言葉もいただいた。このことは、生徒たちにとって自分を肯定的に見る材料となり、自信につながったものと思われる。子どもたちも、一生懸命頑張り、感想の中にもとても良かったという意見が多かった。今後もさらに磨きをかけて、町民運動会の楽しみな種目となるよう、取組を充実させていきたい。 ・このような地域の行事は、大勢の人前で発表できる数少ない機会であり、普段、少人数の仲間だけでしか生活していない生徒たちにとっては、たいへん貴重な体験の場となった。今後も小規模校の本校においては、大勢の場で発表する機会は大切にする必要がある。 ・町民運動会は公民館を中心に地域の方々に運営等していただくため、生徒たちは、与えられた受身の参加意識しか持っていないように思われる。今後は、企画のマンネリ化を避ける意味からも、生徒たちから主体的にこの運動会を盛り上げようとする機会が設けられないものかと思う。それを考えさせることは、生徒たちに秋津川地域の将来を考えさせることにつながり、郷土を思う気持ちをより一層強くすることにつながるように思う。		

学社融合活動実践報告

学校・園名 上芳養中学校		公民館名 上芳養公民館
学社融合における学校・地域の様子 本校は田辺市の中心地より約10km離れたところに位置し、芳養川の上流を校区とする山間地の学校である。周囲は緑に包まれ、梅・みかん等の果樹栽培を主とした農村地帯である。上芳養地域は、小学校1校と中学校1校であり、また、地域の多くの方が本校の卒業生である状況などから、地域の学校教育に対する関心が高く、協力的で育友会活動や公民館活動への参加は大変積極的である。体育大会やマラソン大会など地域で行われる行事には、たくさんの保護者や地域、敬老会の方々、卒業生等が参加して、たいへんな盛り上がりを見せている。 地域の中に、学校を地域で支える、子どもを地域で育てるという意識が根付いている。		
活動名 職場体験学習		学年・教科・領域等 2年・総合的な学習の時間
目 標	学校・園	望ましい勤労観、職業観及び職業に関する知識や技能を身につけさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力、態度を育て、地域の課題や将来に目を向ける機会とする。
	地域（公民館）	地域内にある職場を中心に勤労体験をすることによって、地場産業に対する理解や地域に対する関心を深める。
支援者及び支援組織 上芳養中学校 日向保育所 西尾燃料 新谷自動車 第二のぞみ園 岡自動車 大金商店 上芳養郵便局 JA紀南上芳養支所加工場 たなべる		
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 職場での体験活動は、1、2年生で行っている。1年生では、上芳養地域内の梅農家で2日間の農事体験学習を行っている。2年生では、上芳養地域と田辺市内にある様々な職場で3日間の職場体験を行っている。 2年生の職場体験では、事前学習として、JCティーチャーを講師に迎え、働いている人についての講話をいただいた。また、オフィスメイトに協力をいただいて、ビジネスマナー講座を実施した。 5月の体験活動では、9事業所に協力をいただき、生徒14名がそれぞれの事業所で実施させていただいた。11月の文化発表会では、体験活動で学んだことを一人一人まとめ、保護者や地域の方々の前で発表した。		
1学期	4月	事前学習(総合的な学習の時間、道徳、学活) 働くことの意義、職場体験での心構え等 働いている人の講話、ビジネスマナー講座
	5月	職場体験学習 3日間 上芳養を主とする田辺市内で体験
2学期	11月	文化発表会で新聞発表
		 ビジネスマナー講座
		 JCティーチャー講座
		 職場体験学習
		 職場体験新聞

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習として行ったJCティーチャー講座やビジネスマナー講座で、仕事の現状ややりがい、大切さ、礼法、接客の仕方、言葉遣い等について学ぶことができた。 実際の職場体験学習では、働くことの意義や目的、大切さについて身をもって学ぶことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒がより課題意識をもち、主体的に取り組むことができるよう、事前、事後の学習を効果的に取り入れる。 事業所との連携を図り、勤労についての意義目的について学ばせる。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> 職場体験学習を通して、勤労の意義を自分なりに考えることができた。 自分の進路について考える機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> 目的意識を明確にもち主体的な体験活動を行う。 体験活動を通して、地域との関わりについての考えを深めるようにする。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの住んでいる地域の職場で実際に体験学習をすることによって、地元の産業について学ぶことができた。また、その中で、様々な立場の方と交流を深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 体験学習を通して、さらに多くの地域の方々と積極的に交流していこうという気持ちを育んでいく。
地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> 体験学習を通して、地域の方々も、生徒たちの働くことに対する前向きな姿勢を見ることができた。 地域の方々の生徒に対する関心を高めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も体験活動を通して、地域と学校が連携し、関わりを深めていくことができるよう取り組んでいきたい。 生徒たちの目線では、勤労についてどのように考えているかをさらに聞き出しながら職場体験学習の内容を深めていきたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向 評価 <ul style="list-style-type: none"> 1年次から取り組んできたこともあり、2年生になってからもスムーズに進めることができた。事前学習には、それぞれ2名の講師に来ていただき、体験学習に向けて、働くことの意義等について学ぶことができた。 今年度も学社融合の様々な取組を行うことができた。学校に対する地域の方々の関心は高く、様々な形で多くの方の応援をいただいている。その応援に応えるように、生徒たちはひたむきに取組を進めることができた。 次年度に向けて <ul style="list-style-type: none"> 例年通り、公民館、小学校、保育所、第2のぞみ園、ころころ山さん、地域の団体と連携した取組を行っていく。 職場体験活動は、地域の事業所を中心に協力いただき、上芳養地区の課題や自分の将来に目を向ける機会になればと考えている。 農事体験では小学校の梅学習との系統性を図り、更に深まりのある活動にしていきたい。 公民館と今後も連携し、地域の方々をゲストティーチャーとして招き、子どもたちの学びを更に深めさせたい。また、生徒たちにとって、地域にとって有意義な活動を模索していきたい。 		

学社融合活動実践報告

学校・園名 田辺市立中芳養中学校		公民館名 中芳養公民館
学社融合における学校・地域の様子 本校では、平成18～20年度に田辺市教育委員会の指定を受け、「学校・家庭・地域が一体となって取り組む豊かな心の育成」を研究主題とした取り組みを行い、学校・家庭・地域が手を携えて「生きる力」の基盤となる「豊かな心」を育む実践を積み上げてきた。このときの研究成果である「学校で学び」「家庭で育て」「地域で鍛える」を生かし、平成26年度からの「中芳養地域共育コミュニティ本部事業」の取組を進めている。 本年度は、「梅勤労体験」「福祉体験学習」「中芳養夏祭り」「中芳養祭」「和の心の授業」など、地域との交流を通して、「豊かな心」「生きる力」の育成を目指した取組を進めている。		
活動名 地域と共にある学校 学校でつながる地域の“わ”		学年・教科・領域等 全学年・総合的な学習の時間
目 標	学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々や幅広い世代の方との交流によって、豊かな心を育て、コミュニケーション能力を高める。 ・幼・小・中・公民館・家庭が一体となって、子供を育てる体制を整え、子供たちの健全育成と地域の交流の活性化を図る。 ・地域とつながり地域の教材を使うことにより故郷を愛する心を育てる。
	地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・地域全体で子供たちを育てていくという意識を高める。 ・様々な取組を通して、お互いに交流を深め、子供たちの成長に関わる。 ・地域のことを子供たちに伝えることで、さらに地域に対する愛着を持ち、理解を深めていく。
支援者及び支援組織 中芳養公民館 中芳養幼稚園 中芳養小学校 JA紀南中芳養支所 中芳養地区老人会「芳寿会」		
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)□ 【中芳養地域共育コミュニティ本部事業】		
梅・勤労体験 6月～8月	中芳養幼稚園の園児を招いて「校内梅採り体験」を実施。その後、JA中芳養支所の協力を得て事前学習を実施し、体験学習当日は、6つの班に分かれて梅農家で1日体験を行った。夏休みには、事後学習として「JA梅加工場見学」を実施した。	
中芳養PRビデオ作成 8月～9月	幼・小・中のPTA役員、学社融合担当、公民館主事が協力して「中芳養PRビデオ」を作成するための編集会議を持つ。それぞれが分担してビデオ撮影をする。	
中芳養夏祭り 8月6日(土)	7月19日に「芳寿会」の協力を得て、盆踊り講習会を実施、全校生徒・教職員が参加して講習を受けた。夏祭り当日の盆踊りには、多数の中学生が参加できた。また、2年生が中心となって露店を運営した。	
和の心の授業 10月～11月	日本の伝統文化に親しむことを目的とした「和の心の授業」を実施、近隣の方に外部講師を依頼し、1年生は「書道」、2年生は「華道」、3年生は「茶道」をテーマにして取り組んだ。	
中芳養共育コミュニティ本部事業研究発表会 11月20日(日)	研究発表会を実施し、3年間の取り組みの成果を発表した。午前中は幼・小・中それぞれが公開授業を実施、午後の全体会では、幼・小・中全員での「郷歌」の発表、「活動発表」「中芳養PRビデオ」「研究発表」を通して取組を紹介できた。	
中芳養祭 11月23日(水)	午前中は、各学年の取組を発表。午後は、交流タイムを実施し、幅広い世代との交流を進めた。	
中芳養合同作品展 12月10・11日	中芳養合同作品展で陶芸や地域の祭りをテーマとしたモザイクアートの作品を展示した。	



	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度から指定を受けた「中芳養地域共育コミュニティ本部事業」の研究発表会を成功させることができた。 ・本年度から華道の先生を地域から招聘することができた。 ・幼・小・中のPTA役員が一堂に会し、共同作業ができ、親睦が深まった。 ・研究授業等の交流で学習内容の相互理解を深め、地域の伝統や文化を確認できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の教育力を学校に取り入れるために様々な場面での活用を考える。 ・3年間の取組を精査し、継続して取組を進めていきたい。 ・今後も幼・小・中・公民館の連携を深め子供を育てる一貫した取組に発展させていく。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・芳寿会の方と共同で作品づくりを行うことで、コミュニケーション能力を高めることができた。 ・「郷歌」に取り組むことで、地域への理解を進め愛着を深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が行う地域との交流行事を通して、日々の生活の中で挨拶や地域行事への参加ができるようにしていきたい。 ・地域の良さを知ることによって愛着を育み、地域の将来について考えられるようにしていきたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々との活動に積極的に取り組むことで、様々な人々と関わろうという気持ちが高まった。 ・多くの交流を通して、自分たちで考え、意見や思いを伝えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの地域について学び、学んだことを周りの人々と共有することで、さらに地域に対する理解を深めたい。
地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々が学校に足を踏み入れ、子供たちと共に関わり、交流することで、学校の様子や子供たちの様子を知ることができた。 ・普段、子供たちと関わりがなかった人も、交流を通して、顔見知りになることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な取組に対して、各種団体が協力しながら関わり、持続していくことができる形にしていきたい。 ・地域行事や学校行事に対して、さらに地域の人々の協力を得ていきたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向		
<ul style="list-style-type: none"> ・故郷の題材を使って作成したモザイクアートは、中芳養祭や合同作品展で高評価を頂いた。今後も続けて行くために、作成のノウハウをマニュアル化していきたい。 ・芳寿会との陶芸を通じた交流は、毎年楽しみにしてくれる行事となりつつある。また、PTAの陶芸教室も参加者が多くなり、保護者同士の交流の場となってきている。 ・本年度取り組んだ「中芳養PRビデオ」は、高い評価をもらった。作品作りのため幼・小・中のPTA役員が集まり、議論を通して交流が深まる大変貴重な取組になった。 ・地域の教育力を学校に取り入れるために各教科で活用できる単元や実習等を洗い出し、具体的な取組につなげていけるようにしたい。 ・3年間の取組をまとめ、今後も持続可能な取組にしていく必要がある。今回得られた幼・小・中・公民館の連携を今後も大切に、より効率的な一貫教育に発展させていきたい。 		



学社融合活動実践報告

学校・園名 龍神中学校		公民館名 龍神公民館	
学社融合における学校・地域の様子 地域の人と接することで、地域を知り、地域に学ぶという「ふるさと学習」を基本として、「自然・環境」「歴史・文化」「産業」「福祉」の4つの分野において、それぞれの発達段階に応じて特色ある実践活動を展開している。具体的な取組は ①「学校だより(翔龍)」の校区全戸(約1700戸)への配布 ②体育大会、文化発表会等の学校行事への参加の推進 ③ボランティア活動の推進 ④地域行事への中学生の積極的な参加 ⑤職業体験活動の実施 ⑥外部講師(ゲストティーチャー)の活用等を行っている。			
活動名 田んぼアート(米づくり)		学年・教科・領域等 全学年、各学年・総合・特活・学校行事	
目 標	学校・園	・地域社会の中で、子どもたちの豊かな人間性、社会性を養う。 ・活動を通して地域の方々との交流を図り、地域の文化や、地域を愛する心情を養う。さらに、地域の教育力を生かした様々な活動に発展させていく。 ・ボランティア活動やリサイクル活動を通して、地域の環境美化・保全の意識を高める。	
	地域(公民館)	・地域を担う人材を育成する。 ・地域の人材からふるさとを学ぶ機会を提供する。 ・生徒との交流を通して、地域団体の活性化を図り、生きがいを見出す。	
支援者及び支援組織 龍神地域各地区 龍神公民館 龍神中学校PTA 学校評議員 社会福祉協議会 西牟婁振興局 市・環境課 龍神行政局 中山路生活圈寄合会 等			
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等)			
5月 18日 田んぼアート実行委員会		今年、龍神村大熊地区に伝わる「出合のカップ」という昔話をもとに「温泉マーク」と「カップ」、「牛」を描くことに決定。	
6月 9日 田植え		うるち米と古代米(2種類・餅米)を図柄に沿って植えていく。	
			
決められた場所に決められた苗を！		温泉マークがきれいに！	
		田んぼアートの全景です	
10月12日 稲刈り		うるち米と古代米を混同しないように注意して刈り取り、その後ナル(刈り取った稲を掛ける竿)に掛けて天日干しする。	
			
混じらないように刈り取り。		ナルに掛けていきます。	
			
		後日、10俵も頂きました。	

	成 果	課 題
学校・園	・保護者や地域の方に学校の様子や活動をより多く知ってもらうことができ、地域の学校としての意識をより高めることができた。 ・活動に対して大勢の方に協力していただくことができ、学校と地域の関係を密にすることができた。 ・講師(ゲストティーチャー)招聘により幅広い分野の学習をすることができた。	・学校と地域の関係をより密にし、地域の教育力をより生かした活動計画を立てていく。(幅広い分野にわたった取り組みを進めるために) ・地域の方々の協力により、自分たちの教育活動が成り立っていることを生徒に自覚させるとともに、地域の方々への感謝の気持ちを育成する。 ・出来るだけたくさんの体験活動を取り入れたいが活動時間、予算の関係で取捨選択しなければならないこともある。
* 子供にとつて	・地域の大勢の方々の協力により、さまざまな活動ができ、より大きな達成感を味わうことができた。 ・環境美化・保全への意識を高めることができた。	・地域の方に感謝する心や、これらの取り組みが貴重な体験であるということを感じてもらいたい。 ・地域の行事や活動に積極的に関わって、より多くの方と交流し社会性を高める。 ・地域の一員であることを自覚し、地域の方への挨拶や交通ルールやマナーを守る態度を向上させる。
* 子供にとつて	・地域にある組織や団体がゲストティーチャーとして学校に入るにより、地域で活躍している方から直接話を聞くことにより子供達にとっても意義深い学習になっている。 ・地域の方と活動を通して交流を深められた。	・生徒が学社融合活動で学んだことや経験を地域や今後の人生の中で生かしていけるよう大切にしていきたい。 ・地域で活躍できる生徒の育成。
地域(公民館)	・地域の方が学校に出向くことにより、学校活動に対する関心が高まり、保護者以外の地域の皆さんにも「地域の学校」として、学校活動に協力いただいている。「学校だより」を手渡しで配布することにより、校区の住民がより中学校の取組に関心を持つようになっている。	・学社融合活動をスムーズに行うために、地域と学校をつなぐ人材の育成。
評価及び次年度に向けての取組の方向		
・学校だよりの校区(約1700戸)への配布を、年間を通じて行うことができ、学校での活動を地域に発信することができた。 ・体育祭や文化発表会に、保護者だけでなく大勢の地域の方々に参加していただくことができた。 ・今年から村民文化祭の午前中に本校の文化発表会を開催し、多くの方々に観賞していただくことが出来た。 ・村民文化祭の舞台発表や美術作品の出品において、大勢の地域の方に鑑賞していただくことができた。 ・祭礼の和太鼓や笛の演奏などに、積極的に参加することができ、決まりを守ることや安全確保もできた。 ・リサイクル活動には、保護者や地域の方々の協力で、たくさんの古紙、古着などの回収をしていただくことができた。その収益が様々な体験活動の原資になっている。 ・虎ヶ峰清掃作業の活動を通して、環境を守ることの大切さを体験を通して学ぶことができた。 ・外部講師(ゲストティーチャー)の招聘により、幅広い分野の体験や学習をすることができた。今年からは平和学習では「轟音」の鑑賞が出来た。また、毎年行っている活動でも外部講師が交替するなど、交流が広がっている。 ・米作り体験事業では、田んぼアート作業にも関わるとともに、農作業の体験を通して、働くことの意義を理解することができた。		
取組の方向		
・学校、公民館、各関係団体による組織作りを行う。この方向は益々広がりを見せている。 ・学校と地域の関係をより密にし、地域の教育力をより生かした活動計画を立てていく。(幅広い分野にわたった取り組み。時間の確保、場所、人材の確保等) ・環境美化・保全活動に対する住民意識を高めていくために、広報活動の工夫をする。 ・年3回のリサイクル活動の継続。(普段から古紙、古着をためておいてもらえるような活動としていく。)又それらをうまく広報活動して啓発する。 ・環境教育を充実させ、自分たちの住む地域に対する愛着を高めるとともに、主体的に活動を進めていけるようにする。		

学社融合活動実践報告

学校・園名 中辺路中学校		公民館名 中辺路公民館
学社融合における学校・地域の様子 自然豊かな環境の中で、少人数ではあるが生徒たちは保護者や地域の方々に大切に温かく見守られながら学校生活を送っている。学校では、地域との交流を深める様々な取組を行っており、それらを継続的に行うことで年々活動に協力して下さる地域の方々が増えている。地域全体が「地域の子供を育てる」という意識を持っており、地域の方が取組を提案して下さることもある。女性会や老人会といった地域の中にある組織の方々との交流も積極的に行っている。		
活動名 「NAKAHECHI」をつなげよう！		学年・教科・領域等 全学年・総合・特活・学校行事
目 標	学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・自然や地域の人とのふれあいを大切にし、地域社会の一員としての自覚を持たせ、ふるさとを愛する心を育む。 ・地域行事やボランティア活動に積極的に関わってほしいとする生徒を育成する。
	地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒と地域住民との交流を深めることにより、子供たちが地域への理解を深める。 ・学校と地域の連携を密にして子供たちの健全育成を図る。
支援者及び支援組織 田辺市女性会連絡協議会中辺路支部 清姫音頭保存会 花ボランティア(10名) 熊野の森ネットワークいちいがしの会 等		
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) ●地域から受け継ぐ● ・「全校生徒が清姫音頭を教わる」…9/11 「清姫音頭保存会」の方々に来ていただき、全校生徒に踊りを教えていただいた。それを校内の体育祭で保護者や地域の方々にも参加していただき披露した。 ・「3年が女性会との交流で調理実習」…10/7 地域の食材を使って、調理法などを田辺市女性会連絡協議会中辺路支部の方々に教えていただいた。 ●地域に学ぶ● ・「1・2年が花ボランティアから教わる」…年6回程度 今年度は10名の地域の方々が、花ボランティアに登録して下さり、一緒に種まきやポットへの植え替えをしていただいた。 ●地域にかえす● ・「全校生徒が校内で育てた花の苗を配布」 生徒会活動の一つとして町内の事業所や地域の方々に苗を植えたポットを配り育ててもらっている。 ・「全校生徒が森林ボランティア」 「熊野の森ネットワーク・いちいがしの会」の協力によってどんぐりの実から苗を育て、2年後に山に植樹する。 ・「苗の水やり」*11/21…どんぐりの実拾い *1/29…苗の牛乳パックへの植えかえ *2/12…植樹 ●地域との交流● ・「子育てサークルとふれあい体験」1年…6/16 3年…7/7 中辺路保健センターにて地域の子育てサークルとふれあい体験を行った。 ・「1年グラウンドゴルフ」…11/22 地域の老人会の方々と本校グラウンドにてグラウンドゴルフを行った。 ●地域のために● ・「サマーボランティアへの参加」…夏休み中 夏休み中、地域の施設にご協力いただき、全校生徒が自主的に参加した。		



	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々との交流を深めることによって、学校と地域のつながりが深まっている。 ・様々な取組を通して、学校と地域とのつながりを深めていくことにより、地域の方々の学校教育や生徒に対するの関心や理解が高まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な取組をするので時間の確保が大変である。計画的に時間を確保していく必要がある。 ・今後も継続させることによって、地域の方々との協力関係を深めていきたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々との関わりによって、社会性やコミュニケーション能力の向上につながっている。 ・地域の伝統をはじめ、様々なことを学ぶことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの活動においても生徒が主体的に取り組み、活動時だけでなく、地域に対する思いを実行する手立てをしていきたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生が行っている花の苗作り・花の苗配布の地道な活動が子どもたちの自信になり、中辺路地域の住民の誇りや自慢につながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・花ボランティア活動以外にも女性会や老人会などとの積極的な交流を継続していきたい。
地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の生徒が花ボランティア活動で育てた花の苗配りは、地域の住民に好評であり、こうした地域と中学生の交流が地域の環境美化意識を高めることにもつながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館として学校で取り組んでいる学習活動に地域全体がもっと関心を持ったり、積極的に参加してもらったりしてもらえるよう積極的にサポートしていきたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向 ・地域の文化や伝統を知ることによって地域の方々にも認められ、自尊感情が育まれている。 ・「花ボランティア」は毎年、継続的に行うことにより年々協力して下さる方が増えてきた。生徒と同じ作業を行っていただき、生徒と地域の方々との交流を深めることが出来た。 ・生徒たちは花の苗を配ることで直接地域の方々の声を聞くことが出来て、達成感や地域に貢献している自覚を感じている。 ・子育てサークルやグラウンドゴルフは生徒とは他世代の方々との交流する良い機会となり、コミュニケーション力の向上につながっている。 ・今年度のサマーボランティアは、全校生徒がほぼ参加した。地域のために役立とうとする主体的な姿勢が育まれた。 ・どの取組も毎年継続的に行うことでより深められていくと考える。取組が多い中、しっかりと計画的に行っていく必要がある。		



学社融合活動実践報告

学校・園名 近野中学校		公民館名 中辺路公民館近野分館
学社融合における学校・地域の様子 伝統的に学校と地域の連携が密であり、協力的である。 学校と地域が一体となって取り組む行事として、「近野区民体育祭」(9月)、「近野まるかじり体験」(11月)、「近野フェスティバル・文化祭」(11月)、「近野山間マラソン」(3月)などがある。中学校も一翼を担って、生徒・職員ともに主体的に参加している。 総合的な学習の時間に年間を通して行っている米作りは、多くの地域の方々の協力のもと行っている。また、収穫したお米は餅つきの餅米など、地域の各イベントの時にも活用してもらっている。		
活動名 米作りと地域イベント「近野まるかじり体験」への参加		学年・教科・領域等 全学年・総合的な学習の時間
目 標	学 校 ・ 園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域での活動を通して地域を知る。 ・共同作業をすることにより、助け合いや協調性を養うと共に、地域の方々に対しての尊敬の気持ちを育てる。 ・地域の方々への感謝の印として地域のイベントに参加し、達成感を味わうと共に郷土愛を培う。
	地 域 (公 民 館)	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒と地域住民との交流を深めることにより、生徒が地域への理解を深める。 ・学校と地域の連携を密にして生徒の健全育成を図る。
支援者及び支援組織 久乗氏 前氏 久保氏 岡上氏 前田氏 尾中氏 多福氏 三栖氏 古久保氏 まるかじり体験実行委員会 JA女性会 近野振興会 公民館近野分館 等		
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 4月25日(月) 全校で、紹介して頂いた畑で、「近野まるかじり体験」用のよもぎを摘む。 4月27日(水) 九乗さんの自宅で地域の方の指導のもと、1・2年生が箱苗作り・籾まきを体験した。 5月19日(木) 全校で苗の水やりを行う。 5月31日(火) 地域の方の指導のもと、全校でもち米とうち米の田植えを体験した。 8月14日(木) 全校で、田の雑草とりをした。地域の方々の協力のもとイノシシ対策用のネットを張る。 10月 7日(火) 地域の方の指導のもと、全校で稲刈り体験を行った。 11月 3日(火) 「近野まるかじり体験」に全校で参加。高田民宿さんに場所をお借りし地域の方々の指導のもと、餅つきと販売をした。 11月20日(日) 「近野フェスティバル・文化祭」において、総合的な学習の取組や音楽、ダンスの発表と各教科の作品展示を行う。 12月20日(火) 「近野クリーン作戦」と称して、日頃お世話になっている地域に感謝の気持ちで清掃活動を行った。		
		
(もみまき)		(田植え)

	成 果	課 題
学 校 ・ 園	<ul style="list-style-type: none"> ・米作りを箱苗から取り組み、収穫までを行い勤労の尊さを学ばせることができた。 ・収穫祭として餅つきを行い、日本の食文化の学習をさせることができた。 ・地域の方との交流が深まり、感謝の気持ちや先人を敬う気持ちが育った。 ・多くの共同作業に取り組む中で、協調心や思いやりの気持ちが育った。 ・集団としてのまとまりが育ち、学校行事等でもその力が発揮された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間が少なくなるなかで、米作りの時間を確保するのが難しくなっている。 ・天候に左右されることが多く、予定通りに実施できないことがある。 ・生徒数・職員数が少ない中、今のままでの実施は難しくなってくる。 ・2年続けてイノシシの被害を受けている。 ・行事の精選や中身の検討が必要になっている。
* 子 供 に と つ て	<ul style="list-style-type: none"> ・米作りを一通り体験することができた。 ・地域の方々を人生の先輩として敬うようになり、あいさつ等にあらわれてきた。 ・地域のイベントや学校行事に主体的に参加できる生徒が増えてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒同士の中で、先輩から後輩へと取組が伝授できていけるような仕組みにしたい。 ・他の行事との関係で、スケジュール的に忙しかったため、もう少しゆとりを持ってできるようにしたい。
* 子 供 に と つ て	<ul style="list-style-type: none"> ・地域が抱える様々な課題に気づくとともに、地域の活性化のために自分たちも参加していくことで多くのことを学ぶことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の伝統に学び、地域の活動に今後とも継続して関わってほしい。
地 域 (公 民 館)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の皆さんの協力により、校区内の休耕田を借用して、米作り体験を行った。「区民体育祭」、「近野フェスティバル」、「まるかじり体験」などに、地域一体となって取り組んでいる。こうした取組により、地域の方々や生徒たちが交流を深めることができています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒数が少なくなっている中、学校と地域住民が連携した体験学習を行って、地域全体で子どもを育てる学習を進めていくことが重要となっている。
評価及び次年度に向けての取組の方向 ・米作りを、箱苗作り・もみまき・代掻き・田植え・雑草取り・稲刈り・脱穀までの農作業を体験し、日本の米作りの一連の作業を体験する事ができた。餅つき体験をすることで、生産活動の大切さを学び、収穫の喜びを味わうことができた。 ・地域の方々の協力なくして米作り体験はできない。今後とも地域の中で育つ「近野中生」という位置づけとして、地域から多くの事を学び、また地域に感謝の気持ちを伝える活動を目指したい。 ・昔ながらの杵と臼で餅つき体験をし、日本の食文化の継承がはかれた。また、「近野まるかじり体験」での餅の販売や「近野フェスティバル・文化祭」の育友会主催のパパママランチの食材として米を提供できたことは、地域への恩返しとなり良かった。これも取組の成果であるといえる。来年度もできる範囲で、これらの取組を継続する方向で計画していきたい。		
		
(地域の方と草餅づくり)		(外国人も餅つきに参加)

学社融合活動実践報告

学校・園名 大塔中学校		公民館名 大塔公民館
学社融合における学校・地域の様子 大塔地域では、平成26年度に田辺市教育委員会研究指定を受け、大塔地域共育コミュニティ本部を立ち上げ、3年間の研究実践を進め、10月末に発表を行った。以前のATOM学の流れに改善を加えながら実施してきた。1年生はふるさと学習、小学7年生として指導的役割も担いつつ小学生とともに地域の方に学ぶ選択交流学習、2年生は地域での職場体験学習と防災訓練、3年生は小学生や地域の方とともに地域の清掃をするリフレッシュ大作戦を企画・運営していくことを活動の中心として今年度も実施した。他にも、ふるさと語り部活動、保育園との交流や合同避難訓練、地域での職場体験学習を実施。さらに今年度は地域の祭りにも有志生徒が計画段階から参加した。		
活動名 地域共育コミュニティ事業		学年・教科・領域等 全校生徒・総合
目 標	学校・園	・地域学習を通して、ふるさとに誇りを持ち、ふるさとを愛する心を育む。 ・保育園や小学校、地域の方々との交流、消防署と連携した防災訓練を通して、地域の方の願いや自分たちへの期待を知り、地域のために貢献できる自分について考えさせる。 ・大塔地区の小学1年生から中学3年生までの9年間を見直し、地域の子供たちのリーダーとしての役割を担える生徒を育成する。
	地域（公民館）	・学校との連携を密にし、地域ぐるみで子供たちの健全育成活動に関わる。 ・地域（住民）が持つ知識・経験を子供たちに伝えるとともに、相互の交流を図る。 ・地域（住民）と子供たちが活動を共にすることで、住民としての一体感や郷土愛を育てる。
支援者及び支援組織 大塔公民館 大塔地域共育コミュニティ本部会議 大塔自治連絡協議会 地域ボランティアの方々 田辺消防署大塔分署 大塔夏まつり実行委員会 大塔行政局		
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 【1年生：選択交流学習】 第1回選択交流学習(6/8) 第2回選択交流学習(10/30) 地域の方を講師に、グラウンドゴルフ、生け花、郷土の食、音楽、地域探訪、おもしろ科学、茶道、昔のあそびの8つの講座に分かれて、小学5・6年生、中学1年生(小学7年生)が交流しながら学習をした。中学生がリーダーシップを発揮できる場面を設定することで、小学生にも来年への自覚が芽生えることを目的としている。第2回の前には中学生と講師の方で事前学習を行い、2回目は小学生を気遣いつつ、リーダー性を発揮できた。 【2年生：職場体験学習】 事前学習(5/13、16、23) 冊子作成(6/2) 電話依頼(7/13、14) 事前訪問(7/25、26) 職場体験(8/2～4) 卒業後の進路や将来の職業について展望し、地域の公共施設や事業所等から各自が行きたい職場を選択し、実施した。地域の人の働く姿を間近で見て、自分も体験することで、仕事の大変さややりがいを実感し、将来について考えることができた。 【防災学習】(9/29、10/30、12/14) 田辺市消防署大塔分署の協力を得て、災害時の救助訓練に例年全校で取り組んでいる。今年は2年生が「命の尊さ」や「災害時に自他の命を守るために何ができるか」を学習し、災害時の対処法を身につけることを目的として、より実践的な防災学習に取り組んだ。また、3年生は、これまでの防災学習のまとめとして、地域の自主防災組織とともに、災害発生時を想定したクロスロード学習を行った。現在も、そして将来にわたり、現中学生が地域を守るための力になっていくことを目標に、今後も取組を続けていく予定である。 【3年生：リフレッシュ大作戦】(11/9) 小中学生と地域の方がともに行う清掃活動である。自然豊かなふるさと大塔のよさを今後も守り続けていくため、大塔地区の最高学年である小学9年生として、中学3年生が企画、運営している。昨年度より区長会への協力依頼等を行い、地域との連携をこれまで以上に強めて実施した。今年度も居住地を中心に縦割りりで各地区に振り分け、地域の方と共にゴミを拾った。小学校から続けている活動ではあるが、初めてリーダーとして計画し、当日は運営や安全面でも神経を使い、無事に終えることが出来た時にはよりいっそう意義を実感することができていた。自分たちはこの活動は今年で終わりが、今後もきれいな大塔を守り続けたという気持ちをこれまで以上に感じ、活動を続けてもらいたいという願いを抱いたようである。1・2年生も、次は自分たちが計画するのだという自覚を持って3年生をサポートしている。 1・2年生も、年齢段階に応じて活動の意義や将来への思いを感じることができている。 【学力向上部会としてのアンケートの実施】 昨年度、家庭学習についての実態調査を行い、テレビ視聴時間やゲーム、スマートフォン使用の時間が長い、家庭学習の時間が短い等の実態が明らかになり、家庭学習の手引きを作成、配布した。昨年3月と今年7月に活用についてのアンケートを実施した。自主勉強の時間の増加、テレビ等の時間の減少等、改善されている項目が増え、約半数の家庭で家庭学習への意識が高まっていた。残る半数の家庭はあまり活用できておらず、テレビ等の時間増の子供もおり、今後も啓発が必要である。		

	成 果	課 題
学校・園	・共育コミュニティ事業により、地域との連携が深まった。また、9年間を通しての縦のつながりを考えながら各校で連携することが出来た。 ・地域の史跡等を探訪してそのよさを実感し、英語で発表することができた。 ・選択交流学習は、事前打ち合わせを行うことで、生徒もリーダーとしての役割を担えた。 ・リフレッシュ大作戦では、小学校から活動を続け、9年目に最高学年として運営していくことで、今後もこの活動を続け、ふるさとの大塔の自然を守りたいという気持ちがよりいっそう高まり、当日もリーダーとしての責任を持って活動が出来ていた。効率や地域の方との関わり方についても改善できた。 ・大塔夏祭りへのボランティア参加は、地域の行事への協力が出来、運営の苦労もわかった。 ・防災学習では、災害発生時の対応について学び、自分たち出来ることについての意識が高まった。	・リフレッシュ大作戦では、児童生徒の居住区の偏りや、小学校のなくなった三川地区をどうするかという問題があり、居住区にこだわらずに地域をきれいにするという視点も必要である。 ・ゲストティーチャーとしての地域の新しい人材を探すのが難しい。 ・地域の方や団体との打ち合わせや反省などができる時間の確保が必要である。 ・学力向上につながるような取組を実施したり、日常活動に地域の方の力を活用することについて、よりよい方法を考えていきたい。
*子供にとつて	・これらの活動は、ふるさとの文化や伝統を地域の中で体験する貴重な機会となっている。地域への関心や地域をよりよくしようという思いが高まり、ふるさとの良さを守り続けたいという思いを育むことができた。 ・地域の方々の苦労や自分たちへの期待、願いについて知ることができ、地域の担い手としての自覚が芽生えた。 ・地域の子供たちのリーダーとしての自覚を持ち、役割を担うことができた。また、それにより、自己有用感を持つことが出来た生徒も多い。	・学校を離れても、地域の行事に積極的に参加したり、自分たちから何か地域に発信していけるような、積極的に地域に参画していける生徒の育成が課題。また、地域の担い手としての自覚を持った生徒が将来も大塔で暮らしたいと願った時、それが実現できる条件が整備されているか。
*子供にとつて	・ふるさと学習を通して、地域の良さ、人の優しさに気付き、ふるさと大塔を誇りに思う気持ちが高まってきている。 ・地域住民や異年齢の子供たちとの活動を通して、コミュニケーション能力を高めることができ、交流を深めることができた。 ・職場体験学習を通して、多様な職業を知ることができ、仕事の意義や大変さ、また、自分の進路を考える良い機会となった。 ・防災学習や地域清掃活動(リフレッシュ大作戦)では、地域のために自分たちができることを学ぶことができた。また、地域の夏祭りイベントの実行委員会への参画も良い経験となった。	・学校では、毎月、地域の話題や行事を掲載した公民館だよりを各教室に掲示していると聞いている。子供たちには、日頃から自分の住んでいる地域に関心を持ち、機会があれば、地域活動にも目を向け、積極的に関わっていただきたい。
地域（公民館）	・共育コミュニティ事業の中には、地域行事として定着してきているものもあり、子供たちと住民の良き交流の場、地域の活性化にもつながっている。 ・子育てを終えた方や普段、学校と接点がない方も、活動を通して、学校や子供たちの様子を知ることができている。 ・知識や経験を生かして子供たちの育成に関わることができ、喜びを感じている方もいる。	・よりスムーズに、効果的に活動を進めるため、公民館が間に立ち、学校と地域が連携協力する組織や仕組みをさらに強くしていかなければならない。 ・防災学習やリフレッシュ大作戦で育まれた子供たちの自信や「地域の一員である」という意識を生かす場を考えていきたい。 ・今後も共育コミュニティ事業の取組を、地域へ継続的に広報しながら、一人でも多くの理解者と協力者を増やしていきたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向 評価 それぞれの活動において、これまでの取組のよさを引き継ぎつつ、見直しも行き、改善に努めた。 ・選択交流学習では、地域の方を指導者として、中学1年生が小学7年生として小学生のリーダー的な役割を果たすことができ、自己評価、地域の方からの評価ともに高まった。 ・ふるさと学習では、現地学習を行い、地域の歴史や文化を知ること、ふるさとの良さを再発見し、誇りを持つことができた。英語の語り部の発表もできた。 ・職場体験学習では、新たな職場も開拓し、出来るだけ興味関心に近い職場に体験に行くことで、より興味を持って体験が出来た。地域の方が働く姿を見ながら地域の職場で体験することで、将来への展望を持つことができた。 ・リフレッシュ大作戦は、1・2年生でふるさと学習に取り組んできた土台のもとに、これからもふるさとの良さを守り続けたいという思いを持って実施することができた。又、地域の最上級生である小学9年生として、リーダーとしての立場で取り組むことができ、地域の方々にも、中学生の様子を知ってもらった機会となった。 ・大塔夏祭りに企画段階から参加。企画・運営していく苦労を知るとともに、それに関わることのやりがいを実感することが出来た。 ・防災学習では、災害発生時の対応について学び、中学生として出来ることについても考えることが出来た。		
来年度に向けて ・地域の方と交流する中から、様々な面で協力をしていただけるようになったことや、申し出ていただけることも多く、今年度は不登校生徒への支援、部活動指導の協力等をしていただいている。今後はさらに、学力向上につながる取組や、日常活動への地域の方の協力等について探っていききたい。 ・日常の学校生活、教科学習への地域人材の活用や、学力向上に結びつく新たな取組の研究をしていきたい。		

学社融合活動実践報告

学校・園名 本宮中学校		公民館名 本宮公民館(本宮分館・四村川分館・請川分館・三里分館)
学社融合における学校・地域の様子 本校では「学校教育の様々な場面で、地域と連携することにより、地域と共に歩む開かれた学校づくり」を目的とし様々な活動に取り組んでいる。また本地域は全町一体となった学びで結ぶ地域社会づくりを目指した「共育コミュニティ 音無」として活動している。「共育コミュニティ 音無」では、「子どもたちが地域の多くの方々と交流し、多様な体験や経験を積み重ねることで、規範意識やコミュニケーション能力、ひいては確かな学力の向上を図ると共に、地域の活性化にも貢献できるよう、学校・家庭・地域が一体となった教育活動の充実」を目指している。具体的には学校での活動を「学習支援」「ふるさとづくり」「保育園・小学校・中学校連携」の3つの柱にわけ、学校支援ボランティア等の協力を得ながら、地域と一体となった活動を進めている。地域の方や保護者は学校教育に協力的であり、学校や育友会の行事等に多くの方が参加、協力して下さっている。		
活動名 合気道		学年・教科・領域等 全学年・体育科・武道
目 標	学 校 ・ 園	・地域と連携、協力し、開かれた学校づくりを進める。 ・郷土を愛し、地域に貢献できる生徒を育成する。
	地 域 ・ 公 民 館	・地域人材をいかした活動を推進し、学校や子どもたちの様子を知り、交流を深めると共に、地域を愛する子どもを育む。
支援者及び支援組織 学校支援ボランティア 保護者 地域の方		
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等)		
○日時 平成28年 9月21日(水) 合気道 講義 第5限(13:25~14:15)1年 9月27日(火)、30日(金) 合気道 実技 第1~2限(8:35~10:25)1・2年生・第3~4限(10:35~12:25)3年生 10月6日(木) 合気道 実技 第1~2限(8:35~10:25)3年生・第3~4限(10:35~12:25)1・2年生		
○目的 地域の方に支援して頂くことにより、実習内容の充実を図り、地域の方と生徒との交流を深める。		
○活動内容 ・ボランティアと教科担当による事前の打ち合わせ ・授業(講義 1年生1時間)(実技 全学年2時間を3回) 地元の合気道熊野塾の方から、合気道について講義や実技等で指導して頂いた。		
		
講義を受ける	座礼を学ぶ	基本的な動きを教わる

	成 果	課 題
学 校 ・ 園	・昨年より体育科の武道は合気道を行っている。2年目ということで1年生のみ講義を実施した。2、3年生は実技を中心に指導して頂いた。2、3年生は実技を中心に指導して頂いた。2、3年生は実技を中心に指導して頂いた。2、3年生は実技を中心に指導して頂いた。 また、講義や授業の実施に向けての事前の連絡や打合せ等を通して、地域の方とのコミュニケーションを図ることができ、信頼関係を深めることができた。	・今年度は昨年よりも充実した内容であったので、来年度はさらに内容を検討し、3年間を見通した学習内容を検討していく。 ・今後も、必要に応じて色々な技能や知識をもった地域の方に協力して頂けるように、共育コミュニティを中心に地域との連携を深める。
* 子 供 に と っ て	・「合気道はいろんな歴史があってすごい」「今できている生活はとても幸せで感謝しなければならぬことが分かった」など、講義や実技を通して技術面だけでなく精神面でも学ぶことができた。また2・3年生は2回目なので、昨年よりも上達し達成感や満足感を得ることができた。	・授業やその他の活動の中で、地域の方との関わりを通して、子どもたちが主体的に考え、行動できる態度を育てていく。
* 子 供 に と っ て	・地域の方々から見守られながら生きる喜びの心が育っている。また、子どもたち自身が地域の方々から元気を与えているということを実感している。 ・武道を通じて、相手の痛みや苦しみを心と体で感じ取ることができている。	・多くの方々との出会いの中で、社会性を高めながら社会参画の意識を育てていきたい。また、社会のきびしさということも理解できる生徒を育成したい。
地 域 ・ 公 民 館	・学校に関わりを持ち、教育への関心を高めることができた。 ・学校ボランティアの皆さんから、「活動が楽しい」という声が聞かれることは大変良いことである。様々な活動を通じて地域との距離が近くなっている。	・高齢化が進行し地域の行事等の活動に支障が出ている中、子どもたちがそれぞれの地域活動に積極的に参加できるよう配慮していきたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向		
評価 今年度も、地域の「共育コミュニティ 音無」では、月1回の定例会を行い、地域や公民館、町内の小学校や保育園と連携して、いろいろな活動を進めることができた。 昨年度から取り組んでいる体育科の合気道については、昨年の反省を生かして今年度の活動を充実させることができた。 昨年度の取組で協力してくれる方を増やすことのできたミシンボランティアについては、昨年のつながりを生かし、今年度も家庭科の授業に関わって頂いた。昨年来て頂いた地域の方が今年度も引き続き参加して下さりミシンだけでなく手縫いについての指導にも関わって頂けるなど、活動を広げることができた。		
次年度に向けての取組の方向 今後も、共育コミュニティを通じて、また今までのつながりを生かして、色々な方に参加、協力して頂ける体制を継続していきたい。 現在行っている活動を継続しながら、地域とのつながりを深め、地域の方に学校教育に関わってもらえるよう積極的な働きかけをしていく。		

学社融合活動実践報告

学校・園名 新庄幼稚園		公民館名 新庄公民館
学社融合における学校・地域の様子 本園では、子どもが「ふるさと新庄」の良さを知り、住んでいる地域を愛することを願い、地域の方との交流や、行事や文化、自然にふれる機会をいかした取組を進めている。そのような取組を意図的計画的に行うことで、お互いに顔見知りとなり、地域に出かけた時も、地域の方から声をかけていただくことが増えている。また親子で「ぎおんさんの夜見世」や「新庄夏まつり大会」、大湊神社の祭礼の参加等、保護者も子どもを通して、地域の行事や文化を楽しむ姿も増えている。地域の行事を知らせてくださる方、園庭の草刈り等、園に目を向け、手を貸してくださる方も増え、新庄地域の方の温かく優しい見守りや心遣いを感じる。 地域の教育力をいかしながら、より多くの地域の方に園のことを知って頂き、共に楽しい時間を過ごすことを願い、園を地域に開き、園の様子を発信しながら取組を進めているところである。		
活動名 おまつりごっこ		学年・教科・領域等
目 標	学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・「おまつりごっこ」に向けて友達と話し合いながら、遊びを作り上げる楽しさを味わう。 ・いろんな年齢の地域の方と共に過ごす楽しさや喜びを感じる。 ・自分たちが作ってきた遊びや、手作り楽器を使った合奏を身近な人に披露する喜びを感じる。 ・遊びの中で自分の力を発揮し、友達や地域の人とのかかわりを楽しみ、達成感や充実感を味わう。
	地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・児童、保護者が地域の方々と触れ合う機会を提供する。 ・地域の方々が子どもたちのことを知り、幼稚園での教育に関心をもっていただき、幼稚園と地域の活性化を図る。
支援者及び支援組織 新庄小学校1年生と先生方 グランドゴルフのチームの方 PTA保護者 未就園児と保護者 地域の方々		
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) ◎「おまつりごっこ」にむけて ☆地域・園との取組 ・8月末から職員会議をもち、「おまつりごっこ」に向けてのねらいや遊び、活動内容等を話し合い、共通理解を図る。また学社融合担当者会議でも「おまつりごっこ」について園の取組やねらい等を説明し、活動への理解を図る。小学校1年生の担任との打合わせでは、交流内容を詰めていく。地域への広報としては、公民館報への掲載、園近くの家への子どもたちによるちらし配布を試みる。 ☆園内での取組 ○10月4日～◇「作って遊ぼう」のコーナーで、身近な材料を使い、いろんな制作をして楽しむ。 ◇「音みつけ」・・・年少児はペットボトルの中に好きな素材(園で採れる種や石など)を試し入れて試し、年長児は空き箱等の様々な材料を使っている音をみつけ、音あそびを楽しむ。 ◇「手作り楽器を作ろう」・・・自分の好きな音を見つけ、年少児はペットボトルマラカスを、年長児は身近な材料を使って太鼓や笛、カスタネット等を作り、曲に合わせて手作り楽器をならして遊ぶ。 ◇「手作り楽器で合奏をしよう」・・・友達と一緒にリズムに合わせてならし合奏を楽しむ。 ○10月17日～◇「おまつりごっこをしよう」 ◇「おみこし」を作ろう ・運動会でパレオンなどの競技に取り組んだ異年齢の2チームに分かれ、話し合い、いろんな材料を使って「おみこし」を作っていく。「きらきらみこし」「どうぶつみこし」 ○10月21日～ ◇「おまつりにはお店も出るよ」 ・「作って遊ぼう」のコーナーで作った物を使って、お店屋さんを開くことになる。そして誰がどのお店をするか、役割分担をする。 ○10月24日～ ◇「お店屋さんを作ろう」・・・自分の担当のお店で必要な物を話し合っ作っていく。 ◇「青竹をパチでたたいてお囃子をしよう」 ・地域の方が作ってくださった青竹太鼓で、「わっしょい」「わっしょい」のお囃子に合わせたリズム遊び(リーダーのまねっこ遊び)を楽しむ。 ○10月27日 ◇「新庄幼稚園でおまつりごっこがあります。どうぞ来てください」 ・地域に出かけ、園児の似顔絵を利用した「おまつりごっこのちらし」を近所の家やグランドゴルフのチームの方に子どもたちが直接手渡し、声をかけお誘いする。 ○11月1日～◇「おまつりごっこ、楽しみだね」みんなで当日に期待をもって準備する。 ◎11月4日『おまつりごっこ』開催 ・約100名の方(グランドゴルフのチームの方、新庄小学校1年生と先生方、園児の保護者、未就園児)が来園して下さり園児は手作り楽器の合奏を披露。1年生との歌の交換の後、おみこしを担ぎ、お囃子を楽しむ。園児だけでなく小学生もおみこしやお囃子に入り、お店屋さんにもたくさんのお客様が来て下さり言葉のやりとりやかかわりがあって賑わい、とても楽しい時間を過ごすことができた。		

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に出向き、園児の似顔絵を描いた「おまつりごっこ」のちらしを園児が手渡し、声をかけることで地域の方も園に興味や関心をもってくれたと感じる。また園児とのふれ合いも温かいもので、お互いに楽しめた。 ・1年生の歌う姿や会を進める姿を見て、小学生に憧れをもつことができた。また保護者にとっても、園児と1年生の発達や育ちを感じることができたと思う。 ・大勢の地域の方に園に来て一緒に遊びを楽しんで頂くことで、園や園児の様子を知って頂けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いかに園を地域に開き、どういにかかわりをしながら、地域の方と園(園児)をつないでいけるかをしっかりと考えていく必要がある。 ・おまつりごっこに来てくださる人数が読みにくく、準備する数(品物)を予想しにくかった。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな遊びの時間を利用して「作って遊ぼう」で制作した物をお店さんで使うなど、毎日の遊びの中からできた物を「おまつりごっこ」に利用することで、遊びがにつながる喜びが味わえた。 ・全園児が19名という少ない中、地域の方を招くことで、とても活気のある「おまつりごっこ」となり、やり甲斐や達成感、充実感が大きなものとなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会などのいろいろな行事もあり、時間を確保することが難しい時もあった。1日の保育の流れを考え直し、園生活の中で、子どもの育ちや地域への思いへとつながるように、今後も遊びや活動のねらいや内容、継続の方法を研鑽していきたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが考えたり作ったりしたものを地域の人に披露することができ、活動の達成感を味わえた。地域の方々との交流も深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思いやりのある心豊かな子どもに育つよう、地域、公民館、幼稚園で協力し、取り組んでいく。 ・園児が少なくなっているのので、園に活気が出るような手伝いができればと考える。
地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・核家族化が進み、高齢世帯が増えている中、このような活動は地域に活気を与え、地域住民も子どもたちと交流ができる良い機会になっている。 ・地域の方々に来ていただくことにより、幼稚園の取組や園児の様子を知っていただけた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を通じて、地域の方々に幼稚園に対する関心をもっていただきたい。 ・地域が協力や参加のできる内容も考え、幼稚園も地域も活性化していきたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向 評価 ・「音みつけ、音あそび」から「手作り楽器制作」、そして「手作り楽器を使った合奏」へと、「おまつりごっこ」に向けて遊びを展開をしたこと、普段の制作遊び「作って遊ぼう」から制作した物をお店屋さんで使ったこと、また「おみこし」や「お店屋さん」では、何が必要で、どのように作っていくかをグループの年長児を中心に話し合い、お互いのイメージを共有し、身近な材料を使って協力しながら作っていったこと等が、子ども達にとって「おまつりごっこ」にむけての意欲や充実感を味わうことにつながった。また「おまつりごっこのちらし」を地域の方に手渡し、誘いかける活動を取り入れたことで、地域の方を招く楽しさや、かかわる嬉しさを感じることができた。 ・地域の方々約100名が園に来てくれたことで、園内だけで行うよりも、とても活気のある「おまつりごっこ」になった。子どもたちは手作り楽器を使った合奏を披露して、大きな拍手をもらい、遊びの中で自分の力を発揮することができ、大きな満足感、達成感を味わう活動となった。 ・披露するだけでなく、1年生も共に「おみこし」や「お囃子」を楽しめたこと、様々な年齢の地域の方と言葉のやりとりやかかわりができたことで、園児と地域の方が共に楽しみ、盛り上がった「おまつりごっこ」となった。 ・大勢の地域の方が園の遊びに参加して下さったことで、園や園児の様子を知り、園への関心をもって頂けた。 ・おまつりごっこの後、グランドゴルフの方や地域の方とのふれ合いの中で「あの時の飾り、お家に飾ってるで」「あのおみこしきれいだっとう」「楽しかったわ、また呼んでよ」等、次につながる声かけや会話を多く頂くことができた。 次年度に向けての取組の方向 ・今年度初めて「おまつりごっこ」を実施するにあたり、今回のねらいを設定した。次年度は現在行っている地域の方との交流を大切にしながら、「園を地域にどう開き、どういにかかわりをしながら、地域の方と園(園児)をつないでいけるか」「園生活の中で、子どもの育ちや地域への思いへとつながるように、どのように時間を有効に使い、子どもが主体的に遊びや活動を進め充実させていくか」を研鑽していきたい。また今年の「おまつりごっこ」の経験もいかしながら更に発展させ、地域の活性化につながる「地域の中の幼稚園」となるように努めていきたい。		

学社融合活動実践報告

学校・園名 田辺市立三栖幼稚園		公民館名 三栖公民館
学社融合における学校・地域の様子 近年は、新興住宅地やマンションなども増え、地域の様子も年々変わりつつある中ではあるが、梅、みかんなどの栽培も盛んであり、また、歴史的な場所、建物も多く健在し、地域の文化遺産が豊富なところでもある。 本園では、「人とかがわり育ちあう」を研究テーマに、園内における友だちとのつながりを大切に保育を進めてきている。そして、公民館とのつながりを中心としながら地域の様々な年齢層の方との交流活動や自然・文化と触れる経験を大事にしてきたことで、人が好き、地域が好き子どもたちに育ってきているところである。 隣接している衣笠中学校とは、日頃の何気ないかかわりを大事にしながら、保育と授業のコラボレーションを計画・実践したり、合同避難訓練、不審者侵入対策訓練等を進めながら、連携を深め、子どもたちの育ちへとつないでいる。		
活動名 子どもたちの安心・安全のために～不審者侵入対策訓練・防犯教室～		学年・教科・領域等 全園児
目 標	学校・園	・訓練を通して、自分の命を守る大切さを知り、落ち着いて敏速に避難をする。(園児) ・職員や園外の人と連携・協力して園児の安全確保を図る。(教職員)
	地域(公民館)	・幼稚園との連携を深め、各種取組の目的や課題を知り、自分たちにできることを考える。 ・園児が多くの人に見守られていることを感じ、安心感を持つとともに、地域や地域の人のことを好きになる。
支援者及び支援組織 衣笠中学校 公民館 青少年センターの先生方 警察官		
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) ～防災教育計画、訓練計画に沿って、毎月避難訓練を行う。(火災、地震、不審者侵入など)～ <div style="text-align: center;"> 衣笠中学校との合同避難訓練 </div> ○事前に日程、内容の打ち合わせ ○9月27日 合同避難訓練 (地震発生後、津波を想定) ～訓練の流れ～ ・13:30 地震発生 職員の指示のもと、机の下に身を隠すなど頭を守る。 ・揺れがおさまり、防災頭巾をかぶって園庭に避難。 ・3年生の生徒が園児を迎えに来てくれ、手をつないで校舎3階図書室に素早く避難。 <div style="text-align: center;"> 不審者侵入対策訓練 </div> ○10月 7日 学社融合会議において訓練について衣笠中と公民館主事に協力をお願い ○12月 6日 青少年センターの先生、公民館主事との打ち合わせ (侵入経路、避難誘導の仕方、連絡体制など) ○12月 8日 衣笠中との打ち合わせ ○12月14日 青少年センター、衣笠中、公民館と最終打ち合わせ ○12月15日 不審者侵入対策訓練 (不審者が衣中側のフェンスから侵入と想定) <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> 【園児の安全確保】 園長、衣笠中にSOSの電話 衣笠中が警察に通報 職員が衣笠中に園児誘導 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> 【不審者対応】 職員が犯人対応、用務員さんも応援 </div> </div> ☆園児は玄関から出て、衣中の裏口より校舎に避難。経路で衣中2人の先生が安全確認。 ☆中学校の男性教諭4人が防犯棒を持って幼稚園に応援に駆けつけ、不審者に対応。 その後、警察官が駆けつけて犯人確保。 ・訓練後はセンターの先生、警察官の方に防犯教室をしていただき、分かりやすくスライドやロールプレイ(主事さんも入って)を通して『いかのおすし』について学ぶ。その後、訓練について反省会を持つ。 ○12月21日 衣笠中と反省会		



	成 果	課 題
学校・園	・毎年、不審者の侵入経路や職員の役割など、想定を変えて訓練を行うことで、新たな課題点や改善点が見えている。また、センターの先生方や警察官から専門的な指導助言を受け、知識を得ることができている。 ・衣笠中学校の先生方が訓練に応援、協力をしていただけていることは大変心強く感じている。公民館主事さんも訓練・防犯教室と一緒に参加していただき、子どもたちの安全のために協力いただける関係となっている。	・女性3人という職員体制の中で、万が一のことが起きた時、子どもの安全確保を第一にするために、日ごろからいろいろな場面を想定して訓練を大事に進めていきたい。 ・今回は今年衣笠中に赴任された先生に初めて訓練に参加していただき、新しい視点での問題提起をしていただいたり、対策を一緒に考えたりして進めてきた。いつ、どんな時に起こっても対応できるような体制や方法を、今後の課題として共通理解ができ、中学校と一緒に検討を進めていきたい。
*子供にとって	・自分の命を守る訓練を定期的にいろいろな場面を想定して行うことで、子どもたちは合図や指示を聞いて行動する態度が身につけてきている。 ・青少年センターの先生、警察官、衣笠中学校、主事さんなど沢山の方に協力をいただいて行う訓練であることを自覚し、真剣に訓練に参加していた。 ・衣笠中学校の先生方が来てくれ、助けてくれるという安心感を持つことができた。	・日頃からの訓練を職員も真剣に積み重ねてきたことで、子どもたちも意識を高め、参加することができている。指示をしっかりと聞いてその通り行動することはもちろんであるが、自分で考えて判断し、行動に移せる力を育てていけるよう、訓練を実施しながら、子どもへの指導に努めていきたい。
*子供にとって	・先生方の日頃からの指導により、真剣に訓練に取り組む態度が身につけており、ご協力いただいた警察官も感心するほどであった。	・自分で考えて行動する態度を身につけ、成長するにつれ、生活のあらゆる場面で実践できるようにする。
地域(公民館)	・事前の打合せなどを通じ、目的意識や課題を共有し、それぞれの立場でなにができるか、どのような対応をすればよいかを考えることができ、表面的な部分だけでなく、内面や側面にも成果を感じる取組となった。	・地域として防災や不審者対策などの危機管理について考えていく。また、危機管理に限らず、各種取組において、目的意識や課題を共有し、目的達成や課題解消のためにそれぞれの立場でなにができるかを考えられるようになる。
評価及び次年度に向けての取組の方向 ・毎年行っている不審者侵入対策訓練は、いろいろな場面を想定し、訓練の仕方や方法、職員の役割を変え、不審者への対応や園児の安全確保について勉強に努めている。今年は最短・最善と考えられる衣笠中への避難経路側からの不審者侵入を想定し、別ルートでの避難訓練を行った。想定を変えて訓練をすることで、職員の動きや避難誘導の仕方などの課題点が見え、次にいかすことができている。 ・隣接している衣笠中学校には毎年協力をいただき、訓練を積み上げている。今回も、学社融合担当の先生が中心となって、校長先生をはじめ、大勢の先生方に応援・協力にご尽力いただいた。事前の打合せでは問題点はどんなところなのか、どういう対策がいいのかなどを探り、反省会では「いつ、どんな時に起こっても対応できる体制づくりや方法」が課題であるということを通ずることができた。今後も中学校・公民館と一緒に検討を図りながら訓練を進めていきたい。 また、訓練自体は大切であるが、日頃のつながりを大事に進め、お互い気にかけてあう関係性をつくっていくことが、何より安心で安全な生活につながっていくと思われる。交流で生まれる友好関係や信頼関係は、隣接しているというだけではなく、見守ってくれているという安心感やいつも気にかけてくれている心強さとなっている。今行っている交流活動を大事にし、子ども同士がより親しくなり、そして職員同士の温かな関係を深めていければと思う。 ・衣笠中学校を軸として、公民館との連携が密になってきていることはとてもありがたい。子どもたちは地域の方々とのかかわりを楽しみ、より人が好き、地域が好き子どもたちへと育っている。今後も衣笠中学校、公民館を中心として、地域とつながり、絆を深めていきたい。		

学社融合活動実践報告

学校・園名 上秋津幼稚園		公民館名 上秋津公民館
学社融合における学校・地域の様子 旧田辺市の北東部、市街より数キロ離れ、標高606メートルの高尾山のふもとに位置し、静かな環境の中に所在している。上秋津地域は年間を通して色々な柑橘類の生産が主であったが、近年は専業農家の家庭は減少していて、今年度当園における専業農家は4世帯である。また、若い年代の世帯数も増えてきて、本園では核家族17世帯、同居家族6世帯である。昔から教育熱心な地域であるので、幼稚園教育にも理解があり、物心両面に協力的で、温かい支援を頂いている。地域には町内会をはじめ、あらゆる組織、団体を網羅する「秋津野塾」という地域作り団体が結成されていて、様々な活動を行っている。		
活動名 安心ネットワークからの発展「ケアセンターとの交流」		学年・教科・領域等 年長児～全園児
目 標	学校・園 ・ケアセンター「お達者倶楽部(上秋津の里)」を訪問し、一人暮らしの高齢者に親しみを持つ。 ・高齢者と一緒に活動し、ふれあいを楽しみながら、思いやりの気持ちを持つ。	地域・公民館 ・幼稚園児との交流により、高齢者の生きがいに貢献する。 ・地域住民に幼稚園の活動に興味を持ってもらう。
	支援者及び支援組織 上秋津地域民生児童委員、社会福祉協議会、ケアセンターお達者倶楽部(上秋津の里)の職員の方々	
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 地域の民生児童委員であり、絵本タイム支援コーディネーターでもある原進一氏より、上秋津地区一人暮らしの高齢者宅訪問活動(安心ネットワーク活動)への参加の依頼から取組が始まった。 H26年度:作品作りとして参加 → H27年度:実際の訪問に園児も参加して作品を手渡し声をかける。 ↓ H28年度:園児の訪問を喜んだ高齢者から強い交流の要望! 「私たちの利用しているお達者倶楽部へ、来てほしい!」 ↓ 「お願いする交流から 望み合える交流へ」 原氏がコーディネーターとして 連絡調整係を行ってくれる		
6月7日 職員会議	高齢者の方と温かいつながりを感じさせたい。幼稚園でも取り入れている「ペアの関係」を活用する。	
6月10日 事前訪問 6月13日 訪問準備 6月14日 第1回交流	施設の下見と、活動計画の打合わせ。 園児にも、活動内容を確認し合い、思いやりの気持ちをもって取り組めるようにする。 ・ペアになってスキンシップができるじゃんけん遊びや歌遊びを行う。 ・園児が先生役と一緒に「金魚」の折り紙を折り、その折り紙を使った、「釣り大会」を行う。 「かわいいかわいい」大歓迎ムードで進行、みんな笑顔いっぱい、笑い声が絶えなかった。	
6月15日 年少児に報告 7月14日 作品プレゼント 9月14日 打合わせ会議 10月21日 第2回交流	体験したことを写真や言葉で年少児に報告し、再現して遊ぶ。 一緒に遊んだ金魚を使った額飾りを、公民館主事と一緒に届ける。 原氏を交えての会議。好評すぎて「もう一度」の要望が大きい。 年少児も参加。「高齢者、年長・年少児のペア活動」とする。 ・第1回目と同じ歌遊びを楽しむ。 ・新聞紙を丸めてできる輪を作って「輪投げ大会」を行う。 「ずっと居てほしい」の声に「また来てあげるよ」の園児の返事。	
10月22日 作品プレゼント	高齢者から、ハロウィンの飾りをプレゼントしていただく。	

	成 果	課 題
学校・園	・幼稚園児を歓迎して交流してくれる地域施設との新たなつながりがうまれた。 ・園児たちとのふれあいを心から喜んでくださる高齢者の方々の姿を目の当たりにし、教師も園児もやりがいを感じ「また是非行きたい」と思える交流となった。 ・園外保育に出かけると、声をかけてくれるなど、園児を見守る輪が広がった。	・原氏が窓口となり、連絡調整を行っていただけたので、施設とのやり取りの負担感が少なかったが、ケアセンターの都合や高齢者のことなども配慮できるように、早めの計画が望まれる。 ・わざわざ新しい活動を準備するのではなく、日頃の行事や活動を利用したり生かしたりできる取組にしていきたい。
*子供にとって	・ペアの関係で親しみを感じた高齢者に対して「ゆっくり」「わかるように」など相手に合わせた接し方を考えて行動することができた。 ・何かしてあげるからではなく、存在そのものを受け入れてくれる方々とのかわりが園児たちの自尊心につながっている。	・「どうしておばあちゃんたち、泣いてたと思う?」と尋ねると、「私らが可愛いからやで」と答えた子どもたち。こうして芽生えている自己肯定観を保護者にも伝えることで、地域、幼稚園、家庭と大切につないで育んでいきたい。
*子供にとって	・高齢者との交流により、園児自身が誰かの役に立っていると認識することができ、良い経験になっている。 ・地域の方から感謝される喜びを感じる事ができた。	・高齢者の方々とふれあう事により、思いやりのある子どもに成長してくれるように、地域として積極的に活動に取り組んでいきたい。
地域(公民館)	・お互いにメリットのある関係ができ、コーディネーターの原進一さんのおかげで、活動に対する負担感も少なく、継続してできる活動内容になっている。 ・高齢者の生きがいに地域の子どもたちが貢献している。	・幼稚園と地域が交流を通して、お互いに支えあえるような関係づくりを今後も続けていきたい。 ・このような交流が行われている事を広く知ってもらうため、公民館報等に掲載していく。
評価及び次年度に向けての取組の方向 ・原進一氏というコーディネーターの存在のおかげで、この「上秋津地区安心ネットワーク」活動に参加し、発展することが出来た。原氏(民生児童委員長)にとっても民生児童委員会で、先進的な実践例として紹介して田辺市全体に広めているので、こちらこそありがたいと言って喜んで下さっている。幼稚園、高齢者、民生児童委員、どちらにもメリットがある取組になったことを嬉しく感じている。 ・今回の訪問では、園児たちは喜んでもらいたい張り切りながらも、自分の存在そのものを喜んでくれる高齢者のまなざしの中で、素直に気持ちを出して、のびのびと遊べた。高齢者は、お世話したいという園児の気持ちを汲んで受け止めながら温かく活動を楽しんで下さった。施設では、いつもは、静まった雰囲気時間が過ぎていくような様子。子どもたちが訪問して明るい声が響き渡る、この時間が高齢者にも良いのだと職員の方が話して下さいました。 ・よく、幼稚園児のパワーに元気をもらおうと聞くと、今回の活動を通して、園児は体全体まるごとで相手の懐に自分をゆだねられるという能力があることに気がついた。高齢者にも、園児に思いやりの気持ちで関わることで、自己肯定観が生まれるとの話も聞いた。お別れの頃には、子どもとの距離も縮まり「離れたくない」「また会いたい」と握手や抱擁をして涙をこぼす高齢者と、もらい泣きする施設の職員の方の姿が感動的であったが、このような自分を大切に感じてくれる人との出会いは、幼児にとっても自尊心が育つきっかけがえのない時間を体験させていただいていると感じた。 ・次年度に向けて、この交流を特別のイベントや行事と捉えず、地域に生きる高齢者の方々との自然な互惠性のある関わりとして、また、園児たちの生活の質を高める意義ある活動として地道につないでいきたいと考える。		

学社融合活動実践報告

学校・園名 中芳養幼稚園		公民館名 中芳養公民館
学社融合における学校・地域の様子 中芳養地域は、平成26年度から3年間の地域共育コミュニティ事業の指定を受け、子どもの健全育成と地域交流の活性化を図るため、共育コミュニティ本部事業の3つの柱(子どもの育成・文化の伝承・交流の推進)を中心に取組を深めてきた。夏の恒例行事『中芳養夏まつり』では、新しい取組として「園歌」や「校歌」の斉唱、そして園児・児童全員による「郷歌」の合唱を行い祭りに花を添えた。本年度は研究指定の3年目にあたり、秋には研究発表会を開催し、本園では公開保育として地域の方による読み聞かせや各クラスでの制作活動を見せられ、ミニフラワーアレンジメントの様子を掲示物で紹介するなどした。これらの活動についても、地域の方に協力を依頼すると快く引き受けてくださっている。様々な活動を通して、幼稚園を知ってもらうことができ、園に足を運んでくれたり声をかけてくれたりする方が増えてきている。		
活動名 フラワーアレンジメント教室		学年・教科・領域等 全園児
目 標	学校・園	・身近な植物に触れ、美しさなどに対する豊かな感性を育む。 ・地域の方と一緒に活動する機会を通して、地域やそこに住む人々を身近に感じ、愛着を持つ。 ・様々な年代の人とかかわる楽しさや、つながる喜びを感じる。 ・幼稚園の取組を地域に発信し、より多くの人に幼稚園教育への理解を深めてもらう。
	地域（公民館）	・地域の人々が、子供たちとの活動を通して、幼稚園教育への理解を深める。 ・地域の人々と子供たちをつなぐ取組の中で、お互いが心豊かな気持ちになる。 ・幼稚園の取組にさらに目を向けてもらうことで、関わりを持つ機会が増える。
支援者及び支援組織 ゲストティーチャー 3名		
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) ◇フラワーアレンジメントまでの流れ 数年前より年に1回フラワーアレンジメント教室を行っていたが、単発的な活動で終わってしまい、せっかくのこの活動を子供たちの感性に触れる体験にできないかと考えた。そこで普段から幼稚園に足を運んでくださる3名の方をゲストティーチャーとしてお招きした。その方々は、季節折々の花を「お庭に咲いていて綺麗だったから。」とアレンジをして届けてくれ、またその場で生けてくださることもあり、園内を華やかにしてくれている。子供たちも飾られた花を見て「ひまわりや!」「このお花おうちにも咲いてる。」などと興味を示していた。子供たちが季節の花を身近に感じたり、地域の方との交流を楽しんだりできるよう、ミニフラワーアレンジメント体験も行うことにした。 ◇取組の経過 9月初旬 依頼 10月初旬 打合せ会 職員とゲストティーチャーとで、どのように進めていくか検討する。ゲストティーチャーの皆さんから流儀にこだわらず子供たちの感性を大切にしたいという声が出た。子供たちがそれぞれの個性を出せるように少人数のグループに分けて行うことや準備の段取りが決まる。 10月14日・20日・26日・1月2日・9日・18日 ミニフラワーアレンジメント体験 6週に分けて体験を行った。実際に体験した子供たちは、周りの友達に「楽しかったよ。」などと声をかけたり、体験の様子を見学したりしたことで、まだ未体験の子供たちが「早くやりたい。」「どんなお花を使うかな。」と興味を示し、自分の順番が来るのを楽しみに待っていた。 完成したアレンジメントは、数日、園で飾った後に各家庭に持ち帰った。家庭からも「季節にあったお花で可愛らしかったです。」「玄関に飾っています。家族みんなで見られるのが良かった。」など多くの感想が届いた。 12月1日 合同作品展に展示するアレンジメントの打合せ会 12月8日 花器や花材の事前準備(職員とゲストティーチャー) 合同作品展用の花器は、各家庭で気に入っている器やカップを用意してもらった。また、材料が少し足りなかった分は保護者の方が協力してくれ、家庭から持ち寄ってくれた。 12月9日 フラワーアレンジメント教室 年長児はクリスマスイメージしたアレンジを、年少児は花で動物の顔をイメージしたアレンジメントをした。自分で作ったクリスマスの飾りをつけたり、犬や猫などそれぞれがイメージを膨らませながら動物の顔を作ったりして出来上がりに満足していた。 完成した作品を展示会場まで自分で運ぶ時には、慎重に、大事に持って行く姿が見られた。 12月10日・11日 中芳養合同作品展への展示		

	成 果	課 題
学校・園	・花の扱い方や挿し方など職員だけでは分からない専門的な部分を補ってもらえる。 ・地域の方が幼稚園に足を運んでくれることで、子供たちと直接関わる機会が増えた。	・打合せの時間や教室をお願いする際、仕事をされているなど日程の調整が難しく、十分な時間を確保しにくい。 ・年長児と年少児では出来ることに差があり、事前準備に時間がかかり、お互いに負担がかかってしまった。
*子供にとって	・身近な花や初めて見る花、木々、葉などに触れる機会が増え、感性を豊かにする活動につながる。 ・自分でアレンジした作品に思い入れがあり、大事にする気持ちが育ちつつある。 ・地域の方と一緒に活動し、優しく接してもらうことで身近に感じ、親しみを持てかかわろうとする姿が見られる。	・花の中には繊細なものが多く、力加減など扱う際には注意が必要で、はさみの使い方も定着していないと難しいところがあった。 ・親しみを持て関わろうとする姿も見られるが、恥ずかしがることも多いので、色々な場面や交流を通して人と関わる力を育て、あいさつや感謝の気持ちをしっかり持てるように取組を進めていく。
*子供にとって	・子供たちが地域の人々と一緒になって体験活動をする中で、子供たちの生活の幅を広げ、豊かな心を育むことにつながる。	・地域の人々との様々な体験を通して、目標に向けて自分で考える力や考えたことを伝える力をさらに育てていきたい。
地域（公民館）	・地域の人々が子供たちと体験することで、地域の人々にとっても創作意欲を持つことができ、自分の持つ技術力を高めることができる。 ・子供たちの様子を、地域の人々が広く知ることができ、地域の子供たちに関心を持つ良い機会となる。	・地域の人々と幼稚園との連携をさらに深めていく。 ・地域の多くの人々が関心を持っていただけるような取組や、広報活動の充実にも力を注いでいきたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向 本年度は、地域に住む3名の方にゲストティーチャーとして声をかけたところ、皆さん快く引き受けてくださった。日頃から足を運んでくれたり公民館報で園行事について知ってくれたりしている方だったため、忙しい中ではあるが、合間を縫って協力をしていただくことができています。子供たちもフラワーアレンジメントを大変楽しみにしており、ミニフラワーアレンジメント体験が終わった後も、次のグループがしているのを見て「いいな。」「次はどんなお花かな?」と興味を寄せていた。先生方は笑顔で優しく接してくれ、子供たちの作品を見て「すごいな。」「上手にできたな。」といつも褒めてくださり、子供たちも満足感・充実感を味わうことができた。基礎は教えてもらったが、その他の部分は子供の感性を大切にという先生方の意向もあり、そのおかげで制作が苦手と感じている子供も進んで取り組むことができていた。 また、合同作品展に展示したところ地域の方から多数声をかけていただいた。会場が華やかになつたり他の作品にも目を向けてもらえたりしたことで幼稚園のことに話をする機会となった。しかし、作品展については来場して下さった方にしか伝えられなかった部分もあるので、引き続き公民館報などを通して園の取組を分かりやすく紹介して行き、地域に開かれた園であるように努めていきたい。同時に職員と地域の方とのつながりを大切にしていき、継続してできる体験・交流となるよう、内容や進め方について工夫が必要だと感じている。		

講評

I はじめに

今年も田辺市から学社融合実践についての講評を依頼いただきましたが、依頼状に「去る1月17日に紀南文化会館で開催されました第2回目の『田辺市地域語り部ジュニア発表会』において、小中学校の子どもたちが、地域の歴史や文化・産業のことを、地域の方々から指導を受けながら、地域の語り部（中学生は英語）を立派に務めることができ、本当に素晴らしい学社融合の取組となりました。」とありました。一段と進歩した田辺市の学社融合の一端に触れ感動致しました。

おそらく、今回ご送付いただいた収録原稿にも、様々な感動が数多く記されていることだろうと、胸躍らせながらページをめくった次第です。

II 各学（園）区の実践の分析

1 田辺第一小学校区

田辺第一小学校が掲げた目標の一つは、「先達に学び、未知の未来を創り出す力の育成」でした。「未知の未来を創り出す力の育成」は、田辺第一小学校が、また一步、新たなステップへと足を踏み出したと感じさせる言葉でした。

「先達」とは、言うまでもなく「2017年に生誕150年を迎える、和歌山県の誇る知の巨人『南方熊楠』」のことです。南方熊楠は、田辺市にとって貴重な地域文化遺産であり、日本文化遺産とも言えるほどの価値ある存在です。このことについて、報告では「本校校区には、南方熊楠の旧居や顕彰館があり、ゆかりの場所も多い。南方熊楠の長男・長女も本校で学び、自分の身近な人が熊楠と親交があったという児童もおり、本校児童や地域にとって南方熊楠はそれほど遠い人ではなく、親しみを感じる存在となっている」と述べていますが、そこには、「それほど遠い人ではなく、親しみを感じる存在」であるべき南方熊楠を、これからも「遠い人ではなく、親しみを感じる存在」として顕彰し続けたいという思いが込められているように思います。

この思いは、「地域の方々と学校職員で構成する『熊楠学推進部』」を設け、学びの充実を図ることで具体化されています。その学びは、「熊楠学は、南方熊楠について学ぶというだけでなく、熊楠から学び、いろいろな方向に発信していくという取組である。熊楠学では、学校と地域の人々が一緒になって教育活動を創造している。さらに、3・4年生では南方熊楠の生涯に触れながら自分たちの校区について学び、5・6年生でその学びをさらに広げる。5年生は合宿で熊野本宮を訪れた際に、田辺城初代城主浅野家のお墓を訪れたり、熊野古道を歩いたりした。6年生は校区に残っている田辺城の石垣や水門などについて学習した。さらに、江戸時代に安藤直次と共に活躍した成瀬正成ゆかりの地、愛知県犬山市を修学旅行で訪れた。修学旅行前には、行き先についての事前学習を熊楠学推進部の方々の協力で行った。修学旅行終了後に訪れた地域の魅力を伝えるパンフレットを、各自作成する熊楠学の集大成として、6年の3学期には地域の方々をお招きして、パネルディスカッションによる学習成果の発表を行っている」というものです。今後、「地域の方々と学校職員で構成する『熊楠学推進部』」における学習が深まることによって、子どもたちが探求し、表現する「熊楠学」が確立していくのではないのでしょうか。

「地域には、大変熱心に学校教育活動を支援してくれる人材が多く、従来から各教科・総合

的な学習の時間・クラブ活動に、地域の方をゲストティーチャーとして招いた活動を取り入れている」そうですが、その成果は「学校職員とゲストティーチャーが、事前に授業に関しての打ち合わせを行うことで、互いの役割分担を明確にでき、より効果的な授業を展開することができた」ということであり、また「地域の大人とともに学習することで、教諭（縦）や同級生（横）との繋がりとは違う斜めの繋がりが生まれている」ということです。

新たに生まれた斜めの繋がりは、どんな未知の未来を創り出していくのか、次年度の報告が今から待ち遠しくなりません。

2 田辺第二小学校区

田辺第二小学校では、「本年度は、6年生が総合的な学習の時間に公民館や地域の方々等のご協力を得ながら、地域に出掛けて歴史学習・語り部活動に取り組んだ。その後、現地報告会を開催し、今年度の紀南文化会館の発表に向けて練習に取り組んでいる」そうで、「現地で居合わせた地域の方々に対して、実際に語り部を行い、地域の方々が知らないことも語ることができた。児童はそれが自信に繋がり、語り部の意義を確認することができた」と、田辺市が独自に行っている語り部学習の成果が大きいことが報告されています。

その一方で、「学校職員だけでは教えることができない地域の歴史を、地域の方に教えていただくことができた。職員にとっても初めて知ったことが多かった。地域の文化遺産に対する地域の方々の思いを知ることができた。打合わせを行うことで、計画的に取り組むことができた」と、語り部学習にとって学社融合の仕組みが必要不可欠であることも指摘しています。

また、「教員も地域の歴史に詳しくないため、資料の収集に苦労した」、「学習に取り掛かる前の段階から、広く地域に呼びかけて情報提供者を求めていく」、「収集できた資料の内容が難しく、児童だけで読み込むのは困難なことが多かった」「地域の歴史について、教員の研修を深めることが必要である」などと、語り部学習の深化のために、地域との融合をさらに進めて解決していくべき課題も明らかにしています。

3 田辺第三小学校区

まずは、平成28年度地域学校協働活動推進に係る文部科学大臣表彰を受賞されたとのこと、誠におめでとうございます。

田辺第三小学校区の報告には、長年、学社融合に取り組んできたことによって得られた成果が満載でした。その最たるものは「地域コーディネーター自らが、学校と調整を行い、学習支援ボランティアに連絡調整を取っており、地域主導型の学社融合事業が着実に浸透している」という記述ではないでしょうか。このことを支えるものは、学校が「西部地域学社融合推進協議会」を基盤に、「西部センターとは『天神町の教育を進める会』で、天神児童館とは「西部子どもエンパワーメント支援事業」などで、西部公民館とは、OK先生(GT)などの派遣等で」連携・協力したことではないでしょうか。

田辺第三小学校では、「各学年共、学習ボランティアの方との学習が定着し、学力向上を目標とした授業展開ができています。また経験からアドバイスいただくことで学習活動を広げ、深めることができた。児童が意欲的に取り組めるような学習内容を組み立てることで、楽しく授業を進められて」おり、「学年の授業に合わせて、学習ボランティアの方々が協力してくださることにより、児童が生き生きと学習に取り組んでいる。学習したことで得られる達成感や成就感を味わい、次の学習を楽しみに待つようになってきた。また、児童の学力が身に付いてきたことで、どの児童も満足のいく活動を味わうことができた」とのことです。また、「『家庭学習の手引き』を配布し、自主的に家庭学習に取り組めるように工夫している。また、基本的な生活

習慣の見直しに向けた『田三小 BOOK はなまるデー（ノーゲーム、ノーテレビの日：毎月13日実施）』の取組も定着し、各家庭に基本的な生活習慣を意識付ける手立てとしても良い効果が現れ、保護者から肯定的な感想も出てきている」と、学力向上のための基盤整備も進められてきたことが報告されています。

このような成果は、「昔の暮らしや遊び、俳句学習・ミシン学習など、普段馴染みのない学習の要領が、よく分かるようになってきた。その結果、指導方法にも、より効果が見られるようになってきている。授業を通しての会話や触れ合いの中から温かな人間関係が築けるようになってきた」や、「サークルの方との協働で定期的に読み聞かせ活動を行うことにより、今まで以上に本に親しみ、読み聞かせに興味を持つことができるようになった児童もいる」という記述から読み取れますが、「学力向上へのこだわり」と、「授業という場での学社融合の実践」がもたらしているのとらえられます。

田辺第三小学校区の実践は、「公民館便りや学校便り等で取組の様子や事業の報告をすることにより、町内会や老人会、各種団体等地域全体に伝わり、関係団体や学習ボランティアの方々に理解を得られ、協力をしていただけるようになってきた」ことや、「学校便りや育成会広報誌などを活用し、学校や児童の様子を広く地域の方に知らせていき、運動会には地域のお年寄りを招待し、交流種目を通して親睦を深めるような取組を進めてきた」ことによって進められた協働体制が基盤になっていますが、「学習支援ボランティアの固定化や高齢化が進み、何らかの手立てを講じていかなければならない時期である。地域コーディネーターのネットワークを当事業に取り込みながら、地域の幅広い年齢層の方々や人材発掘に力を注いでいかなければならない」という危惧する面も抱える現状にあります。

4 芳養小学校区

芳養小学校区からは、「芳養共育コミュニティ本部を学社融合の基盤とし、学校・公民館・地域・保護者が一体となって子どもを共育するための方針を話し合い、取り組みを進めて」おり、「地域の教育力を授業に取り込むために、芳養地域人材バンクという名称で、学校教育に携わってくれる方を登録するシステムをとっている。芳養地域人材バンクに登録していただいた方々を、SP（スクールパートナー）と称し、生活科や書写、総合的な学習の時間等の授業に参画していただいている」、「実践に向けては、主に学級担任とスクールパートナーが事前に打合わせを行い、学習内容や実施する際の担任・スクールパートナーの役割を確認している」、「実践したことは、『学社融合実践記録』にまとめ、活動内容を学校・公民館で把握し、次年度にも引き継いでいきやすいようにしている」と、学社融合のシステムが定着し、継承されていることが報告されています。また、「スクールパートナーの方の専門性や経験を授業で生かしてくれるので、児童の学びが深まっている。また、個人だけでなく、芳養婦人会や芳養老人会といった団体の結束力も強く、児童の人数や授業のニーズに応じて人数を調整してくれるなど、よりよい授業になるように柔軟に対応してくれる。継続して取り組む中で、児童とスクールパートナーとの間に繋がりが生まれ、放課後等もコミュニケーションの機会が増え、世代を超えた人と人との結びつきが生まれている。継続的に実践している授業は引き継がれ、実践内容の深化が見られる」という成果も報告されています。長年にわたり学社融合に取り組んできた校区ならではの安定感を感じさせる報告でした。「新たな授業の創造に向け、積極的に共育・協働について職員とスクールパートナーが話し合う場を設ける必要を感じる」という記述には、田辺市で初めて学社融合を実践した芳養小学校区ならではの意気込みを感じ、とても嬉しく思いました。

しかし、その一方では、芳養小学校区は悩んでいます。芳養地域人材バンクには「今年度3

9名の方が登録してくれている。募集は随時行っており、芳養公民館が管理している。毎年、公民館報で地域へ呼びかけたり、運動会や公民館作品展で授業の様子を写真パネルで紹介したりして、学社融合の取組を地域へ発信し、「毎年1学期に開く芳養共育コミュニティ本部会議で、登録者の確認を行っている」が、「新規登録者は少ない現状にある。登録していただいているスクールパートナーは、高齢の方が多く現状にあるため、今後も事業を続けていくためには、保護者などの若い世代のスクールパートナーの確保・育成が重要である」と記されています。

この危機的な状況は他校区の報告にも多数記載があり、田辺市の学社融合が直面している緊急な課題であると言えます。この危機に対応する手立てを生み出す研修が必要になっています。教育委員会の対応が急がれます。

5 大坊小学校区

大坊小学校区からは、クラブ活動における実践が報告されています。

まずは、「本来のクラブのねらいは、同好の児童が、所属する集団の生活を楽しく豊かなものにする意図の下に、共通の興味・関心を追求する活動を自主的、自発的に行うことであるが、本校の場合、極小規模の学校であるため、3年生以上の児童が楽しめるクラブを数種類、計画し実施している」と大坊小学校の実態に応じた創意工夫が記されています。その創意工夫は「地域の方々と連携したクラブ活動」という発想で具体化されました。田辺市らしい発想だと考えます。結果、「絵手紙・おやつ作り・フラッグフットボール」の4クラブが考え出され、「内容と講師先生を確認した後、講師先生に依頼した」とのことです。

「職員では指導できない内容について取り組むことができ、多様なクラブ活動を実施することができた」とのことですが、ねらいは「子供たちが将来、地域の後継者として活躍していけるよう自覚を促していく」にありました。実践結果、地域の方々を指導者とするクラブ活動とすることによって、「子供たちが積極的に地域の方と接することで、自分の地域のことに関心を持ち、ふるさとを愛する心を育むことが出来た」と、目標が達成されたことが記されています。

6 稲成小学校区

「共育コミュニティ本部事業」の指定を受け、「つなげよう 広げよう 稲成の「共育」！～新しい時代に向けて～」をテーマに研究実践を行っている稲成小学校区では、「①地域人材を生かした学習による『学校力』の向上、②保護者との信頼関係を基盤にした『家庭力』の向上、③ふるさと学習を通して育む『地域力』の向上」を柱に据えています。

その中の「①地域人材を生かした学習による『学校力』の向上」についてですが、「地域の教育資源・地域人材を発掘する」として、「地域人材の知識や技能を生かし、学校と協力して授業づくりを研究する」、「学習支援ボランティアさんを導入した授業作りのあり方の研究を深め、計画にしっかりと位置づける」、「学習支援ボランティア以外の各支援ボランティア（交通安全・図書館・環境）のさらなる充実を図る」などの手立てで具体化されつつあります。そこには、学校教育活動や学校の運営を、教職員の手だけでなく、地域の方々も加えて実践、経営するという考え方が示されているように思います。

平成27年12月21日に中央教育審議会から「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」という答申が出されていますが、稲成小学校区、広く言えば田辺市では、「チーム」は、すでに、答申レベルの「チーム」ではなく、その先を行く「チーム」になっているように思います。稲成小学校区での研究実践を、この視点から再構築されると面白いのではないのでしょうか。

7 会津小学校区

会津小学校が報告した実践は、

○会津さわやかコンサート【11月12日（土）】

・会津校区協議会主催、会津小学校・会津小学校育友会共催のもと、秋津・万呂両公民館の協力を得て開催する。学校・家庭・地域が一つになって、お互いの心が触れ合う時間を持ちたいという願いのもとで開かれ、今回で第9回を迎えた。参加者は小学校の児童を入れてのべ約1200名。内容は会津小学校1年生から5年生による学年別合唱、6年生による合唱・合奏、会津小学校合唱部による合唱・重唱、公民館サークル合唱、高雄中学校吹奏楽部演奏、高雄中学校吹奏楽部と会津小学校合唱部の共演、高雄中学校吹奏楽部伴奏で全員合唱（ふるさと）

○秋の総合展示会【10月29日（土）～30日（日）】

会津小学校、万呂公民館が合同で学校開放期間に合わせ、作品展を開催している。子どもたちの学習の成果とともに、公民館活動の成果を見ていただく機会を提供している。内容は子どもたちの絵画の展示、公民館サークルの文化作品展を実施

○あきづ文化祭【2月17日（金）～2月19日（日）】

秋津公民館を会場にし、文化活動の発表の場として開催。作品出展者同士の交流はもちろんだが、異世代の作品を展示することで、世代間交流のきっかけづくりをしている。また、文化祭のために作品を仕上げる方も地域には多く、開催することが学習意欲向上にも繋がっている。内容は近隣保育所年長児、小・中学校、地域団体、公民館サークルの作品展。地域の方に来場していただけるように有志でフリーマーケットや、子ども向けにおみやげを提供するコーナーも実施

というものでした。これらの実践には、「学校・家庭・地域が一つになって、お互いの心が触れ合う時間を持ちたいという願い」が一貫して込められているように思います。

評価・反省には、「各行事では、子どもたちや出演者だけでなく、参加者・運営に携わった保護者にも充実した笑顔が多く見られた。この笑顔には、行事に向けた取り組みの過程とその結果において、学校と公民館が設定した目標が達成され、やりがいを感じることができたという意味が含まれている」と記されていました。また、「学社融合の取組が無理なく持続的に発展するためには、子どもと教職員、公民館職員と公民館サークル、保護者と地域住民のそれぞれにメリットがあることが重要である。そのためには、今年度の取組を評価し、来年度に向けて改善すべき点がないか検討する必要がある。また、学校での限られた授業時間内での取組という観点からは、特に取組の効率化が必要である。他の多くの行事との兼ね合いを考慮し、各行事の実施時期や実施内容等についても検討し、計画的に行うことが大切である」と貴重な提言も記されています。「今回で第9回を迎えた」ことに起因する記述だと思われませんが、9回も続けてきた、あるいは続いてきた理由や背景も忘れてはならないと考えます。

8 新庄小学校区

新庄小学校区では、「新庄公民館・新庄幼・新庄小・新庄二小・新庄中の担当者が定期的に集まり情報交換をしながら、年に一度合同研修会を開催し、当番校が公開授業等を行い全職員が共に研修をしている」そうですが、「年に一度合同研修会を開催し、当番校が公開授業等を行い全職員が共に研修」ということは他校区でもぜひ実践してほしいと思います。

さて、新庄小学校区は、今年度は「福祉に関する調べ学習・体験学習を通して、障害者や高齢者に対する理解を深めると共に、地域の様子を知り、地域の一員としての自覚を持った、心豊かな子どもを育てる」ことに取り組みました。

3年生たちは、2学期に「新庄ウォッチング（2）～地域の公共施設を探ろう～新庄地区には、様々な公共施設があることを知り、体験を中心とした活動を通して自分たちの住む新庄地区を理解する。真寿苑を訪問し、出し物を披露したり、ゲームをしたりしてお年寄りと交流する」ことをしました。そして3学期には『昔へタイムスリップ』～昔の生活の仕方を調べ、今の生活と比べる。おじいちゃんやおばあちゃんから話を聞いたり、交流したりする中で、思いやりやいたわりの心を育てる。お年寄りや地域の人々に、むかしの生活や遊びについてのお話を聞いてまとめる」ことをしました。

4年生は、2学期に「運動会の敬老種目に参加するおじいちゃんおばあちゃんのサポートをする。また『バリアフリーな社会をめざして』～視覚聴覚障害者理解～アイマスク体験、無音体験や障害を持つ人たちから話を聞いたりすることによって、障害者の気持ちを理解し、バリアフリーな社会に向けて自分たちにできることを考える。自分たちができるバリアフリーや、地域のバリアフリーについて話し合う」を行っています。

5年では、2学期に「ともに生きる～肢体不自由者理解～障害者の方の気持ちや思いを理解し、バリアフリーな社会が大切であることに気付く。自分なりのバリアフリーが実践できる。車椅子体験をして自分たちにできることを考える」を、また6年生も2学期に「ともに生きる～高齢者・障害者とともに～高齢者が今まで社会に貢献してきたことに対し尊敬や感謝の気持ちを持ち、温かい心で接する態度を養う。知的障害者に対する理解を深め、温かい心で接する態度を養う。福祉施設を訪問し、利用している人、介護している人のことを理解し、ともに生きるということについて考える。社会福祉施設を訪問し、交流から自分たちにできることを考え実践する」ことを行っています。

報告書には残念ながら実践の様子が記されていませんが、新庄小学校区の実践の素晴らしさは、「自分たちにできることを考え実践する」ことにあると思います。「自分たちにできることを考え実践する」ことはなかなか容易ではないと思いますが、3年生では「昔へタイムスリップ→地域の公共施設を探ろう」と流れを変えることで、また4年生では運動会でのお年寄りのサポートを後に回し、「運動会の敬老種目に参加するおじいちゃんおばあちゃんのサポートをする」ために必要なことは何かを考え、「運動会当日にそれらを実践する」ということで、無理なく実践化することが可能になるのではないのでしょうか。

9 新庄第二小学校区

新庄第二小学校区では、校区の現状について、「本校校区は、他地域から移住してきた世帯が多く、昔からこの地域に住んでいる世帯は比較的少ない。そして、移住してきた世帯の多くが若い世代であり、昔からの世帯は年齢層が高い傾向が見られる。保護者の構成は、ほとんどが他地域からの世帯である」と述べています。このような地域構成になった場合、一般的には、新旧の交流の必要性や新住民の学校に対する非協力的な態度を指摘する声が多く聞かれるのですが、新庄第二小学校区においては「どの世帯も学校に対する関心はたいへん高く、協力的であるように感じる。新二まつり（文化祭）やサークル活動など、学校行事や学習活動などに、保護者だけでなく、昔からこの地域に住んでいる方々の協力も多面にわたっていて、若い世代と地域の方が協力した活動も多く見られる」という現状にあり、「したがって、地域・家庭・学校が共に子どもを育てるといった基本的な考えのもと、活動を広げていきやすい学校であり、地域であるといえる」と結論付けています。

新庄第二小学校区が新たな住民である保護者層の増加にもかかわらず、学校に対する協力的な態度が維持されているのは、「児童会を中心に、新二校区の恵まれた環境の中で学んだことを、保護者・地域の方々に向けて発信するとともに世代を超えた『ふれあい』を通し、地域に生き

る一員として、さらに新二校区を知り、校区、故郷を愛する、心情を育てる」(学校)、「子どもたちや保護者、地域の方々との交流の場であり、連帯意識を高め、地域力を高める活動にする」(公民館・地域)を目標とした「新二まつり」が大きく影響してきたと考えられます。中でも、「9月1日新二まつり実行委員会・役員部長会」、「21日職員会議」、「9月29日役員・部長会」、「10月5日職員会議」、「10月6日協力委員会」、「10月19日職員会議」と繰り返し行われる会議・協議が、「学校と地域、保護者が協力して事業を行うことにより、地域間の交流が図れ、活性化に繋がった」、「多くの保護者、地域の方々にお越しいただき、子どもたちの発表を見てもらうことができた」という成果を生み出していく上で、大きな役割を果たしてきたと考えられます。

会議・協議は、スリム化・負担軽減などの観点からその回数を減らす議論がされがちですが、上記のように会議・協議を繰り返し行うことで、「地域の方にも取組目標を理解していただき、子どもを育てていく姿勢を統一する」、「保護者、地域の方々に催し物の運営や体験活動の講師をお願いすることにより、開かれた学校として地域ぐるみで子どもを育てていく取組を実践できた」、「学校と地域、保護者が協力して事業を行うことにより、地域間の交流が図れ、活性化に繋がった」ことを忘れてはならないと考えます。

10 三栖小学校区

「昨年度より、公民館で文化展が開催されるようになり、学社融合を一步前進させる足がかりができた」、「今年度はじめて、史跡巡りのまとめの発表会に文化委員の皆さんをお招きした。『わかりやすく伝える』ということ意識しながら、発表原稿やプレゼン資料を作成。相手意識をもつことで、目標である表現力(情報をまとめ、伝える力)の向上に迫ることができた」、「発表会の最後に、文化委員さんから評価をしていただき、史跡巡りへの思いや子どもたちへのメッセージを語っていただいたことで、史跡巡りの学習の意義が子どもたちによく伝わった」という実践について、三栖小学校区では「小さな改善を加えることで、新たな気づきが生まれ、そこからまた活動が広がっていく」とまとめています。その言葉通り、今年度の実践が「事前の打ち合わせの時に、文化委員さんから『三栖風土記』(公民館作成)をもう少しわかりやすい表現にしたいが・・・というお話があった。文化委員さんの思いを繋ぎ、小学生が読める『子ども三栖風土記』を6年生が作ってみようという活動」へと広がろうとしています。

次年度には、「今年度は校区の熊野古道が世界遺産に追加登録された。長尾坂から潮見峠越を加え、史跡巡りの取組をさらに充実させるチャンスである。公民館文化委員会との連携をより深め、新しい取組や改善を図りながら三栖の史跡巡りを継続していきたい」という考え方は、「従来は梅栽培を中心とする農村地域であったが、専業農家の数は過去に比べて減少傾向にある。近年は宅地造成が進み、本校区に居を構える子育て世帯が増加、児童数も年々増加している」という三栖小学校区にとって、価値の大きい実践になるのではないのでしょうか。

11 長野小学校区

長野小学校区の本年度の実践は、

- 【1・2年生の取組】「えがおいっぱい わたしたちの長野」
- 【3・4年の取組】 「ふるさと発見！長野の梅を知ろう」
- 【5・6年の取組】 「伝えよう！ 那須与一と長野の歴史」
- 【全校の取組】 「ホタル学習」

と報告されていますが、これらの実践は、「地域から学ぶことは、地域の良さ、地域の人たちの足跡や大切にしてきたものを学ぶこととなり、地域の課題に気づかせる機会でもある。将来、

地域を支える中心となる子どもたちに、これからの自分達にできる事について考えていく機会としたい」という学校と公民館・地域の想いを重ね合わせて実践されています。「同地区内ハイキングでは、学校行事と地域行事を合同で行うという新たな形での事業展開を図ることができ、子どもたちの学習成果を知ったり、地域住民の知恵や特技を生かす場になるなど、お互いにとってよい取組となった」と、活動面での融合も進められたようで、今後の展開がとても楽しみです。

なお、栃木県民としては、「那須与一」の文言がある長野小学校区の実践に深い関心を持たざるをえません。一度お訪ねしたい思いです。

12 伏菟野小学校区

「伏菟野区・伏菟野小学校合同運動会は、閉校により今年で最後となる」。またまた、淋しい記述に触れてしまいました。

報告に「小学校の沿革史を繙くと、古くは大正9年、今から約100年も前、『川原につくった仮運動場で、区内児童青年等の連合運動会が開かれた』との記述がみられる。戦後昭和28年には、『区の有志の会合をねがって、運動会実施についての打ち合わせをする』と書かれており、このころは午後からの開催だったようで、昭和32年『10月5日、区民運動会。昼食を学校でとる、初めての試み』とある。昭和38年頃からは、区の役員さんやPTA役員による運動会に向けての奉仕作業の記述もみえる。伏菟野小学校児童の出身である秋津川保育所の参加は昭和62年から、『実行委員会』という言葉は昭和63年からで、このころから9月初めの開催となったようだ。現在と全く同じ形になってからでも、もう30年近くなる」とありました。「昭和28年には、『区の有志の会合をねがって、運動会実施についての打ち合わせをする』という記述には驚きました。「区の有志の会合をねがって」とありますから、学社融合という言葉こそ使われていませんが、昭和28年頃には学社融合が実践されていたということです。

「このような歴史ある、区と小学校が一緒になって作りあげてきた行事が、本年をもって幕を閉じる」わけですが、「区の有志の会合をねがって」という精神は新たな学校が引き継がなければならないことではないでしょうか。

13 上秋津小学校区

上秋津小学校区からは「上秋津ふれあい音楽会」の実践が報告されています。「この音楽会では小学校が中心となって地域の方々に音楽を通して元気や喜びを持ってもらおう」と行われているもので、秋津野合唱団・幼稚園・中学校・PTAコーラス・小学校が参加し、「今年で4年を経過し、地域を挙げての草の根文化行事として定着」しているそうです。神秋津小学校は「今後もさらに充実させて、地域の草の根文化活動の発展に貢献したい」としています。

報告書には、この他、「梅の観察・収穫・梅ジュース作り」、「みかん作り」、「花作り名人の指導を受けた花作り」、「育てた花を公共施設に届けること」「サツマイモの栽培」、「収穫したサツマイモを使って『秋津野ガルテン』(滞在型の農業体験学習・農家レストランなどの「地産地消」、みかん資料室の活用)のシェフの方に指導していただきながら、保護者、児童と一緒に菓子作り」などが記載されています。そして「現在の取組を継続するとともに、二年後の共育コミュニティの発表に向け、幼・小・中・公民館の連携をより密にし、カリキュラムの系統化や授業の公開等を進めていきたい」、「さまざまな地域での体験活動が、教科学習と関連づけて実践されていることを年間計画に記載していきたい」としています。歴史と伝統がある上秋津小学校区での実践が早期に系統立てられることを期待しています。

「農業体験の指導者が高齢化」、「野菜作りは、指導をお願いする人が高齢化」、「校外学習す

るみかん農園をこれからも継続してお借りできる方を見つける」、「野菜の苗植え等は、地域の老人会の方々にお願いしているが、高齢化が進んでいる」など、「今後も活動を継続できるように、次の担い手を育成していくことが求められる」という記述には、田辺市教育委員会が取り組むべき課題が示唆されているように思います。

14 秋津川小学校区

秋津川小学校区の報告には、

①秋津川音頭練習（9月15日・21日）

○公民館長から踊りの指導を受けた。町民運動会（10月2日）の終わりに参加者全員で踊って交流した。

②敬老行事への参加（10月9日）

○3～6年生が公民館長から「おるり音頭」の指導を受けた（10月5日）。地域の方の太鼓と唄に合わせて踊りを発表した。

③ふるさとまつり（11月20日）

○1・2・5時間目は地域の方にも自由に参観してもらえるように、授業を公開した。
3・4時間目は地域の方が開いているバザーで買い物をしたり、福引きをして景品をもらったりした。また、体育館で歌や炭琴との合奏を発表し、地域の方々に聴いていただいた。昼食は、秋津川婦人会の方々が作って下さった炊き込みごはんをいただいた。

④硬筆教室（毎週水曜日）

○全児童が放課後公民館で、公民館長から硬筆の指導を受けている。

と実践の数々が記され、それらについて「長年実施している事業が多いため、それぞれの事業の見直しを図るには困難なことがあるが、地域の現状に即した事業の展開を図るようにする」と今後の方向性が示されています。今後、「『事業』から『授業』への転換」を発想の原点とすることで、より良い改善策が見出せるのではないのでしょうか。

15 上芳養小学校区

「3年生から6年生まで続く一連の「梅学習」を通して、地域への理解と誇りを育むことができた」、「梅畑の提供、梅の加工指導、梅製品の検査等、この学習は多くの関係者、関係機関に支えられて成り立つ活動であり、改めて学校が地域に支えられていることを実感している」、「梅のPR活動や語り部活動に取り組むことで、地域に誇りを持ち、梅栽培の仕事についての理解が進む。このことは、後継者不足の問題を解決するための小さな糸口として期待できるのではないか」という上芳養小学校区の実践は、「今年度は地域語り部ジュニア発表会という機会を得て、課題のひとつである中学校との連携、系統性を意識したものとなった」と、田辺市での新たな取り組みである地域語り部活動の効果性を指摘しています。

また「食育の面から見ても、自分たちで作った梅干しを給食に利用したり、家庭科の調理実習に使ったりするなどして、他教科と関連させて展開させることができる。また、音楽集会などでも「梅ぼしの歌」を全校で歌ったり、給食の時間に流したりして、他の活動と発展的につなぐことができるものとなっている」と新たな展開も提示されています。

さらには、「年度当初に梅学習連絡会議を発足させ、今年度の活動について話し合うことで、お互いを知り、活動の継続が図られた点は大きかった」とした上で、「日常の学習活動について意見交流したり、年度末に反省の機会を設けたりする場が持てると、次年度にはさらに改善点が活かされていくのではないかと今後の組織的展開に対する期待も記されていました。

16 中芳養小学校区

「小学校における学社融合の取組は、平成26年度より3年間、共育コミュニティ本部事業の指定を受け、本年度は本発表を行った」とあり、平成28年11月20日（日）に行った授業の概要が書かれていました。

単元名：「中芳養のこれからについて考えよう」 第6学年

町内会長をはじめ、地域の方の協力を得ながら「中芳養のこれからについて考えよう」と設定し、子どもたちに考えをもたせるようにした。子どもたちは、自分自身の考えを分かるように伝える工夫をし、地域の方々に聞いていただいた。それを地域の方々に評価していただけたことは子どもたちの自信にもつながった。地域の特性を調べる中で、地域や保護者の皆さんにも初めての情報を伝えたり、中芳養ガイドマップを作成したりすることで児童に成就感を味わわせることができた。

単元名：「作って学んで遊ぼう」3・4学年

地域・保護者の方に授業に入っていただくことは、学習効果をあげるためには大変有意義な活動だといえる。「作って学んで遊ぼう」の単元では、児童の意欲を喚起させることができ、少ない時間の中で地域の方や保護者との交流を図りながら作品を仕上げることができた。

これらの授業実践は、「各教科・領域を通して確かな学力を育む」、「児童の学力の定着・向上を図るためにも地域の教育資源を生かしていきたい」という中芳養小学校の基本的考えから行われたと考えられます。共育コミュニティ本部事業でありながら、「授業」や「学力」にこだわりを持った実践が継続されていることをとても嬉しく思いました。さらには、「教育活動において、住民間の交流を進めたり、融和を図ったりする重要な役割を念頭において授業や学校行事に取り組んでいる」と、地域に対し学校が担う役割が認識されていることにも安心感を抱きました。

中芳養小学校区の報告には、「保護者」の文字が数多く見られました。田辺市の学社融合が保護者を担い手とする新たな段階に進んだことを思わせる記述でした。

17 田辺東部小学校区

田辺東部小学校区では、「4町内会・地域の各種団体・学校・公民館が合同で、幅広い世代の方々がふれあえるきっかけを作り、地域住民の交流を図るとともに、地域の連帯感を深める」ため、今年で9回目を迎えた「ひがしふれあい秋祭り」が行われています。「今回も昨年度に引き続き、その場で6年生が『東部っ子今昔 宝 物語』の学習発表をした」そうですが、6年生の学習は、「ひがしふれあい秋祭り」に込めた地域の願いをしっかりと受け止めたものになっています。その学習の流れは、

- ①導入・学習計画を立てる（6月）～自分たちの住む地域は、新しい住宅地であり、田辺市の中でも新しくできた町であるという特色がある。そこで、地域の今と昔を調べて、新しい町づくりに取り組んだ人々の思いや、今現在の地域の様子などを発表するという計画を立てた。
- ②インタビューの準備（9月）～各地区をよく知る方々に質問したい事を考え、インタビューの計画を立てた。お招きするゲストは公民館主事に紹介していただいた。
- ③地域の方々にインタビュー（10月）～各地区のゲストティーチャーを招いて、昔の町の様子や、新しい町作りへの願いや苦労などについて教えていただいた。

- ④調査に出かける（10月）～「花つぼみ」「ひがしコミュニティーセンター」「田辺工業高校」「西牟婁振興局」「田辺市消防本部」に調査に出かけ、それぞれの場所で説明を受けたり、質問に答えていただいたりした。
- ⑤調べた事をまとめる（10月）～インタビューや調査で分かった事を、各地区別のグループでまとめた。地域の方々の熱い思いや願いをたくさん知り、地域の魅力を「ひがしふれあい秋祭り」で多くの方々に伝えたいとの思いで、発表原稿作りに取り組んだ。
- ⑥「ひがしふれあい秋祭り」で発表（11月）これまで学習してきた地域の魅力について大勢の人の前で発表した。

この学習の結果、子どもたちは、「私は、12年間あけぼのに住んでいるけど、全然あけぼののことを知らなかったことが分かりました。よいところをたくさん知ることができて誇りに思います。私たちは、あけぼのの未来をよりよくするために、町内のみなさんと協力して造られた「あけぼの会館」を大切にしたいと考えています。また、地域の行事である廃品回収や火の用心活動、盆踊りなどに積極的に参加し、あけぼの全体で交流を深め、つながりを大切にしていきたいと考えています」という感想を残しています。

田辺東部小学校区で行われたこの学習は、地域と学校が協働する学習活動の代表的な例ではないかと思えます。教育課程の改変があっても継続してほしい、いや継続しなくてはならない学習だと考えます。なお、今後は、

- ⑦地域活動に参加～自分が住んでいる地域で行われる活動に参加し、地域住民に活動に参加した理由や、活動が果たしている役割などをインタビューする。
- ⑧私たちの今後～地域活動に参加した結果を整理し、自分たちの今後の取組について考える。を加えると良いのではないのでしょうか。

18 龍神小学校区

「子どもたちが自ら地域のためにできることは何かを考え、地域の方々ともに協力できる活動を組み込む」。「地域の方と協力しながら主体的に避難生活を送ることができる児童を育てる」。「災害時に知っている役立つ知識を体験を通して知り、自分自身の命を守ることと同時に避難してきた地域の方の命を守る」。報告に記載されたこれらの言葉は、龍神小学校区が子どもたちを地域生活の主体者としてとらえていることを示していると思えます。

この考えに基づいて3年生以上で実施した1泊2日の防災キャンプでは、①非常用持ち出し袋に入れる物（自分にとって必要な物を準備を考える）、②新聞で暖をとる方法、③簡易ランタンの作り方、④簡易トイレの作り方、⑤ロープの結び方を学んでいます。また、「配給」をキーワードに、「高齢者、障害のある人、乳幼児、病気のある人をいたわる」を観点に、食料・飲料水や寝るためのシートなどを配給しています。

「児童が学校園で育てた野菜も食事に加えた」や「2日目の朝は、学校の周りを散歩しながら自然に触れると共に防災の視点から危険箇所の確認を行った」は、日常と非日常を結ぶ活動になったのではないかと思います。

「来年度夏に実施する第3回防災キャンプには、学校・PTA・龍神公民館龍神分館の共催の防災学習会を組み入れ、地域の方にも参加していただき、子どもと高齢者がペアになって防災体験を行える活動をしていきたい」と、今後の更なる発展を構想していることも報告しています。

19 上山路小学校区

上山路小学校区が指摘する「これまで地域との交流を学社融合の柱としてきた。しかし、こ

の取組は主に高齢者学級や高齢者クラブとの交流で、保護者が入ることはなかった。実際の地域の担い手である保護者層の参加・協力による、保護者層の意識改革が課題としてあげられていた」という実態と課題は、上山路小学校区だけが抱える実態・課題ではなく、田辺市、いや全国的な実態・課題なのです。学校支援地域本部事業の推進によって高齢者を中心とした学校支援が普及され、定着してしまったのです。どこからそのようになってしまったのか、とても不思議です。

平成8年度に栃木県鹿沼市の石川小学校区で初めて学社融合を具現化しましたが、その時は学校教職員と保護者の協働を中核とした学社融合でした。約8割の保護者が学社融合の活動に参画し、学校と地域の協働を具体化していました。石川小学校区では二十年近く経った今も学社融合が活発に行われていますが、継続されている要因は学校教職員と保護者の協働を中核に据えてきたからだと考えます。ただし、石川小学校区の学社融合では、保護者は教壇に立つことではなく、学社融合の活動をコーディネートしているのです。

20 中山路小学校区

「18年目の『花の宅配』、30年目の『もちつき交流会』、5年目の『昔学習』。『花の移植や餅つきを楽しみにしている』という地域の方の声を聞くなど、花の移植や餅つき交流会等、学校が長年取り組んでいる行事が三世代交流の場となり、地域の教育力を知るとともに、地域の方の活動の場となっている」という言葉には、中山路小学校区が培ってきた学校と地域の絆の強さを感じました。

その中山路小学校区では、今年度は、「事前事後指導に加え親子がともに学習することをきっかけに、家庭での学習や地域とのつながりを深められる学社融合を目標に昔学習に取り組んだ」とのことです。この実践のキーワードは「親子がともに」であったと思われます。このような発想で実践が仕組まれた背景には、「地域住民の高齢化が進むため、地域の教育力を生かした取組を継続・発展させ、継承していく施策が必要である」との認識があったからだと思われます。「地域の教育力を生かした取組を継続・発展させ、継承していく施策」については、今回の報告に数多く見られる指摘であり、田辺市教育委員会が主導して対策を緊急に講じる必要がある課題であると考えます。

21 咲楽小学校区

◇11月7日～11日「学校に行こう！（学校開放週間）」

学校の様子を知ってもらい、地域の方から学んだり地域の方と共に学んだりする活動を通して地域住民との交流を深める。校区全戸に案内を配布するとともに、保護者と学校地域連携推進委員会、老人会には重ねて出席を呼びかけた。

①公開授業 8日（火）・9日（水）

各学級でそれぞれ国語、算数、理科、社会、生活、音楽、体育、道徳等の授業を公開し、保護者や地域の方々に参観していただいた。

②親子木工教室 9日（水）

地元の林業家である真砂典明さんを講師に木工教室を開催。3～6年生の全児童が木製カレンダーを完成。保護者や地域の方が児童を手伝う。

③昔の遊び体験 9日（水）

1・2年生は、地域にお住まいの後藤昇さんと老人会を中心とした地域の方々に来ていただき、紙鉄砲（竹細工）の製作と遊び方について教えていただいた。

④花の苗植え 10日（木）

千葉浩志さんの指導により3・4年生が育てた花の苗を、千葉さんと地域の方々にご協力をいただき、全校児童で学校の花壇やプランターに苗の植え替え作業。

これらの実践には、咲楽小学校区としての「学校は授業こそが本分」という想いが込められています。田辺市の学社融合は「授業」という場を「融合の具現化の場」として具体化が図られてきました。咲楽小学校区が掲げる「学校は授業こそが本分」は、田辺市において、学社融合を実践する上で、忘れてはならない視点なのです。

なお、今年度の報告には高齢化による新たな地域人材の確保を課題とする記述が多々あることは何度も述べていますが、咲楽小学校区の実践はその課題解決の手立ての一つとなるのではないのでしょうか。

22 中辺路小学校区

「中辺路小学校は、統合して4年目となり、広い地域の中から、ふるさと学習について、児童と地域がともに学ぶことができるものを取り上げ、中辺路ならではの内容を取捨選択しながら、学習を深める取組を行ってきた」という記述には、統合により広がった校区を持つ中辺路小学校の苦悩がにじみ出ているように感じます。

中辺路小学校区では、「校区にある地域について、各学年の学習計画と地域人材を旨く結びつけること」が大きな課題であると述べていますが、それを強く認識することが必要なのは、校区イコール地域ではないからです。中辺路小学校区では校区の広がりによって、「校区」、「地域」、「ふるさと中辺路」が一元的でなくなってしまったのです。だから、「地域の方とともに学び、地域に親しみをもつことができる」や「ふるさと中辺路に愛着を持ち、その良さ、魅力を発信することができる」といった目標を達成するには、「校区にある地域について、各学年の学習計画と地域人材を旨く結びつけること」が大きな課題となっているのです。

報告を読み、中辺路小学校区ではこのことが認識されているので、まずは一安心しました。そして、中辺路小学校区では、その課題を「地域の方々に協力していただくことにより、学校と地域の関係を密にしていく」、「学びの支援者として、地域の教育人材の発掘と学校支援の拡大に努める」ことで解決しようとしていることにも大きな安心を感じました。

なお、「地域の方との学校外での日常交流が少ない」という課題も記載されていますが、島根県津和野町では、津和野小学校に統合された旧畑迫小学校の校舎を活用し、畑迫地域の人々を担い手とする学童保育が行われています。これは、「地域の子どもを地域で育てる」という考えに基づいて意図的に行われた施策展開の所産なのです。

23 近野小学校区

「本校は児童数24名の小規模校である」と言いながらも、「区民体育祭・近野まるかじり体験・近野フェスティバル・文化祭・近野山間マラソン等を運営する」や「大きな行事だけでなく集会やクラブなど具体的な活動を通じた学校独自の取組による交流」を行っている近野小学校区には心底頭が下がります。

今年度の報告では、後者の「地域の方々との交流～集会活動を通して～」を取り上げています。「児童会が中心となり、ねらいを設定、計画を立てて取り組み、当日の運営等も行う学期に一度の大きな集会（一学期・・・七夕集会、二学期・・・クリスマス集会、三学期・・・節分集会）に、地域の方々や高齢者の方、日頃ゲストティーチャーとしてお世話になっている方々を招待し、発表を見て頂いたり、一緒にゲームをしたりして、交流する」集会活動は、「児童が企画、運営することにも大きな意義がある。また、参加して頂いた方々と直接言葉を交わしたり、活動をともにしたりでき、一番身近に交流ができる」ものだそうです。また、「地域の

高齢者の方は、季節ごとの三つの集会に参加することを楽しみにしてくれている」、「特にゲストティーチャーや日頃お世話になっている方々には、昨年の記念写真を添付した招待状を児童が作成し届けている。これを楽しみにしてくれている方も多く、参加者増にもつながっている」とのことです。学校から積極的に働きかけることが、積極的な地域の支援、教育参画を導き出していると考えられます。「高学年の児童が減少する」と苦しい実態にあるようですが、「近年他地域からUターン、Iターンする家族が増えている」とのことですので、今後も学校から積極的に働きかけることによって、それらの新たな力を学校に取り込み、高齢化が進む地域を活性化してほしいと思います。

24 鮎川小学校区

「本年度は、大塔地域共育コミュニティ本部事業の指定を受け、3年目の最後の年となった。その3年間の取組の集大成として、10月下旬に成果発表会を開催した。その発表に向けて、5月には学校に協力してくださるゲストティーチャーやコーディネーターの方々に来て頂き、昨年度の活動の反省や今年度の活動について意見交換を行った。また、詳細については、関わりのある学年の担任と綿密に打ち合わせをし、授業の展開について話し合った」という鮎川小学校区の実践は、学校と地域の協働の原点回帰とも言える行動だったと考えます。

【1年生】

- 5月10日 打ち合わせ～担任・ふれあいスクールコーディネーター・公民館職員
- 8月 3日 打ち合わせ～担任・ふれあいスクールコーディネーター・公民館職員
- 10月 6日 打ち合わせ～担任・ふれあいボランティア10名・公民館職員
- 10月25日 打ち合わせ～担任・ふれあいボランティア10名・公民館職員
- 10月30日 共育コミュニティ成果発表会「めざせ！ ぼうさいキッズ」
～担任・児童・ふれあいボランティア10名・公民館職員

【3年生】

- 9月28日 打ち合わせ～担任・ゲストティーチャー
- 10月11日 ぼうりの原料になるさといも掘り 担任・児童・ゲストティーチャー
- 10月24日 最終打ち合わせ～担任・ゲストティーチャー
- 10月24日 ぼうり作り～担任・児童・ゲストティーチャー
- 10月27日 ぼうり試食～担任・児童
- 10月30日 共育コミュニティ成果発表会「鮎川の民話・でんせつを知ろう」
～担任・児童・ゲストティーチャー・生活研究グループ・元PTA役員
- 11月4日 授業「民話を伝える人たち」～担任・児童・元PTA役員

【5年生】

- 9月12日 打ち合わせ～担任・社会福祉協議会の方々・認知症サポーターの方々
- 9月30日 打ち合わせ～担任・ゲストティーチャー
- 10月 4日 打ち合わせ～担任・ゲストティーチャー・社会福祉協議会の方々
- 10月12日 打ち合わせ～担任・ゲストティーチャー
- 10月24日 打ち合わせ～担任・ゲストティーチャー・社会福祉協議会の方々
- 10月25日 最終打ち合わせ～担任・ゲストティーチャー・いばの里職員
- 10月30日 共育コミュニティ成果発表会「福祉体験を生かして」
～担任・児童・ゲストティーチャー・いばの里職員・認知症サポーターの方々・社会福祉協議会の方々)

あえて紙面を割いて打ち合わせの記録を記載しましたが、双方共に未知の相手である学校と

地域が融合するためには、これだけの丁寧さが必要不可欠なことを改めて考えさせられたからです。その丁寧さがあったからこそ、鮎川小学校区では「ゲストティーチャーとして授業へ参画することで、住民自身の新たな学び、経験の場となっている」という地域の教育力の向上という成果を手にしたと考えます。

なお、鮎川小学校区からも、「協力者の固定化・高齢化が進んでいる。今後も活動を継続していくためには、後継者作りをいかにしていくかが課題である」、「高齢の協力者が出てきた際、学校や活動場所への移動、交通手段の確保などの問題が出てきている」という、緊急に解決しなければならない課題が指摘されています。

25 富里小学校区

宮里小学校区からも、「地域の方々との繋がりができているので、授業に参画してもらうことについては、スムーズに連携をとることができた。また、事前に来校していただき、担任と授業についての打合せを入念に行うことで、内容豊かな学習ができた」や、「現地学習については、ゲストティーチャーとの連携や現地の下見など、公民館主事や公民館長にも協力してもらい、充実した内容になった」と、学校と地域の融合には丁寧さが必要であることが報告されています。

今年度の実践は、「ふるさとの文化や自然・生活についての学習において、地域の方々に授業に参画していただくことで、学習内容を深めるとともに、地域の方々との交流を深める。また、学習の成果を地域に発信することで、地域の人々との交流を継続できるよう努める」ことをねらって行われましたが、「過疎化、少子高齢化に伴うふるさとの現状や課題、受け継いでいきたい伝統や文化について、児童なりに考えることができた」とのことです。さらには、『上野の獅子舞』の舞やお囃子を保存会の方に教えてもらう中で、祭りに向けて練習をしているところに参加する児童が数名でできたことは、児童の意識が高まった一つの現れだと考える」と、子どもたちが地域の現状に対して自分たちに何ができるかを考え、地域の主体として動き出したことが報告されています。宮里小学校区の実践の大きな成果であると考えます。

26 三里小学校区

「校区はかつて熊野川の氾濫で度重なる水害に遭っており、平成23年度の台風12号の水害も大きなものであった」という見里小学校区が取り組んだ実践は、「校区内でかつて経験した大きな水害について、地域の方からお話を伺ったり、水害現場を見学したりしながら水害の怖さや今後の防災意識を高める」ことをねらった防災学習でした。

7月12日に行われた1・2年生の「生活科地域探検」では、「学校周辺の地域探検の際、萩地区の横矢区長さんが、かつて大きな水害にあった場所や、水害対策として上り屋を設けた家を見せてくださった。また、水害時に避難する小型のボートを保管しているところなども案内してくださり、三里地区の水害の大きさや怖さを知ることができたとのこと。児童は「水害にあった時に家のものが水につからないように上り屋にもっていった話を聞いて、そんなに水が家の中まで入ってくるとは思えなかったので、怖くなりました」や、「ボートに乗って避難するとは思わなかったので、道路まですごく水が増えることがわかりました」などと感想を残しています。この実践では、「過去の水害体験を通して防災について学ぶ取組を支援するため、低学年にもよく分かるように話ができる方を紹介し、学習活動を円滑に行う手立てを行った」という公民館の支援がありました。その結果、「今後起こるかもしれない水害からの自己安全確保等の方法を学ぶことができた」という成果を手としています。地域の教育力を有効に活用した実践例であると思いました。

なお、先の水害の時に、本宮には中学生たちが自主的に災害救援を行った例があります。単元の最後にその事例を使うと、さらに効果的な学習となるのではないのでしょうか。

27 本宮小学校区

「本校は、本宮・請川・四村川の三つの小学校が統合してから11年が経過した。三校の統合により校区がさらに広がり、全児童がバス通学となり、現在児童数は、開校当時の3分の1以下になっている」という本宮小学校では、「地域学習等における学校教育の充実が難しくなってきた」そうですが、それでも「学校だけでなく家庭・地域・専門家による支援を受けながら学社融合の取組を進めている」とのことです。本宮小学校区の努力に敬意を表します。

本宮小学校区の実践を支える力は、まずは「複式になり、教職員の減少に伴い、さらに地域の方々の力をお借りしながら、学習効率を高める必要がある」という学校教職員の認識です。次は「学習パートナーとの打合せの際には、授業の内容、時間を理解していただき、授業での支援方法などよりよい授業作りを目指す」という学校教職員と地域住民の行動です。三つ目には「地域のサークルの方々は、授業支援に対して積極的に参加していただいている」という地域の教育力を取り込む本宮小学校区独自のシステムです。そして最後は音無の里共育コミュニティにおける定期的な協議です。

本宮小学校区にこのような力が備えられているのは、「学校教育に参画していただいた方々を町全体の人材バンクとして取りまとめ、充実させていく」という記述にもあるように、“保護者・地域住民の学校教育への参画”という思考が根底にあるからだと考えます。

28 東陽中学校区

「公民館施設を併設した近畿唯一の中学校」、「地域の方々も公民館長、公民館主事の働きかけに協力的で、本校生徒の健全育成に尽力していただける体制ができてきている」、「公民館の掲示板には生徒の行事への取組の様子や教科の作品等を掲示し、公民館を訪れる地域の方々に広く紹介している」、「東部・南部公民館を通して学校支援サポーターを募集」、「田辺第一小、田辺第二小、田辺東部小との連携を深めた学社融合の取組も推進」、「昨年度から、東部公民館・中部公民館・南部公民館・ひがし公民館の4館と連携を図るために、東陽中学校の学社融合を推進するための会、『東融会』を発足」、「定期的に会議をもち、効果的な取組や今後の学社融合のあり方を検討」、「さらに本年度からは学社融合推進本部会議（学校・保護者・地域・生徒の4者で意見交流をする会）を立ち上げ、学期に一度集まり、取組をすすめている」。このような東陽中学校区の報告からは、田辺市の学社融合の進化が読み取れます。

中でも、「学社融合推進本部会議（学校・保護者・地域・生徒の4者で意見交流をする会）」には、「学校・保護者・地域・生徒の4者で意見交流」というのですから、田辺市の学社融合はここまで来たのかと本当に驚きました。「学社融合推進本部会など、学校が地域や保護者、公民館とつながる場を設けることができたが、現時点では、生徒の活動に反映されているとまでは言い難い」、「生徒会担当教員が生徒の立場を代弁するという形で行われている（会議が夜のため）」という現状ですが、生徒が参画した学社融合の推進というステージを切り開かれたことは大変意義深いことだと考えます。次年度、その効果が報告されることを期待しています。

29 明洋中学校区

「明融会(学社融合推進のための3公民館主事と明洋中学校学社融合担当との会議)を母体」とした明洋中学校区の本年度の取り組みの一つは、「田辺第三小学校・明洋中学校及び西部地域の町内会が参加した大がかりな「例年と違い」、西部地域全体で取り組む合同防災訓練でした。

その実践は「西部地域の防災訓練に全校生徒が参加した。地域の方々と共に天神グラウンドに避難し、その後、中学校に戻り1・2年生は多目的ホールで和歌山高専の小池先生の講演を聴いた。また、3年生は体育館で和歌山大学の今西先生による講演を聴き、その後、簡易トイレの作成及びパーテーション作りを行った。地域からも約150名の方々が参加してくれた」というものでした。

このような実践によって「地域の方々と同じ目線で地域の防災について考えることができ、中学生は災害発生時にどのようなことをしなければいけないのかを考えるよい機会になった」といった成果を手にしたとのことですが、一方では「夏休み中の日曜日に、左記の防災訓練を行ったところ、多くの地域の方々が参加してくれたが、保護者の参加が少なかった。災害に襲われた時、最も中心になって活動してほしい保護者世代がもう少し積極的に参加できないかが課題である」とも報告されています。この課題解決のためには、明洋中学校区の学社融合の推進母体である明融会を、先の東陽中学校区が組織する東融会のように、保護者や地域住民が参画する組織へと発展させることが必要なのかもしれません。

30 高雄中学校区

「授業での学社融合で学力向上につなげる」と考える高雄中学校区では、「地域からゲストティーチャーを招聘した授業では、国語科、家庭科、美術科、保健体育科、部活動では文化部で学社融合を充実させるようにした」とのことです。

また、合同防災訓練では、「クラブ単位で避難場所に避難した後、体育館で地域の方と消防署の指導のもと、救命訓練や搬送訓練を行った。また訓練前に地域の方と一緒に避難場所の草刈りや清掃など整備作業も行った」、「昭和幼稚園やいずみ保育園の園児たちの手を引いたり、おんぶして避難場所まで移動する」ことを行ったとのこと。「今年度は校舎屋上に津波避難場所が完成したこともあり、防災教育について再考し実施した」そうですが、校舎屋上に津波避難場所が完成したことによって、「地域の方がより避難しやすくなり、今後、学校と地域のつながりを強める」必要性が高まったことを受け、防災教育・防災訓練のあり方が見直されたと考えられます。

今後の課題に、「地域とともに活動する機会が少ない」と記していますが、「これまでの活動を今後も無理なく続け」、「授業や部活動の内容を再考し、新たにゲストティーチャーを招いてそれぞれの領域に専門性を生かした授業や活動を取り入れ」ていくことで課題を解決できると思います。「各教科担当のゲストティーチャーを招いての授業を継続することや新たに専門性を身に付けた方を探すことは難しい」とも記していますが、次年度は、各教科領域で、年1回、単位時間だけでの実践をすることを目指されると良いと考えます。とにかくにも実践することが大切です。

31 新庄中学校区

新庄中学校区からの報告は、今年度もインパクトがありました。

1年では、市指定無形文化財「新庄杜氏唄」、「新庄駅未来プロジェクト」、「新庄のよさひろげ隊」の取組。2年は、防災をテーマにしたオリジナル劇を創り、文化祭で発表。3年「新庄地震学」は16年目を迎え、各教科10の班に分かれ、音楽班「オリジナル防災ソングの制作・演奏会」、技術班「防災ラジオドラマ制作による校内放送や公民館での試聴会」、英語班「外国人のための防災ガイドブック制作と配布」、理科班「プール水の浄水装置の試運転」など、新しい試みも実践された。その他には「ぼうさい未来学校」。

次々と新たな展開を見せる新庄中学校区の実践には心の底から感嘆するばかりです。報告の

最後に記された「学校外の協力者とともに進める学習は、生徒に新たな視点を与えることができるとともに、教員集団にとっても価値のあるものであった」という言葉には、学社融合と真摯に向き合っている新庄中学校区の強い心意気を感じました。

32 衣笠中学校区

衣笠中学校区での実践を理解するキーワードは、「学校が抱いている教育課題を積極的に家庭や地域の方々に伝えることで、課題を共有化」、「学校と地域が共に力を合わせ」、「子どもにとって何が大切であるかを明確に示し」、「共に子育てを行う」、「様々な人たちと交流を図る中で豊かな人間性を身につけさせる」、「学校・地域・公民館との連携」、「生徒にとって有効な活動を企画・運営」、「取組が単発的ではなく、交流が継続的」、「生まれ育った地域を愛し、地域に貢献しようとする意識や社会性、市民性」であると思います。一つ一つが極めて重みのある言葉だと考えます。

これらのことは、「防災活動等において、主体を生徒側に持ってきて、地域にとって今自分たちは何ができるか等を発信したり、働きかけられる活動をさらに進展させていく」、「美術科で行った三栖幼稚園児との共同制作『きぬがさポンチ』（1年）、『熊野古道スイーツ』（2年）も完成し、生涯学習フェスティバルで子どもたちのボランティアを募り、販売することができた」、「ニーズに応じた教育講演会・共育ミニ集会の実施」などを通じて具体化されています。

今後は、「公民館と連携し、今後とも積極的に地域、講師とのつながりを深め、生徒や学校に関心をもってくれる人をさらに増やし、有意義な体験活動を計画していきたい」、「様々なアプローチを試み、地域との関わりを増やしていきたい」と記しています。

33 上秋津中学校区

「上秋津校区協議会（事務局：上秋津中学校）は特に参加人数が多い。5月に青少年補導委員、交通指導委員、交通安全協会上秋津分会、駐在所、幼稚園、小学校、小学校指導委員、中学校、中学校生活指導部、町内会、公民館、女性の会、消防団、民生児童委員、町内会区長、高等学校保護者会、協議会顧問の76名が集まり、地域の学びを支え、子どもたちを守る活動に取り組んでいる。平成6年発足の団体『秋津野塾』を中心に、町内会・愛郷会など20以上の団体が、学校教育に協力して下さる熱心な地域である。また平成28年度より長野西原地区が新たに加わり、中学校区を広げている」という記述に心底驚きました。この支えがあるからこそ、「学校と地域がお互いに育て学びあう関係を育むため、本校では、30年以上の歴史がある『農事体験学習』を筆頭に、地域と学校が連携した取組を1年間に20以上」することも可能なのだと思いました。

『田辺ジオパーク学習』、『幼稚園・中学校かまどベンチ交流』などが、本年度新たに取り組んだ教育プログラムである」とのことですが、「学社融合の取組を通じて、幼稚園、小学校と、中学校が連携して地域に貢献していくことの理念の大切さが、教職員間で共有できた」と記しています。「幼稚園児が育て、収穫したサツマイモを、かまどベンチを用いて中学生と一緒に、蒸しパンづくりをして」という今年度の新たな取り組みによって、上秋津中学校区の実践はさらに数を増していくのではないかと推測されます。

34 秋津川中学校区

「秋津川中学校は、秋津川小学校と同じ敷地内に隣接して廊下でつながり、運動場や体育館、プール等を共用しながら学校生活を送っている。児童・生徒間でも教職員間でも交流が行われ、小中連携が進んでいる。ほとんどの生徒は、保育所から小、中学校と一緒に生活しているため、

生徒同士の人間関係もよい。また、保護者も長い年月を一緒に活動しているため連帯意識や、地域の人々も子どもたちを見守り育ていこうとする意識が強い」という記述に、しばし感慨に浸ってしまいました。というのも、私も、かつて、山間部の日光市立小来川小・中学校という名称の、小・中合築の、運営も小・中共同の学校に勤務していた経験があるからです。その学校は全てにおいて「安定」しており、非常に教育活動がやり易い環境にありましたが、一方では「変化に弱い」という課題もありました。小学校の卒業式に涙がないという学校でもありました。

さて、秋津川中学校区からは、町民運動会の実践が報告されています。「当日朝、地域の方々準備を行うが、手際よく、短時間で準備が完了する」、「開会式・閉会式は小学校教頭の進行で、生徒挨拶・体操等、生徒の活動の場が多かった」、「保育園児や小中学生の競技で盛り上がり、地区対抗種目が4種目と盛りだくさんの中味で盛大に開催された。地域からも大変多くの方々が集まっていた、楽しい笑い声いっぱいの運動会と温かい雰囲気の中で行われた」、「片付けも、地域の方々とおこない、短時間で修了し、地区が一つとなった行事であった」と、中学生の活躍により大盛会になったようです。

しかし、一方では、「町民運動会は公民館を中心に地域の方々に運営等していただけるため、生徒たちは、与えられた受身の参加意識しか持っていないように思われる。今後は、企画のマンネリ化を避ける意味からも、生徒たちから主体的にこの運動会を盛り上げようとする機会が設けられないものかと思う。それを考えさせることは、生徒たちに秋津川地域の将来を考えさせることにつながり、郷土を思う気持ちをより一層強くすることにつながるように思う」という課題も記されています。

その課題に対しては、「少子高齢、過疎が進む地域にとって、この様な交流行事が益々重要になってくる」ことから、「行事をさらに盛り上げ、マンネリ化を避けるために、子どもたちの声を取り入れたり、世代間で交流ができるような新たなイベント内容も検討してみたい」と考えているとのことですが、具体化の手立てはまだ明らかにはなっていないようです。田辺市流の学社融合の展開で課題解決を図るとしたら、やはり「授業」を通して課題解決を図ることが望ましいと思います。

35 上芳養中学校区

上芳養中学校区からは、「1・2年生で行っている職場での体験活動」が報告されました。「1年生では、上芳養地域内の梅農家で2日間の農事体験学習を行っている。2年生では、上芳養地域と田辺市内にある様々な職場で3日間の職場体験を行っている」とあります。報告書の「支援者及び支援組織」の欄に記載された「日向保育所、西尾燃料、新谷自動車、第二のぞみ園、岡自動車、大金商店、上芳養郵便局、JA紀南上芳養支所加工場、たなべる」が職場体験の場であったと思われます。中学生たちは職場体験学習を経験することで大きく変化すると言われています。それほど職場体験学習は重みのある教育活動なのです。

ところで、先日、島根県津和野町を訪問した折に、津和野町で行っている学習は、「職場体験学習」なのか、「職業体験学習」なのかという問答がありました。その時の問答をもとにすると、上芳養中学校区が掲げる「望ましい勤労観、職業観及び職業に関する知識や技能を身につけさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力、態度を育てる」という目標を達成する学習は「職業体験学習」になると思います。また「地域の課題や将来に目を向ける機会とする」や「地域内にある職場を中心に勤労体験をすることによって、地場産業に対する理解や地域に対する関心を深める」をねらった学習は「職場体験学習」であると考えられます。過疎化に苦しむ津和野町にとって必要なのは「職業体験学習」であるとのことですが、「職

場体験活動は、地域の事業所を中心に協力いただき、上芳養地区の課題や自分の将来に目を向ける機会になればと考えている」と報告書の最後に記した上芳養中学校区でも、必要なのは「職場体験学習」であると考えているということでしょうか。全市的にも、職場体験学習の目的や意義を再考する必要があるように思います。

36 中芳養中学校区

学校でつながる地域の“わ”

これは、学校を核としたコミュニティづくり、すなわちスクール・コミュニティづくりを象徴するような言葉です。中芳養中学校区では、これを「学校で学び」「家庭で育て」「地域で鍛える」という理念で実現しようとしています。その推進の母体が「中芳養地域共育コミュニティ本部」です。「本年度は、『梅勤労体験』『福祉体験学習』『中芳養夏祭り』『中芳養祭』『和の心の授業～1年生は書道、2年生は華道、3年生は茶道』など、地域との交流を通して、『豊かな心』『生きる力』の育成を目指した取組を進めている」とのことです。

報告の中に面白い記述を見つけました。「幼・小・中のPTA役員、学社融合担当、公民館主事が協力して『中芳養PRビデオ』を作成するための編集会議を持つ。それぞれが分担してビデオ撮影をする」というものです。出来上がったPRビデオは、11月20日に行われた「中芳養共育コミュニティ本部事業研究発表会」で上映したそうです。発表会では「幼・小・中全員での『歌』発表」も行われたとのことです。中芳養地域共育コミュニティ本部が有効に機能している様子がうかがい知れます。

37 龍神中学校区

龍神中学校区の今年の報告には、「田んぼアート（米づくり）」という文言がありました。「田んぼアート」と「米づくり」の二つの言葉を順次に結び付けることができず、時折テレビを騒がすミステリーサークルなのかと思ってしまいました。それは、「田んぼアート実行委員会」による「龍神村大熊地区に伝わる『出合のカップ』という昔話をもとに『温泉マーク』と『カップ』、『牛』を描く」ものでした。しかし、そう分かった段階でも、実りの時期にその形に稲を刈り取るとばかり思っていました。報告を読み進めて、ようやく理解できました。「うるち米と古代米（2種類・餅米）を図柄に沿って植えていく」とあったからです。「田んぼアート」は半年にも及ぶ壮大な実践だったのです。子どもたちに夢を抱かせる素晴らしい実践であると思います。

38 中辺路中学校区

「NAKAHECHI」をつなげよう！

これは、中辺路中学校区の、学校と地域の協働を進めるための合言葉なのではないでしょうか。この言葉のもと、今年度、中辺路中学校区が取り組んだ実践は、

地域から受け継ぐ 全校生徒が清姫音頭を教わる…9 / 11

3年が女性会と交流し地域の食材で調理実習…10 / 7

地域に学ぶ 1・2年が花ボランティアから教わる…年6回程度

地域にかえす 全校生徒が校内で育てた花の苗を配布・全校生徒が森林ボランティア

地域との交流 子育てサークルとふれあい体験・1年グラウンドゴルフ

地域のために サマーボランティアへの参加

というものでした。中辺路中学校区では、学校と地域との協働が体系的に整理され、多様な協働が展開されていることが一目でわかりました。中辺路中学校区の実践は、田辺市の学社融合

が、すでに、各校（園）区における実践を体系化し、全市的にもその全体像を明らかにしていく段階に来ていることを示唆していると思いました。

39 近野中学校区

近野中学校区の報告に、「生徒数が少なくなっている中、学校と地域住民が連携した体験学習を行って、地域全体で子どもを育てる学習を進めていくことが重要となっている」と思いながらも、「総合的な学習の時間が少なくなるなかで、米作りの時間を確保するのが難しくなっている」、「天候に左右されることが多く、予定通りに実施できないことがある」、「生徒数・職員数が少ない中、今のままでの実施は難しくなってくる」という現状に悩んでいる様子が記されていました。さらには、「行事の精選や中身の検討が必要になっている」とは思いながらも、「伝統的に学校と地域の連携が密であり、協力的である」が故に、簡単には精選、すなわちスリム化できないという苦悩も記されていました。学校と地域が膝を交え、本音で語り合うべき時期に来ていると思います。

40 大塔中学校区

大塔中学校区の特色の一つが小・中一貫教育です。「中学3年生が小学生や地域の方とともに地域の清掃をするリフレッシュ大作戦を企画・運営していく」「リフレッシュ大作戦」がその代表例で、「自然豊かなふるさと大塔のよさを今後も守り続けていくため、大塔地区の最高学年である小学9年生として、中学3年生が企画、運営している。昨年度より区長会への協力依頼等を行い、地域との連携をこれまで以上に強めて実施した。今年度も居住地を中心に縦割りで各地区に振り分け、地域の方と共にゴミを拾った」という活動になっています。

このような活動を通し、中学3年生は「小学校から続けている活動ではあるが、初めてリーダーとして計画し、当日は運営や安全面でも神経を使い、無事に終わることが出来た時にはよりいっそう意義を実感することができていた。自分たちはこの活動は今年で終わりだが、今後きれいな大塔を守り続けたいという気持ちをこれまで以上に感じ、活動を続けてもらいたいという願いを抱いたようである。1・2年生も、次は自分たちが計画するのだという自覚を持って3年生をサポートしている」と、子どもたちが地域のリーダーとして育てられています。その結果、「大塔夏祭りに企画段階から参加。企画・運営していく苦勞を知るとともに、それに関わることのやりがいを実感することが出来た」、「地域の夏祭りイベントの実行委員会への参画も良い経験となった。」と、積極的に地域で活躍する中学生が、そして中学生を地域を担う主体者として受け入れる大塔中学校区が造られて行っています。素晴らしい実践だと思えます。

41 本宮中学校区

「共育コミュニティ音無では、子どもたちが地域の多くの方々と交流し、多様な体験や経験を積み重ねることで、規範意識やコミュニケーション能力、ひいては確かな学力の向上を図ると共に、地域の活性化にも貢献できるよう、学校・家庭・地域が一体となった教育活動の充実を目指している」とのことです。そして、この目標を、「学習支援」「ふるさとづくり」「保育園・小学校・中学校連携」の分野別に具体化を図り、「学校支援ボランティア等の協力を得ながら、地域と一体となった活動を進めて」います。

実践例として「合気道 全学年・体育科・武道」が記載されていました。「昨年からは体育科の武道は合気道を行っている。2年目ということで1年生のみ講義を実施した。2、3年生は実技を中心に指導して頂いたので、昨年度よりも充実した内容になった。また、講義や授業の実施に向けての事前の連絡や打合せ等を通して、地域の方とのコミュニケーションを図ることが

でき、信頼関係を深めることができた」と報告しています。

また、「昨年度の取組で協力してくれる方を増やすことのできたミシンボランティアについては、昨年のつながりを生かし、今年度も家庭科の授業に関わって頂いた。昨年来て頂いた地域の方が今年度も引き続き参加して下さりミシンだけでなく手縫いについての指導にも関わってくれるなど、活動を広げることができた」と新たな展開も報告されています。

山間部の地域であるため、教職員の数も、地域人材の数も専門性も限られている中、地域の教育資源を有効活用している本宮中学校区の取り組みに改めて敬意を表します。

42 新庄幼稚園区

「おまつりごっこ」という活動報告ですが、その実態は「地域の方々約100名が園に来てくれた」というもので、果たして「ごっこ」なのか、すでに地域の「おまつり」化しているのではないかと、読後に長い時間が経た今も、頭には疑問符が残っています。

その「おまつりごっこ」は、実に素晴らしい実践です。『音みつけ、音あそび』から『手作り楽器制作』、そして『手作り楽器を使った合奏』へと、『おまつりごっこ』に向けて遊びを展開したこと、普段の制作遊び『作って遊ぼう』から制作した物をお店屋さんで使ったこと、また『おみこし』や『お店屋さん』では、何が必要で、どのように作っていくかをグループの年長児を中心に話し合い、お互いのイメージを共有し、身近な材料を使って協力しながら作っていった」と、園で行われる様々な活動の成果を集大成し、総合化して実施しています。新庄幼稚園の先生方の教育力の高さに脱帽です。

43 三栖幼稚園区

「13:30 地震発生 職員の指示のもと、机の下に身を隠すなど頭を守る。揺れがおさまり、防災頭巾をかぶって園庭に避難。中学3年生の生徒が園児を迎えに来てくれ、手をつないで校舎3階図書室に素早く避難」。これは9月27日行われた衣笠中学校との合同避難訓練の様子です。この実践は三栖幼稚園区にとって「事前の打合せなどを通じ、目的意識や課題を共有し、それぞれの立場で何ができるか、どのような対応をすればよいかを考えることができ、表面的な部分だけでなく、内面や側面にも成果を感じる取組となった」、「危機管理に限らず、各種取組において、目的意識や課題を共有し、目的達成や課題解消のためにそれぞれの立場でなにができるかを考えられるようになる」と記されています。

三栖幼稚園区には、衣笠中学校との協働という大きな特色があります。その協働は「日頃の何気ないかわりを大事にしながら、保育と授業のコラボレーションを計画・実践」するものです。そしてその基本には「日頃のつながりを大事に進め、お互い気にかけて関係性をつくっていくこと」があると記しています。学校と地域の協働においてもこの関係性が重要なのだと改めて思いました。

44 上秋津幼稚園区

ケアセンターお達者倶楽部(上秋津の里)訪問について、上秋津幼稚園区は、「原進一氏というコーディネーターの存在のおかげで、この上秋津地区安心ネットワーク活動に参加し、発展することが出来た。」「お互いにメリットのある関係ができ、コーディネーターの原進一さんのおかげで、活動に対する負担感も少なく、継続してできる活動内容になっている」と記しています。“たった一人、されど、全てはたった一人から始まる”ということだと思えます。

「今回の訪問では、園児たちは喜んでもらいたいと張り切りながらも、自分の存在そのものを喜んでくれる高齢者のまなざしの中で、素直に気持ちを出して、のびのびと遊べた。高齢者

は、お世話したいという園児の気持ちを汲んで受け止めながら温かく活動を楽しんで下さった。施設では、いつもは、静まった雰囲気時間が過ぎているようである。子どもたちが訪問して明るい声が響き渡る、この時間が高齢者にも良いのだと職員の方が話して下さった。「よく、幼稚園児のパワーに元気をもらおうと聞かすが、今回の活動を通して、園児は体全体まるごとで相手の懐に自分をゆだねられるという能力があることに気がついた。高齢者にも、園児に思いやりの気持ちで関わることで、自己肯定観が生まれるとの話も聞いた」。実に素晴らしい実践だったと思います。

報告に記された「自分を大切に感じてくれる人との出会いは、幼児にとっても自尊感情が育つかけがえのない時間」という言葉は、幼児に限ったことではないと思いました。そして我々は、子どもたちのためにも、自分のためにも、「自分を大切に感じてくれる人との出会い」を求め続けなければならないと思ったのでした。

45 中芳養幼稚園区

「普段から幼稚園に足を運んでくださる3名の方」。「季節折々の花を『お庭に咲いていて綺麗だったから』とアレンジをして届けてくれ、またその場で生けてくださる」。その方々の想いは「子供たちが季節の花を身近に感じたり、地域の方との交流を楽しんだりできるように」。「子供たちも飾られた花を見て『ひまわりや！』『このお花おうちにも咲いてる』などと興味を示していた」。中芳養幼稚園区の今年度の実践「ミニフラワーアレンジメント体験」はこのような日常の中から生まれました。

「ゲストティーチャーの皆さんから流儀にこだわらず子供たちの感性を大切にしたい」。それに応えるために「子供たちがそれぞれの個性を出せるように少人数のグループに分けて行う」ことにした。互いが持つ専門性を突き合わせて導き出した結論、これこそ、学社融合論で大切にしている「子どもを育てる方向の共有化」です。今年度の実践「ミニフラワーアレンジメント体験」が大成功したのも、この出発点があったからだと思います。

Ⅲ おわりに

45の実践を読み終え、押し寄せてくる感動に押し潰されてしまいそうです。それぞれの校(園)区の実践が鮮明な映像となって、途絶えることなく頭の中を駆け巡っています。

仕事柄、全国の実践事例を数多く分析していますが、田辺市の校(園)区の実践を取り上げても、今回の報告内容、報告量だけでも、たった一つの事例で、レポートならば数十枚は書くことができ、講演・研修ならば数時間は話すことができます。それほどまでに、田辺市の実践は優れたものであり、それらをまとめたこの報告書はリアリティに富んでいるのです。一つ一つの実践を精読するならば、誰もが同じ感慨に浸れると思います。

今年度の報告は、久々に新鮮さを感じました。新たな事例が多かったこともありますが、伝統的に行われている活動についても新たな視点から分析されていたからだと思います。校(園)区の実践を総括される担当の方が変わられたからなのではないでしょうか。それとも、全市的な規模で学社融合への再考が進められたからなのではないでしょうか。いずれにしても田辺市に、新たに何かが始まっていると感じられました。

今年度の変化の一つは、さらに多くの校(園)区に、学社融合を推進する組織が整備されたことです。二つ目はその組織を通じ他者の実践が見え、自校(園)区の実践を振り返ることができたことです。三つ目はその組織が機能し出し、例えば小学校と中学校、幼稚園と中学校のコラボが促進されたことです。四つ目は他者とのコラボによりそれぞれに校(園)区に新たな視点が加味されたことです。これらの変化が今年度の実践に新鮮さをもたらしているのかもしれ

ません。

さて、今後ですが、各校（園）区の実践については先に個々に述べましたので、ここではこの報告書の改善点を提案したいと思います。その一つは報告から「本校」の言葉を無くすことです。活動の主体が学校だけではないからです。「本校」という言葉を使わずに実践記録をまとめようとするならば、報告を書く行為が学社融合を再考する行為へと変質すると思います。二つ目は現在の「支援者・支援組織」の欄を、「校（園）区の推進組織」「支援者・支援組織」の二つに分けると良いと思います。

ここ数年、田辺市を訪問する機会を得ることができていませんが、この報告書を読ませて頂く機会を与えて頂いていることで、田辺市の変化を継続して見る事ができています。しかし、やはり現場第一です。今年こそ田辺市へと思っています。 (2017.03.13)